

講義要綱



- 各科目の講義要綱は、授業日数（各期6日間）を前提に執筆されています。
- 講義要綱には、絶版もしくは品切れとなった参考書も記載してあります。これは、「その参考書が学習上有益である。」と担当者が判断したものです。可能な範囲で図書館などで捜して学習することを勧めます。
- 講義要綱記載の指定テキストは、変更になる場合があります。『ニューズレター慶應通信』6月号同封の「テキスト・参考文献購入の手引」の配布を受けてから購入してください。
- 開講科目の中には、授業時間外にパソコンの使用を想定しているものがあります。その場合は、担当教員より授業時に指示があります。

1 総合教育科目

3分野科目／人文科学分野

科目	哲学	2単位
担当	文学部教授 柏端達也 / 講師 木下頌子	

「言語」は古くから哲学の最重要トピックの一つであった。この講義では、「言語」をめぐるどのような哲学的観点がありうるのかを紹介し、言語哲学におけるいくつかの具体的な議論を検討する。

柏端の担当する前半部分では、人間にとって言語がもつ役割について広く概説を行なう。そこでは、文や名辞の働きや作用といったすぐれて言語哲学的な側面よりも、どちらかといえば、行為としての言語使用の側面に光があてられることになる。

木下が担当する後半部分では、自然種名の意味や指示の問題を取りあげる。「水」や「虎」といった自然種名は、固有名と並び、つねに哲学に対して重要な問題を生じさせてきた。木下は、その具体的な問題の一つを、科学哲学のテーマとも関係する視点から、受講者とともに検討する。

講義の全体を通じて、現代の言語哲学のアプローチの包括的な姿をできるだけ描ければと思っている。

- 〔第1回〕 導入（記号と意味、そして言語の役割）
- 〔第2回〕 言葉を使って何かを為すこと
- 〔第3回〕 オースティンの観点
- 〔第4回〕 言語とコミュニケーション
- 〔第5回〕 グライスの理論
- 〔第6回〕 種名の意味と指示
- 〔第7回〕 クーンと通約（共約）不可能性の問題
- 〔第8回〕 パトナムと指示の因果説（1）
- 〔第9回〕 パトナムと指示の因果説（2）
- 〔第10回〕 指示の因果説の問題

- 〔第11回〕 通約（共約）不可能性の問題まとめ
- 〔第12回〕 全体の総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・柏端達也『コミュニケーションの哲学入門』（慶應義塾大学出版会、2016年）
- ・W. G. ライカン（荒磯敏文・川口由起子・鈴木生郎・峯島宏次訳）『言語哲学——入門から中級まで』（勁草書房、2005年）
- ・H. パトナム（野本和幸・中川大・三上勝生・金子洋之訳）『理性・真理・歴史——内在的實在論の展開』（法政大学出版局、1994年）

◆成績評価方法

- 最終日の試験による。

科目	論理学	2単位
担当	講師 佐藤有理 / 講師 西牟田祐樹	

この講義は、現代論理学の入門コースです。現代論理学は、しばしば記号論理学とも呼ばれ、形式言語・人工言語を導入した上で、推論 (inference) あるいは論証 (argument) について分析を行います。特にこの講義では、古典論理 (Classical Logic) のうち命題論理 (Propositional Logic) と呼ばれる論理学の中で最も基礎となるシステムにおいて、意味論 (真理表) と証明論 (自然演繹) それぞれの観点から、正しい推論を誤った推論から区別する原理的な方法を学びます。

ただし、現代論理学を学ぶ上で、論理を形式理論と

しだけみなす必要はありません。われわれの日常的な場面と結びつけ、具体例を交えながら理解を深めていくことも可能です。講義では、そのためのサポートも行いたいと思っています。

現代論理学を学ぶということは、なにかを暗記する作業ではなく、これまで出会ったことのない未知の問題にも適用できるようなある種の一般的な考え方や手続きを身につけることです。そのためには、わからないところがあれば、どこがわからないのかをはっきりさせ、そのつど疑問点を解消していく必要があります。論理学の授業は、そのような学習のスキルを身につける格好の機会になります。

〔第1回〕 インフォーマルな推論の分析

〔第2回〕 日本語文の記号化／命題論理の形式言語

〔第3～5回〕 命題論理の意味論（真理表）

〔第6～10回〕 命題論理の証明論（自然演繹）

〔第11回〕 述語論理入門

〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト

・プリントを適宜配布します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義中に問題演習を行うので、ノートを用意することをお薦めします。受講上の前提条件はありません。特別な事前知識は仮定していません。

◆成績評価方法

最終日に実施される非論述式の記述試験（論理の問題を解くことが求められます）の得点を基に評価します。

科目 倫理学

2 単位

担当 講師 圓増 文

この授業では、おもに「幸福とはどのような状態か」、「道徳的であることと幸福であることはいかに関係するのか」、「何をもって平等とみなすのか」、「自由とは何か」、「道徳的であるとはどのようなことか」といった問題をめぐる近現代の倫理学の代表的な学説や議論を紹介していきます。また、現代社会における倫理的な課題を可能な限り取り上げていきます。また時間・受講者数に応じて授業中にディスカッションを行います。

〔第1回〕 イントロダクション、幸福をめぐる思想・議論

〔第2回〕 幸福をめぐる思想・議論

〔第3回〕 社会と正義、平等をめぐる思想・議論

〔第4回〕 社会と正義、平等をめぐる思想・議論

〔第5回〕 社会と正義、平等をめぐる思想・議論

〔第6回〕 善悪、道徳をめぐる思想・議論

〔第7回〕 善悪、道徳をめぐる思想・議論

〔第8回〕 善悪、道徳をめぐる思想・議論

〔第9回〕 自由をめぐる思想・議論

〔第10回〕 自由をめぐる思想・議論

〔第11回〕 自由をめぐる思想・議論

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・柘植尚則編著『入門・倫理学の歴史—24人の思想家』（梓出版社、2016年）、ISBN 978-4-87262-038-2

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業中実施するディスカッションに積極的に参加できること。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 芸術（美術）

2 単位

担当 講師 國本学史

本講義は、通史的に日本美術史を概観する。特に古代から近世に至る時代における日本美術を中心に歴史を辿る。この時代、日本は諸外国の影響を受けつつも、独自の文化・芸術を発展させて行った。歴史的な流れとともに様々な芸術作品を見ることで、日本独特の美意識や文化の深層を探る端緒としたい。

◆講義方法

講義では画像を多く用いて、視覚的に分かりやすく解説する。対象は、絵画・彫刻・工芸・建築等、幅広い領域にわたり、多くの作品を歴史の流れに沿って考察する。

◆到達目標・目的

美術における表現・デザインを学ぶことで芸術が生成された背景を探り、履修者が知識・教養を会得して、即物的利益性や金銭を基準とした価値観とは異なる、「歴史・文化・芸術」的な価値とは何であるのか、という個々の見識を得られるような内容としたい。

◆講義計画

〔第1回〕 はじめに、日本美術のあけぼの

〔第2回〕 祭祀と美術

〔第3回〕 仏教伝来と美術

〔第4回〕 国の形成と美術

〔第5回〕 国家事業と美術

〔第6回〕 海外交流と美術

〔第7回〕 密教と美術

〔第8回〕 王朝文学と美術

〔第9回〕 極楽浄土と美術

〔第10回〕 武家社会と美術

〔第11回〕 文化の多様性と美術

〔第12回〕 様々な担い手と美術、まとめ

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・辻惟雄監修『カラー版日本美術史〔増補新装版〕』（美術出版社、2003年）

・『日本美術全集』全24巻+別巻2巻（講談社、1990～94年）他

全集等の参考文献は購入の必要はないが、図書館等を活用して、各自で参照されたい。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

・高等学校で履修する日本史の基礎知識があると、理解の手助けになる。ただし、知識がなくとも、講義を理解できるように解説する。

・パワーポイントスライド映写時には教室を暗くするため、受講者の必要に応じて手元ライト等を準備されたい。

◆成績評価方法

・平常点、及び講義の際に課す小テスト（合計3回程

- を予定)の成績等をもって評価する。当該の小テストは、講義時間内に実施する。
- ・講義初日に、小テストの日程等を通知予定。

科目 芸術 (音楽)

2 単位

担当 講師 藤井孝一

音楽と社会

西洋音楽の歴史は、欧米社会の変化と不可分の関係にあります。読み解かれるべきテキストとしての音楽作品と、コンテクスト、すなわち音楽作品が成立し受容された社会背景の双方を併せて考察すること無しには、作品を十分に理解したとは言えません。この講義では、音楽作品それ自体と、その作品が成立し、演奏され、受容された時代背景を併せて考察することを通して、音楽作品を理解するための幅広い教養を養い、同時に歴史的な視点を身につけることを目標とします。西洋音楽の諸ジャンルや作品の受容、パトロネージュの変化・変遷を、西欧社会の変化と関連づけて考察します。視聴覚教材を用い、できるだけ多くの作品を(疑似)体験していただきながら授業を進めます。

初回により詳細なシラバスを配布しますが、概ね下記のトピックスを予定しています。

- 〔第1回〕 西洋音楽史の時代区分
- 〔第2回〕 中世・ルネサンス期：教会音楽と世俗音楽
- 〔第3回〕 バロック期：宮廷文化とオペラ、バレエ
- 〔第4回〕 バロック期～古典派：啓蒙専制君主と音楽家達
- 〔第5回〕 バロック期～古典派：公開演奏会の成立
- 〔第6回〕 古典派～ロマン派：オーケストラの拡大
- 〔第7回〕 古典派～ロマン派：市民社会とピアノ
- 〔第8回〕 古典派～ロマン派：ナショナリズムと音楽
- 〔第9回〕 近代：音楽のモダニズム
- 〔第10回〕 近代：大衆文化と音楽
- 〔第11回〕 近代：音楽と政治
- 〔第12回〕 総括：試験

◆テキスト

特に指定しません。レジュメ・資料は、毎回プリントとして配布し、PowerPoint／Keynoteを用い映写します。

◆参考文献

- ・久保田慶一他『はじめての音楽史—古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで〔増補改訂版〕』(音楽之友社、1996年／2009年) ISBN4276110106／978-4276110106
- ・既に何らかの音楽事典や音楽史概説の書籍を所有している学生は、改めて購入の必要はありません。その他、初回に基本的なリファレンスの一覧を配布し、講義中にも適宜指示します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講を制限するものでもなく、成績評価に直接影響するものでもありませんが、講義内容をよりよく理解するためにも、簡単な譜例が理解できる程度の楽典の基礎知識があることが望ましいです。(成績評価には楽典の知識、技能は一切影響しません。)

また、たとえ「耳障り」で「難解」な音楽であっても、アカデミックかつ真摯な態度で作品に接してくれ

ること、大人数であっても積極的にクラスに参加してくれることを期待しています。

受講にあたって予習をしておきたいという学生の方は、任意の音楽史の概説書のバロック時代以降、第二次世界大戦以前に関する各章に目を通していただくと良いでしょう。また、高校の「世界史」の教科書、参考書などで、近代西洋史について基礎的な文献を一読しておくこともお勧めします。

時間の制限上、講義中に鑑賞できる作品の数はどうしても限られてきます。講義の中で言及する作品については、講義の中で鑑賞するか否かにかかわらず、キャンパス内でのみ利用可能な音楽配信サービス(Naxos)のプレイリストを用意する予定です。講義の空き時間などを活用し利用してください。(スマートフォン／タブレット端末での利用は不可。Mac／WindowsのPCのみでの利用となります。)利用に際しては、キャンパス内のITサイトを利用するアカウント (ITCアカウント、有料)が必要となります。このサービスを利用するか否かは試験など成績評価には直接影響しません。あくまで向学心旺盛な学生諸君の予復習への対応が目的です。

◆成績評価方法

最終日に授業内試験を行います(持込可)。リスニング問題を含む論述問題3～5題の出題を予定しています。詳細は初回に説明し、授業内でも随時指示します。

科目 歴史 (日本史)

2 単位

担当 文学部教授 浅見雅一

16世紀半ばに日本にキリスト教が伝えられてから禁教の時代を経て江戸幕府による「鎖国」に至るまでの約1世紀をキリシタン時代と呼びます。この講義では、この時代の対外関係を概観してみたいと思います。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 大航海時代と日本
- 〔第3回〕 ザビエルの日本布教
- 〔第4回〕 ポルトガルとマカオ
- 〔第5回〕 巡察師ヴァリニャーノ
- 〔第6回〕 伴天連追放令
- 〔第7回〕 キリシタン時代の長崎
- 〔第8回〕 日本人聖職者の養成問題
- 〔第9回〕 キリシタンの文化
- 〔第10回〕 江戸幕府の禁教政策
- 〔第11回〕 島原の乱と「鎖国」
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・浅見雅一『日本史特殊Ⅱ—キリシタン史—』(通信テキスト)

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 歴史 (西洋史)

2 単位

担当 講師 舟橋倫子

現在、ヨーロッパはテロ・移民・ポピュリズム・分

断といった様々な問題に直面しています。「ヨーロッパ」とは何でしょうか。それは多様な共同体の総体とであり、統合と分裂が相互に結合している世界です。ヨーロッパはその黎明期から今日に至るまで全体として一つの閉じた宇宙であったことはありません。矛盾と分裂を抱えつつ、止まることなく絶えず自らの領域モデルを抜け出して発展し、他者との対話によって新たな姿を目指して変化し続けてきました。この特有のダイナミズムこそがヨーロッパの本質です。この講義では、文化的・地理的概念としての「ヨーロッパ」が生み出され、形成されてゆく過程の全体像を古代から近代までを対象として検討してゆきます。

- 〔第一日〕 ①地中海世界：他者とはなにか ②ローマ帝国：分裂と統合
 〔第二日〕 ③キリスト教の世界：時間・空間概念 ④共同体の形成
 〔第三日〕 ⑤ヨーロッパの拡大 ⑥ネットワークの形成
 〔第四日〕 ⑦宗教改革：矛盾と分裂 ⑧「新しい」発見
 〔第五日〕 ⑨「近代性」の概念 ⑩植民地
 〔第六日〕 ⑪ヨーロッパの多様性と統合：総括 ⑫試験

◆テキスト

プリントを適宜配布します。

◆参考文献

- ・服部良久／南川高志／山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史「古代・中世」』（ミネルヴァ書房、2006年）
- ・小山哲／上垣豊／山田史郎／杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史「近現代」』（ミネルヴァ書房、2011年）
- ・J・ル＝ゴフ著、池田健二・菅沼潤訳『中世とは何か』（藤原書店、2005年）
- ・J-L. フランドラン・M. モンタナリー編、宮原信・北代美和子監訳『食の歴史』（藤原書店、2006年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

高等学校で履修する程度の世界史の知識があることを前提として講義を進めます。

◆成績評価方法

最終日に試験を行います。配布プリントと自筆ノートは持ち込み可とします。

科目 文学 A

2単位

担当 文学部教授 高橋 勇

「英詩の読みかた」と題して、近代以降のイギリス詩がどのような「かたち」をしているかを学び、詩を詩として読むために必要な基礎知識を身につけます。

イギリスを含むヨーロッパでは、長らく「詩」が最重要な文学ジャンルの一つとして君臨していました。それにも拘らず、詩とは何か難解でつまらないものと受け取られがちです。しかしこの抵抗は、知識と慣れによって大部分は乗り越えられるものです。

本講義では、現在ではなかなか捉えにくいその重要性を、前半は詩形、後半はジャンルに着目することで理解し、今後活かしていくための準備をしていきます。扱う対象は（担当者の専門を反映して）イギリス詩ですが、広くヨーロッパ近代詩、あるいは東洋のそれと

の相違に興味を持つ方にも資するでしょう。

〔第1回〕 「詩」とは何か／「詩」と文法

〔第2回〕 詩形（1）ソネット

〔第3回〕 詩形（2）ヒロイック・カプレット

〔第4回〕 詩形（3）ブランク・ヴァース

〔第5回〕 詩形（4）スタンザ詩

〔第6回〕 詩形（5）バラッド

〔第7回〕 ジャンル（1）哀歌

〔第8回〕 ジャンル（2）牧歌

〔第9回〕 ジャンル（3）頌歌

〔第10回〕 ジャンル（4）叙事詩

〔第11回〕 ジャンル（5）ロマンス

〔第12回〕 まとめと確認

〔その他〕 課題・レポート、小テスト

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・斎藤勇『英詩概論』改訂増補版、研究社出版、2000年、ISBN978-4327471095
- ・平井正穂『イギリス名詩選』岩波文庫、1990年、ISBN 978-4003227312
- ・亀井俊介・杏掛良彦『名詩名訳ものがたり 異郷の調べ』岩波書店、2005年、ISBN 978-4000022637

◆受講上の要望または受講上の前提条件

一般の英語文献をある程度読める、また正しく発音できること。できなくとも受講は可能ですが、少々理解しづらくなると思われます。

また配布テキストにはできるだけ事前に目を通してきてください。

◆成績評価方法

毎回の小テスト（40％）と最終日の試験（60％）による。

科目 文学 B

2単位

担当 文学部教授 桑川麻里生

18世紀から19世紀に生きたドイツの詩人ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテは、しばしば「最後のヨーロッパ詩人」と言われる。19世紀後半以降も「ヨーロッパ文学」はもちろん存続し、多くの優れた詩人が生まれているが、なぜゲーテが「最後」なのだろうか。本講座では、「文学とは何か」という問いを正面に据え、ホメーロス、ウェルギリウスから中世の詩人たちやダンテ、シェイクスピアを経て、ゲーテに流れ込んだ「ヨーロッパ文学」を総体として理解することを試みる。いわば、「ゲーテを通して見たヨーロッパ文学史」ということになるだろう。

〔第1回〕 「文学」とは何か（1）—文明の総体として
 〔第2回〕 「文学」とは何か（2）—Humanismusのために

〔第3回〕 ゲーテにとっての「文学」（1）—「古典」ということ

〔第4回〕 ゲーテにとっての「文学」（2）—「詩」と「学問」

〔第5回〕 ゲーテとホメーロス（1）—『イーリアス』

〔第6回〕 ゲーテとホメーロス（2）—『オデュッセイア』

- 〔第7回〕 ゲーテとウェルギリウス（1）―『アエネーイス』
- 〔第8回〕 ゲーテとウェルギリウス（2）―牧歌、アルカディア
- 〔第9回〕 ゲーテとダンテ（1）―ウェルギリウス
- 〔第10回〕 ゲーテとダンテ（2）―救済、女性的なるもの
- 〔第11回〕 ゲーテとシェイクスピア（1）―疾風怒濤から『ヴィルヘルム・マイスター』へ
- 〔第12回〕 ゲーテとシェイクスピア（2）―「崇高」ということ・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

多種多様になりますので、教室で指示いたします。

◆成績評価方法

平常点と最終日の試験による。

科目 身体知 ―創造的コミュニケーションと言語―

2単位

担当 法学部教授 横山千晶

「5 教養研究センター設置講座」（129頁）を参照してください。

3分野科目／社会科学分野

科目 法学（憲法を含む）

2単位

担当 講師 神野 潔

本講義では、①一般教養としての「法学」、②リーガル・プロフェッションを育成するその導入としての「法学」という二つを重視する。①としては、裁判員制度の定着や憲法改正問題など、一般市民の法に対する理解力が問われる社会的背景を踏まえ、現在日本国憲法を取り巻いている課題に引き付けて、社会生活をおくる上で必要な法的知識を提供していきたい。②としては、今後実定法を学んでいくその前提として、法の基礎的かつ全体的な構造を理解すると同時に、法解釈学の根幹となる思考力を身に付けられるようにしていきたい。また、法学の最も初歩的な疑問であり、同時に究極的な到達点でもある「法とは何か」という問いに対して、各自が各自なりの解答を用意できるようにすることも、本講義の目標としておきたい。

- 〔第1回〕 法学を学ぶ意義
- 〔第2回〕 近代法学史の整理①（自然法学、歴史法学）
- 〔第3回〕 近代法学史の整理②（概念法学、自由法学）
- 〔第4回〕 法の存在形式―成文法①（憲法）
- 〔第5回〕 法の存在形式―成文法②（法律、条例）
- 〔第6回〕 法の存在形式―不文法（慣習法、判例法、条理）
- 〔第7回〕 法の分類①（公法、私法、社会法）
- 〔第8回〕 法の分類②（継受法と固有法）
- 〔第8回〕 法の分類③（実体法と手続法）
- 〔第10回〕 法の解釈
- 〔第11回〕 法の効力
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

『ポケット六法』（有斐閣）・『デイリー六法』（三省堂）など、小型六法を一冊持参するようにしてください。

◆成績評価方法

講義最終日に行う筆記試験（100点）で評価する。

科目 政治学

2単位

担当 講師 芝田秀幹

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。また、現実が生じている政治的な諸問題についても随時言及し、それらを解決するための「ヒント」を学問的見地から提供したい。

- 〔第1回〕 開講オリエンテーション：「居酒屋政治談義」を越えて
- 〔第2回〕 政治
- 〔第3回〕 政治学
- 〔第4回〕 政治権力
- 〔第5回〕 政治体制
- 〔第6回〕 政治過程
- 〔第7回〕 選挙
- 〔第8回〕 政党
- 〔第9回〕 官僚制
- 〔第10回〕 マスメディア
- 〔第11回〕 地方自治
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

講義の中で随時紹介する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

「政治」について議論することと、「政治学」について議論することとは必ずしも同じではない。あくまで、学問としての「政治学」の研究成果を学ぶのだ、という意識で授業に臨んでもらいたい。

◆成績評価方法 最終日の試験による。

科目 経済学

2単位

担当 講師 北條陽子

本講義は、経済学の基礎知識を学ぶための科目です。経済学には大きく分けてミクロ経済学とマクロ経済学とがあり、それぞれの入門的な内容を解説します。

経済学部を受講生には、今後専門的な内容や応用分野を学んでいくために不可欠となる土台作りを、他学部を受講生には、経済学的な考え方に触れて経済学に興味を持って頂くことを目標としています。

- 〔第1回〕 はじめに・市場について
- 〔第2回〕 需要と供給
- 〔第3回〕 需要の価格弾力性
- 〔第4回〕 消費者行動と生産者行動
- 〔第5回〕 市場メカニズムの効率性と限界
- 〔第6回〕 国民経済計算
- 〔第7回〕 物価の変動
- 〔第8回〕 マクロ経済における需要と供給
- 〔第9回〕 財市場―乗数効果
- 〔第10回〕 貨幣市場
- 〔第11回〕 財政政策と金融政策
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・伊藤元重『入門経済学〔第4版〕』（日本評論社、2015年）
- ・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ篇〔第3版〕』（東洋経済新報社、2013年）
- ・塩澤修平・北條陽子『基礎から学ぶミクロ経済学』（新世社、2010年）
- ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門〔第5版〕』（有斐閣、2016年）

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 社会心理学

2単位

担当 講師 高橋 直

人間関係が形成される仕組みとはどのようなものでしょうか。この授業では社会心理学的な知見にもとづき、私たちが何気なく経験している人間関係を、個人レベル・小集団レベル・社会レベルの3段階の「社会と個人の関わり」を通して理解することを目的としています。具体的には、社会行動の基礎としての個人レベルの人間関係の特徴を学んだ上で、「説得」「態度変容」といった小集団および社会レベルの相互作用の観点を理解することを目指します。

- 〔第1回〕 オリエンテーション
- 〔第2回〕 社会行動の動機 1
- 〔第3回〕 社会行動の動機 2
- 〔第4回〕 社会行動の動機 3
- 〔第5回〕 他者の理解 1
- 〔第6回〕 他者の理解 2
- 〔第7回〕 他者の影響
- 〔第8回〕 他者に示す自己
- 〔第9回〕 説得と態度変容 1
- 〔第10回〕 説得と態度変容 2
- 〔第11回〕 説得と態度変容 3
- 〔第12回〕 総括
- 〔その他〕 課題・小レポート

◆テキスト

- ・小川一夫編著『新・くらしの社会心理学』（福村出版、

1995年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

本授業では、課題に関して考え記述し学生さん同士で話し合うというプロセスを取り入れます。学生のみさんの積極的な参加を期待しています。

◆成績評価方法

授業内に実施する小レポート課題の内容と出席点および最終日に実施する試験によって総合的に評価します。

科目 社会科学概論

2単位

担当 講師 畑本裕介

この講義は、受講生がこれから専門的な社会科学各分野の理論を習得していく際に前提となる共通了解事項と考えられるものを取り上げます。社会科学ならどの分野にも共通するために確認しておく必要があるものの、専門分野の研究に打ち込んでいるとつい見失ってしまいがちな知識があります。この講義で取り上げるのはそうした知識です。よって、すぐに各分野の研究に応用できるものでもありません。しかし、どれも社会科学の最新の知見ですので、皆さんの知的好奇心を刺激するものだと思います。

- 〔第1回〕 オリエンテーション／社会科学の不確実さについて①
- 〔第2回〕 社会科学の不確実さについて②
- 〔第3回〕 社会科学の方法論論争：KKV論争について
- 〔第4回〕 社会科学の客観性①：ウェーバーの客観性論文
- 〔第5回〕 社会科学の客観性②：ローティとポパー
- 〔第6回〕 グループワーク（例年の時事的テーマ）
- 〔第7回〕 社会科学の対象としての行為①：方法論的個人主義と方法論的集合主義
- 〔第8回〕 社会科学の対象としての行為②：システムとエージェンシ
- 〔第9回〕 功利主義批判と公共哲学の展開①：ロールズ、ノージック
- 〔第10回〕 功利主義批判と公共哲学の展開②：セン
- 〔第11回〕 社会科学の新潮流：グローバリゼーションとフェミニズム
- 〔第12回〕 まとめと知識の確認

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特にありません。

◆成績評価方法

毎回出席を取り、出席態度と最終日に行うテストの点から総合的に評価を行う（出席状況6割、テスト4割）。

科目 社会科学特論

2単位

担当 講師 梅原秀元

本講義では、19世紀後半から20世紀前半にかけてのドイツをフィールドとして、科学と社会との関係を

考える。まず、第1回目と第2回目の講義でオリエンティールングを行うとともに、対象とする時期のドイツの歴史を概観する。第3回目では、科学と社会について本講義でどのような視角から検討するのかを提示する。さらに、対象とする時期のドイツにおいて、学問研究のための場—大学と大学外研究組織—がどのように確立していったのかを検討する。第4回目から第10回目の講義では、おもにドイツの医学・衛生学を例に、科学と社会との関係を具体的に検討する。第11回目の講義では、それまでの講義の内容を振り返って、議論を総括し、第12回目に、講義の内容に即した試験を行う。

ドイツにおける科学と社会との相互関係を俯瞰するとともに、具体的な事例（医学・衛生学）を通して科学と社会の相互関係について検討することが、本講義の狙いである。

〔第1回・第2回〕 オリエンティールングと講義内容の概観；19世紀～20世紀のドイツ史概観

〔第3回〕 科学と社会—有用な知識・役に立つ学問—19世紀～20世紀前半のドイツにおける学問研究の場（大学と大学外研究組織）

〔第4回・第5回〕 19世紀後半から20世紀初頭のドイツにおける医学と公衆衛生

〔第6回〕 人口と優生学をめぐって

〔第7回・第8回〕 第一次世界大戦とドイツの医療・医学

〔第9回・第10回〕 治療と絶滅 ナチスドイツと医学

〔第11回・第12回〕 総括および試験

◆テキスト

とくになし。

◆参考文献

下記に挙げる文献は、購入の必要はない。しかし、もし公立図書館などでの閲覧・貸出によって手に取ることができれば、本講義の理解にプラスとなろう。

1) 本講義が対象とする時期のドイツ史の基本的な外観として、

・矢野久／アンゼラム・ファウスト『ドイツ社会史』（有斐閣コンパクト、2001年）が有益である。

2) 19世紀から20世紀のヨーロッパにおける医学・衛生学の展開について、

・Willian Bynum『医学の歴史』（鈴木晃仁・鈴木実佳訳）（丸善出版（サイエンス・パレットシリーズ）、2015年）がコンパクトかつ的確に示している。

3) 19～20世紀における科学と社会の関係について、

・廣重徹『科学の社会史』（上下巻）（岩波現代文庫、2003年）（絶版中）

4) とくにナチス期のドイツの医学・衛生学について 本講義の後半部分の理解の助けとなるが、価格が非常に高いか、絶版になっており、購入は極めて難しい。したがって、慶應義塾の図書館や公立の図書館などでの利用を強くすすめる。

・エルンスト・クレー『第三帝国と安楽死：生きるに値しない生命の抹殺』（松下正明監訳）（批評社、1999年）

・Ch. ブロス／G. アリ編『人間の価値 1918年から1945年までのドイツの医学』（林功三訳）（風行社、1993年）

・アレキサンダー・ミッチャーリッヒ／フレート・ミールケ編『人間性なき医学：ナチスと人体実験』（金森誠也・安藤勉訳）（星雲社、2001年）

・ベンノ・ミュラー＝ヒル『ホロコーストの科学：ナチの精神科医たち』（南光進一郎監訳）（岩波書店、1993年）

・カール＝ビンディング／アルフレート＝ホッペ『「生きるに値しない命」とは誰のことか：ナチス安楽死思想の原典を読む』（森下直貴・佐野誠訳）（窓社、2001年）

・ヒュー G. ギャラファー『ナチスドイツと障害者「安楽死」計画』（長瀬修訳）（現代書館、1996年）

・木畑和子「民族の『健康』を目指して—第三帝国の保健衛生行政」川越修・矢野久編『ナチズムのなかの20世紀』（柏書房、2002年）所収

・木畑和子「第二次世界大戦下における『安楽死』問題」井上茂子他共編著『1939 ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』（同文館、1989年）所収

・川越修『社会国家の生成：20世紀社会とナチズム』（岩波書店、2004年）

上記の参考文献以外にも、講義において適宜示す。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

とくに必要とされる前提条件は無い。ただし、ドイツの19世紀末から20世紀にかけての歴史を題材とするので、これについて多少なりとも知識があるとよい。受講者は、たとえば、高校の世界史の教科書などのでいいので、19～20世紀のヨーロッパ史についてみておくとい。第12回目に行われる試験は、講義内容に即したものである。受講する学生はまず講義に耳を傾けてほしい。また、わからない部分があれば、講義の途中で質問してほしい。

◆成績評価方法

最終日に試験を行い、それによって成績評価を行う。

科目 地理学

2単位

担当 講師 大島英幹

地理学の方法論は、個々の地理要素の法則を学ぶ「系統地理（人文地理学・自然地理学）」と、個々の地域の具体事例を学ぶ「地誌」に大別されます。本講義では「東京—極集中問題」や「地域創生」を取り上げることで、人口集積や地域経済に関する人文地理学と、東京の地誌を学びます。その上で、RESAS（地域経済分析システム）や資料を使って地域の問題を分析して地域創生策を提案したり、街歩きを踏まえ東京の都市問題の原因を分析し解決策を提案したりできるようにします。

〔第1回〕 授業の概要説明、人文地理学の方法、人口集積のしくみ

〔第2回〕 俺ら東京さ行くだ

〔第3回〕 「地方消滅」論争

〔第4回〕 RESASによる地域創生

〔第5回〕 東京の都市開発

〔第6回〕 三田・麻布街歩き（六本木一丁目駅～三田

キャンパス)

〔第7回〕 課題発表 (①②のいずれか。①RESASや資料を使って市区町村の問題点と解決策、期待される効果を整理。②街歩きを踏まえて東京の都市問題の原因と解決策を整理。)

〔第8回〕 課題発表

〔第9回〕 課題発表

〔第10回〕 課題発表

〔第11回〕 課題発表

〔第12回〕 課題発表

〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・時事通信社編『全論点 人口急減と自治体消滅』(時事通信社、2015年)
- ・日経ビッグデータ『RESASの教科書』(日経BP社、2016年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

せっかく全国(全世界)からみなさんが集まるスクーリングなので、普段のテキスト学習ではできないことをします。第4回はRESAS分析の講師実演、第6回は三田・麻布街歩き、第7～14回は個人または3人以下のグループで5分間の課題発表をします。

◆成績評価方法

課題発表により評価します。

科目 環境学入門

2単位

コーディネーター・法学部准教授 金谷信宏

担当 経済学部准教授 大平 哲 / 法学部教授 小林宏充

法学部准教授 青木淳一 / 法学部准教授 杉本憲彦

名誉教授 秋山豊子 / 名誉教授 六車 明

環境問題には環境法などを扱う法学や、経済発展との関わりで経済学などの文系科目だけでなく、大気や水などの物理的な動きを解明する物理学や、環境変化の生物への影響を扱う生物学などの理系科目も関わっています。

この講義は、20世紀終盤から問題になりはじめて現在も継続中の環境問題である、循環型社会、生物多様性、温暖化対策について学際的な知識や多様な視点を

身につけることを目的としています。そのために、文系科目である法学の視点で、これらの環境問題に関する法律の成立過程や意義を、経済学の視点で、これらの法律や自然科学の知識に基づいた経済活動などを解説するだけでなく、理系科目である生物学の視点で、生物多様性の成り立ちや温暖化の影響、生態系での物質循環を、物理学の視点で、地球温暖化の仕組み、エネルギー資源の問題、ゴミのリサイクルなどを解説します。

〔第1回〕 イントロダクション (六車)

〔第2回〕 物理学からみた温暖化の原因と現状(杉本)

〔第3回〕 生物学からみた温暖化対策 (秋山)

〔第4回〕 生物学からみた循環型社会 (秋山)

〔第5回〕 物理学からみた循環型社会 (小林)

〔第6回〕 物理学からみた温暖化対策 (小林)

〔第7回〕 法学からみた循環型社会・生物多様性・温暖化対策 (青木) ①

〔第8回〕 法学からみた循環型社会・生物多様性・温暖化対策 (青木) ②

〔第9回〕 経済学からみた循環型社会・生物多様性・温暖化対策 (大平) ①

〔第10回〕 経済学からみた循環型社会・生物多様性・温暖化対策 (大平) ②

〔第11回〕 生物学からみた生物多様性 (金谷)

〔第12回〕 総括 (六車)

〔その他〕 小テスト

◆テキスト

- ・『法学・経済学・自然科学から考える環境問題』著者：青木淳一・秋山豊子・大平哲・金谷信宏・小林宏充・杉本憲彦・六車明、慶應義塾出版会、2017年8月刊行、ISBN 978-4-7664-2446-1
プリントを適宜配布する。

◆参考文献

インターネット上の資料を紹介することもあるので、各自でインターネットにアクセスできることが望ましい。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

環境問題に興味を持っている学生の受講を希望します。文系学生でも理解できるように平易に解説します。

◆成績評価方法

毎回行う小テストによる。追試は行わない。

3分野科目／自然科学分野**科目 統計学**

2単位

担当 講師 溝下雅子

『統計学』は、大量のデータの中に存在する法則性を扱う分析手法である。急速に情報化が進化した現代社会においては、多種多様かつ大量なデータを処理し、選別する能力が以前にも増して望まれている。『統計学』において学習する方法論は、自然科学、社会科学、人文科学といった学問分野だけでなく、企業経営や行政などの実務においても広く取り入れられているものである。

本講義では、データの収集、分析、結論の導出といったプロセスをたどりながら、『統計学』の役割や主要な概念、基本的な分析手法について学習する予定である。また、履修者が簡単なデータ解析の手法を習得できるよう、幅広い応用例を紹介しながら、講義だけでなく問題演習なども行う。

〔第1回〕 統計分析の必要性

〔第2回〕 分布の特性値：平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、変動係数の性質および計算方法

〔第3回〕 確率

〔第4回〕 確率変数と確率分布 I：確率関数と確率密

- 度関数、平均と標準偏差
- 〔第5回〕 確率変数と確率分布Ⅱ：二項分布、ポアソン分布
- 〔第6回〕 確率変数と確率分布Ⅲ：正規分布、確率変数の標準化、標準正規分布表
- 〔第7回〕 標本平均の分布、中心極限定理
- 〔第8回〕 母数の推定：母平均の推定(1)
- 〔第9回〕 母数の推定：母平均の推定(2)
- 〔第10回〕 仮説検定：仮説検定の考え方、平均値に関する検定
- 〔第11回〕 回帰分析：単純回帰分析、最小二乗法
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・篠崎信雄・竹内秀一『統計解析入門 第2版』(サイエンス社、2009年)
- ・岩田暁一『経済分析のための統計的方法』(東洋経済新報社、1983年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

1. 微分積分、確率の初歩的知識を身に付けていること。
2. 統計学の初学者を対象とするが、短期間で数多くの内容を取り上げるため、統計学(テキスト科目)レポートの既習者が望ましい。
3. 毎回の講義と期末試験時にはルートの計算ができる電卓を持参すること。ただし試験時は通信機能付の電卓や関数電卓の使用は不可。

◆成績評価方法

出席状況および最終日の試験による。

科目 数学(微分・積分)

2単位

担当 経済学部教授 宮崎直哉 / 商学部教授 安田公美

1 変数関数の微分法と積分法の基本を学びます。

- 〔第1回〕 実数と関数
- 〔第2回〕 微係数と導関数(1)
- 〔第3回〕 微係数と導関数(2)
- 〔第4回〕 微分の計算(1)
- 〔第5回〕 微分の計算(2)
- 〔第6回〕 総括と試験
- 〔第7回〕 導関数と不定積分
- 〔第8回〕 簡単な不定積分の計算方法
- 〔第9回〕 定積分
- 〔第10回〕 部分積分
- 〔第11回〕 置換積分
- 〔第12回〕 総括と試験

◆テキスト

- ・日比野雄嗣『ステップアップ 微分積分学』(培風館、2015年)、ISBN 9784563004958

◆成績評価方法

授業の出席状況と2回の試験の得点による。

科目 心理学(知覚・認知)

2単位

担当 文学部教授 皆川泰代 / 法学部専任講師 田谷修一郎

心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くのの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析を思い起こすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部なのです。心理学は人間や動物の行動を科学的に研究することで「心」を理解しようとしてきました。そして行動を個体と環境との相互作用として捉えようとしています。

ここでは、心理学では心をどのように理解しようとしてきたか、心理学の方法について解説した後に、個体がいかに環境から情報を得て行動しているのか、知覚、認知を中心に講義します。VTRなどAV資料を使って具体的に理解できるようにここがけまします。

- 〔第1回〕 知覚
- 〔第2回〕 知覚
- 〔第3回〕 知覚
- 〔第4回〕 知覚
- 〔第5回〕 知覚
- 〔第6回〕 知覚
- 〔第7回〕 記憶1：短期記憶、記憶のモデル
- 〔第8回〕 記憶2：長期記憶、記憶法
- 〔第9回〕 言語の心理学
- 〔第10回〕 感情の心理学
- 〔第11回〕 認知の生涯発達
- 〔第12回〕 認知心理学の統括と試験
- 〔その他〕 小テスト

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

心理学を学んだことがないことを前提に講義します。講義の中で、簡単な実験、実習、小レポートを課することがあります。積極的な受講態度を望みます。

◆成績評価方法

評価は出席点2割、試験8割で行います。

科目 心理学(行動・個性)

2単位

担当 経済学部教授 中野泰志 / 理工学部教授 高山 緑

心理学は人間や動物の純粋な経験(現象)を整理し、その働き(機能)や意味を明らかにし、さらにその背景にあるメカニズム(機序)を探求する学問です。その究極の目的は、人間と動物の「こころ」(行動)の理解と予測であり、個々の豊かな生活(Quality of Life: QOL)を保障し、過ごしやすい社会を形成するための知見を科学的に究明していくことです。

私達人間を含め、生物にはそれぞれ個性があり、同じ状況下でも、それぞれが異なる行動をすることがあります。そして、それぞれがユニークでかけがえのない存在です。本講義では、それぞれの個性や行動がどのように形成され、発達・変容していくのかについて概観します。

前半では、人間を含めた動物の行動の変容について解説します。前半では、人間の多様な個性について、

感情と知能（知的能力）の側面を中心に解説します。

〔授業の概要〕

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 行動変容の理論1：レスポナント条件づけ

〔第3回〕 行動変容の理論2：オペラント条件づけ

〔第4回〕 行動理論の臨床への応用

〔第5回〕 行動理論の教育への応用

〔第6回〕 前半のまとめと試験

〔第7回〕 感情（1）

〔第8回〕 感情（2）

〔第9回〕 知能（1）

〔第10回〕 知能（2）

〔第11回〕 モチベーション

〔第12回〕 後半のまとめと試験

◆テキスト

講義中に使用するスライドの一部を印刷配布します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業内で、簡単な実習やデモンストレーションを行いますので、原則として、毎回、出席できる方の履修を期待します。授業内で実施した実習等の内容をまとめる作業等を宿題として課す場合もありますので、ご了承ください。講義の際に、事例紹介等を行います。講義で知り得た情報をソーシャルネットワークサービス等に投稿しないようにしてください。

◆成績評価方法

毎回の講義の中で実施するリアクションペーパーと出席状況、試験の成績により総合的に評価します。

科目 地学

2単位

担当 講師 杵島正洋 / 講師 松本直記

私たちの身の回りの世界である地球や宇宙について理解を深める。地球の概観や構造、プレート運動がもたらす地震や火山噴火、地球の歴史と地下資源、大気循環と気象、海洋と気候変動、太陽系天体の運行とその素顔、星や銀河や宇宙の姿など、対象は広範囲に及ぶ。授業では画像や動画を多用することで、理解の助けとしたい。

〔第1回〕 イントロダクション・地球の概観と内部構造

〔第2回〕 火山活動・地形の変遷

〔第3回〕 火山活動・地形の変遷

〔第4回〕 地球と生命の歴史（前半）

〔第5回〕 地球と生命の歴史（後半）

〔第6回〕 海洋・海水の循環と気候変動

〔第7回〕 大気圏の構造と大気循環

〔第8回〕 風と雨・天気移り変わり

〔第9回〕 天体の運行・太陽系天体の姿

〔第10回〕 星の明るさと性質・星の一生

〔第11回〕 銀河と宇宙

〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・杵島正洋・松本直記・左巻健男編著『新しい高校地学の教科書』（講談社ブルーバックス、2006年）

◆成績評価方法

最終日の試験による。ただし出席状況が芳しくない場合は、試験成績が良くても不合格になることもある。

科目 自然科学概論

2単位

法学部准教授 杉本憲彦 / 商学部教授 松浦 壮

商学部特任准教授 フラキ, アントニノ

担当

医学部准教授 三井隆久 / 医学部助教 寺沢和洋

経済学部助教 木村太郎 / 講師 三角樹弘

自然現象や技術の自然科学的な理解について、物理学の様々な分野から学ぶことが目的です。各講師が自分の専門分野に関連するテーマについて、基礎的なところから解説するオムニバス形式で講義を行います。以下のテーマを予定しています。

〔第1回・2回〕 地球の物理

力学と熱の基本法則について解説し、その応用例として様々な地球上の現象を紹介します。地球の風や海流がなぜ作り出されるのか、地震や津波を引き起こす大陸の移動はどうして起こるのか、など、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

〔第3回・4回〕 電磁波と光

静電気力や磁力など電磁気現象は、化学結合を担う力の源であり、生命現象を含め世界の多様性を織りなしている。また、物質の性質であるばかりでなく、空間の性質でもあり、電磁気力は電磁波として空間を伝搬する。ここでは、電磁気力、波の性質、電磁波や光の性質、光の伝搬や色が生じる理由について説明する。

〔第5回・6回〕 放射線物理学

2011年3月11日の震災以降、「放射線」は専門家だけの関心事ではなくなりました。「放射線」にまつわる基本的な事項から被曝の測定・評価方法と具体的な事例、情報の取り方について解説します。

〔第7回〕 量子力学

量子力学と聞くと非日常の代名詞であるかのような印象を受ける方が多いかもしれませんが、みなさんが思う以上に我々の日常に深く関わっています。本講義では我々の身の回りの現象を通じて基本的な考え方を紹介し、量子力学を身近に感じてもらうことを目指します。

〔第8回〕 Energy and Japan

この講義では、自然におけるエネルギーの役割を記述するために必要な幾つかの基礎的な概念を紹介する。さらに世界や日本におけるエネルギー問題に対し、その概念を用い定量的に議論する。

〔第9回・10回〕 素粒子物理学

「物質の基本的な構成要素は何か?そしてどのように振る舞うのか?」という素朴な疑問に挑むのが素粒子物理学です。この講義では量子力学と特殊相対論の基本からスタートして、素粒子レベルの小さな世界では粒子の生成や消滅という日常では考えられない現象が起きることや、我々が当然のように受け入れている物の「質量」が相転移によって「出現」することを説明します。ヒッグス粒子やニュートリノなど、よく耳にする事項についても触れる予定です。

〔第11回・12回〕 一般相対性理論

現代の重力理論は「一般相対性理論」と呼ばれます。難しいと思われ勝ちなこの理論ですが、その基本的なアイデアはとてもシンプルです。本講義では、一般相対性理論を支える考え方を基礎から順番にお話し、物質によって歪む時間や空間を眺めていきます。また、ブラックホールやビッグバンなど、一般相対性理論に関係の深い宇宙の話題にも触れる予定です。

◆テキスト

プリントを適宜配布します。

◆参考文献

特に指定しませんが、必要に応じて示します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

過去に物理を学んでいたかどうかは、履修の必要条件ではありません。新しい考え方を理解するのは困難なことです。すぐに全てがわからないかもしれませんが、積極的に取り組んでもらえれば、次第に基本的内容の理解が進み、物理的な考え方でもできるようになると期待しています。

◆成績評価方法

出席点および各回の最後に行う小テストの成績によって評価します。

科目 情報処理

2単位

担当 講師 辻 将悟

この科目では、Microsoft Officeアプリケーションを使って文書処理、表計算、プレゼンテーションを中心に、情報を扱う基本的なスキルを身につけることはもちろんですが、日進月歩で進化する情報処理技術に対応できるように、自ら調べ・考えながら課題を解決していける力を養うことをより大事にしていきます。さらに、著名な講師陣による講演を題材として、ネットリテラシーやソーシャルメディア、知的財産権など、今必要な情報リテラシーについても考えていきます。

〔第1回〕 -オリエンテーション

-Microsoft Officeアプリケーションの特徴
-Microsoft Wordを使った文書処理の基本

〔第2回〕 -第1回の続き

-図や表の作成など
-課題

〔第3回〕 -情報リテラシー（1）

-ネットリテラシー、ソーシャルメディア、知的財産権などについて

〔第4回〕 -第3回の続き

-レポート課題

〔第5回〕 -Microsoft Excelを使った表計算の基本

〔第6回〕 -第5回の続き

-フィルタ、条件付き書式、関数など

〔第7回〕 -第6回の続き

-フィルタ、条件付き書式、関数など
-課題

〔第8回〕 -第7回の続き

-グラフの作成など
-課題

〔第9回〕 -情報リテラシー（2）

-ネットリテラシー、ソーシャルメディア、知的財産権などについて

〔第10回〕 -第9回の続き

-レポート課題

〔第11回〕 -Microsoft Power Pointを使ったプレゼンテーションの基本

〔第12回〕 -総括

◆テキスト

指定しない。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義で作成したファイルを保存するため、各自USBメモリを持参、またはオンラインストレージサービスのアカウントを事前に取得しておいてください。

◆成績評価方法

課題の提出・達成状況、及び最終日の試験による。

実験スクーリング

——実験スクーリング受講上の注意——

- ① 実験スクーリングを受講する人は、できるだけ事前にテキストを読んでいることが望めます。
- ② 2007年度までに1単位あるいは2単位の実験スクーリングに合格している人は、同一科目の実験スクーリングは受講できません。

科目 物理学実験 A

1単位

物理学実験 B

1単位

担当 経済学部教授 青木健一郎 / 法学部教授 小林宏充
法学部教授 下村 裕 / 法学部准教授 杉本憲彦
商学部教授 新田宗土 / 商学部教授 松浦 壮
医学部准教授 三井隆久

実験内容と目的

物理学においては実験によって、自然の構造に関する我々の理解が正しいものであるか否かを検証すること、および物理量を可能な限り精度良く測定することが重要です。この科目「物理学実験」の目的は、物理

学を履修する諸君が直接実験を経験することによって、実験の重要性和その楽しさを自ら発見する機会を提供することです。

本実験では、比較的簡単な実験装置で自然の構造の本質に触れることができるテーマを用意してありますので、これまで実験に馴染みの少なかった人でも十分に実験を行うことができるものと思われます。また実験のテキストを参照しながら2人1組になって実験を行うことになっています。わからない点は互いに議論しながら作業をすることが可能であり、そのことによってより理解が深まるはずで、期間中に行った実験の中から、各人が興味を惹かれるテーマを拾い出し

それをより深く理解することを目指して、改めて物理学の教科書を手にされることを期待します。

〔A-1〕 実験ガイダンス、モンテカルロ実験

モンテカルロ・シミュレーションを行い、数値計算を行う。それを通じ統計的な手法の意味と限界を理解する。

〔A-2〕 重力加速度

単振り子の振動の物理的仕組みを理解し、その周期の測定から重力加速度 g を求める。

〔A-3〕 空気の振動と音速

音の空気の振動としての意味を実感し、それを用いて空気中の音速を決定する。

〔A-4〕 電子の電荷の質量の比

電場、磁場中の電子の運動を理解し、その運動のパラメータより電子の電荷と質量の比を求める。

〔A-5〕 ブラウン運動と原子の実在

水中で粒子のブラウン運動を観察し、その背後にあるミクロの物理を理解する。それに基づきアボガドロ数を求める。

〔A-6〕 光速の直接測定

空気中の光速を直接測定する。

〔B-1〕 実験ガイダンス、分子の大きさとアボガドロ定数

水面上に脂肪酸の単分子膜を展開し、それより分子の大きさを測定し、アボガドロ定数を求める。

〔B-2〕 光と電子

光電効果の実験より光の粒子性を実感し、プランク定数を推定する。

〔B-3〕 光の干渉

光の波動性とそれのもたらす干渉と回折現象を実験を通じて理解し、それを用いて光の波長、回折格子の間隔等を測定する。

〔B-4〕 量子力学と原子のスペクトル

ナトリウム原子の輝線スペクトルを観察し、量子力学的な原子の構造を理解する。さらに、ナトリウム原子の輝線スペクトルの波長を測定し、その理解を確かめる。

〔B-5〕 素電荷の測定—ミリカンの実験

ミリカンの油滴の実験により、油滴の電荷を測定する。それにより電荷が離散的であることを実感し、その最小単位である素電荷を求める。

〔B-6〕 音程とドップラー効果

音程と振動数の関係を理解し、音色の物理的意味を理解する。さらに音源を自由落下させ、観測されるその振動数変化からドップラー効果の持つ意味を理解し、音源の速度および加速度を決定する。

◆テキスト

初日にテキスト（無料）を配布。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

初日に物理学実験全般に関する基本的な事項を説明しますので、全員必ず出席してください。

①実験スクーリングを受講する人は、できるだけ事前にテキスト「物理学」を読んでいることが望めます。

②2007年度までに1単位あるいは2単位の実験スクーリングに合格している人は、同一科目の実験スクーリングは受講できません。

◆成績評価方法

出席とレポートによる。

科目 化学実験 A

1 単位

担当 文学部教授 大場 茂 / 経済学部教授 井奥 洪二

諸君が化学を学習する目的は、専門的な知識や技術の習得ではなく、化学という学問に対して正しい認識をもち、自然科学的な思考を養うためと考えられます。この目的を達成するための補助として、化学実験Aでは無機・物理化学分野における次のような各種実験を行います。

(内容と順序は変更になる場合があります。)

〔第1回〕 湿式法による金属イオンの分析 (第一属金属イオン)

〔第2回〕 湿式法による金属イオンの分析 (第三属金属イオン)

〔第3回〕 湿式法による金属イオンの分析 (未知試料)

〔第4回〕 自然放射線と放射能鉱物

〔第5回〕 アルコール発酵

〔第6回〕 ボルタ電池と燃料電池

◆テキスト

化学教室で編集した小冊子『化学実験』(実費・300円程度)を使用します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

この実験をより有意義なものにするのは、教科書を用いての日頃の家庭学習です。各種法則、原理などを脳裏にしっかりとおさめ、実験の目的やその手段が、これらをいかに巧みに利用して結果を求めているかを実地に確かめることが大切です。

◆成績評価方法

出席および当日提出するレポート。

科目 化学実験 B

1 単位

担当 法学部教授 小瀬村誠治 / 法学部准教授 志村 正

諸君が化学を学習する目的は、専門的な知識や技術の習得ではなく、化学という学問に対して正しい認識をもち、自然科学的な思考を養うためと考えられます。この目的を達成するための補助として、化学実験Bでは有機・高分子化学分野における次のような各種実験を行います。

(内容と順序は変更になる場合があります。)

〔第1回〕 分子模型その1～有機化合物を学ぶ

〔第2回〕 分子模型その2～天然物化合物を学ぶ

〔第3回〕 アセトアニリドの合成～アセチル化反応を学ぶ

〔第4回〕 パラニトロアニリン赤の合成と染色～ジアゾカップリング反応によりアゾ染料を合成し、綿布を染色して、その原理を学ぶ

〔第5回〕 ナイロン66の合成～重合反応を学ぶ

〔第6回〕 化学発光～発光を伴う化学反応を観察し、その原理を学ぶ

◆テキスト

化学教室で編集した小冊子『化学実験』(実費・300円程度)を使用します。スクーリング当日、教室内でお渡ししますので、小銭をご用意ください。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

この実験をより有意義なものにするのは、教科書を

用いての日頃の家庭学習です。各種法則、原理などを脳裏にしっかりとおさめ、実験の目的やその手段が、これらをいかに巧みに利用して結果を求めているかを実地に確かめることが大切です。

◆成績評価方法

出席および当日提出するレポート。

科目 生物学実験 A

1 単位

プログラム①担当者

担当 文学部教授 金子洋之 / 法学部専任講師 坪川達也

プログラム②担当者

法学部准教授 金谷信宏 / 商学部准教授 上村佳孝

実験内容と目的

この授業は生物の世界の多様性や複雑さを実験・観察を通じて理解するとともに、自然科学的思考と研究方法の習得を目的にしています。

内容は光学顕微鏡や実体（解剖）顕微鏡による観察、生理学・生化学実験、野外の動植物の観察、ビデオによる生命現象の理解などを含んでいます。授業担当者により内容は若干異なります。また、実験材料を変更する場合があります。授業では、各時間の最初にその日の実験内容を説明し、各自が自主的に実験を遂行していくという方法で行います。ビデオやパワーポイントを使用しながら解説する特別講義を行うこともあります。

プログラム①、②

1. 原核細胞と真核細胞の観察
2. 植物の細胞分裂の観察
3. 動物の細胞分裂の観察
4. 細胞質流動と流速測定
5. DNAの抽出実験
6. DNA分子模型の作製

◆テキスト

各担当者が実験の目的や方法を記述したプリントを配布します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

実験器具とレポート用紙は用意されています。観察・スケッチに用いる鉛筆は2H程度の硬めのものを各自で持参すること。

実験は通信テキスト「生物学」の内容と関連するものもあるので、なるべく通信テキスト「生物学」を持参すること。

◆成績評価方法

出席および毎回提出するレポート。

科目 生物学実験 B

1 単位

プログラム①担当者

担当 経済学部教授 福山欣司 / 商学部准教授 新屋みのり

プログラム②担当者

経済学部准教授 有川智己 / 商学部教授 福澤利彦

実験内容と目的

この授業は生物の世界の多様性や複雑さを実験・観察を通じて理解するとともに、自然科学的思考と研究方法の習得を目的にしています。

光学顕微鏡や実体（解剖）顕微鏡による観察、生理学・生化学実験、野外の動植物の観察、ビデオによる生命現象の理解などを含んでいます。具体的な内容は「生物学実験A」とは異なり、多様な材料とテーマを取り扱います。授業担当者により内容は若干異なります。また、実験材料を変更する場合があります。授業では、各時間の最初にその日の実験内容を説明し、各自が自主的に実験を遂行していくという方法で行います。ビデオやパワーポイントを使用しながら解説する特別講義を行うこともあります。

プログラム①、②

1. 染色体異常の検査（模擬実験）
2. 抗体を使った検査
3. 感覚閾値の検証（重量感覚）
4. 雑木林の樹木
5. しらす干しに混ざる生物
6. コケに住むクマムシの観察

◆テキスト

各担当者が実験の目的や方法を記述したプリントを配布します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

実験器具とレポート用紙は用意されています。観察・スケッチに用いる鉛筆は2H程度の硬めのものを各自で持参すること。

実験は通信テキスト「生物学」の内容と関連するものもあるので、なるべく通信テキスト「生物学」を持参すること。

◆成績評価方法

出席および毎回提出するレポート。

外国語科目／英語

科目 英語（リーディング）A

1 単位

担当 講師 原田祐貴

TOEIC 450-550点レベルの学習者向けの難易度の英文エッセー（400語前後）を読み、読解ストラテジーの習得を目指します。

〔第1回〕 科目のオリエンテーション

Skimming and scanning (Unit 1)

〔第2回〕 Predicting, inferring, interpreting,

and deducing meaning (Unit 2)

〔第3回〕 Visualizing, associating, judging, and summarizing (Unit 3)

〔第4回〕 第1回～3回までの復習 (Review 1)
Understanding purpose and tone (Unit 4)

〔第5回〕 Separating fact from opinion (Unit 5)

〔第6回〕 Understanding references (Unit 6)
4回～6回までの復習 (Review 2)

2018年度夏期スクーリング

- 〔第7回〕 Highlighting and annotating (Unit 7)
- 〔第8回〕 Recognizing main ideas (Unit 8)
- 〔第9回〕 Recognizing supporting ideas (Unit 9)
- 〔第10回〕 第7回～9回までの復習 (Review 3) Recognizing text organization — time order and process (Unit 10)
- 〔第11回〕 Skimming and scanning (Unit 11 & 12)
- 〔第12回〕 第1回～11回の授業の総括

◆テキスト

- ・竹内理監修、山岡浩一編著『A Good Read 2: Developing Strategies for Effective Reading, A Japan Edition [1st edition]』(松柏社、2017年)
ISBN 978-4-88198-720-9

◆受講上の要望または受講上の前提条件

各ユニットのWarm Up, Reading strategy, Strategy in Focusを予習し、授業で学ぶ読解ストラテジーについてあらかじめ理解して来てください。ReadingおよびReview Unit 1-3の英文は、教室で時間を測って、辞書を使わずにストラテジーを使って読むので、事前に単語の意味を調べるなどすると、ストラテジーの訓練になりませんので、予習はしないでください。

授業では、辞書の使い方も学習します。可能であれば、電子辞書をお持ちください。

◆成績評価方法

授業中の取り組みと課題 (30%) および最終日の試験 (70%) で成績評価をします。

科目 英語 (リーディング) B

1単位

担当 講師 藤田真理子

英語のリーディングを通して英語力を養成する講座です。本講座ではテキストの内容理解にとどまらず、学習した表現を使って英文を産出することを目指します。授業前の予習はしっかり行ってください。テキストの全てのタスクに自分なりの答えを書いてから、授業に出ることを期待します。授業形態のほとんどはペアワークかグループワークです。授業には英和辞書(紙の辞書)を必ず持参してください。各ユニットを学習した後、英文内容の要約をしたり、扱われたテーマについて自分の意見を発表できることが目標です。

授業の流れ (一つのユニット) テキストの音読→表現のチャンク (かたまり) を探す→内容理解チェック (True or false, Q&A) →単語学習 (定義、派生語) →要約→自分の意見を発表

- 〔第1回〕 オリエンテーション
Unit 1 10 Steps to Be a Good Husband
- 〔第2回〕 Unit 2 Water for Our Future
- 〔第3回〕 確認テスト (Unit 1 & 2)
Unit 4 New Trend in Boy-Girl Housing
- 〔第4回〕 Unit 5 Laugh Your Stress Away

- 〔第5回〕 確認テスト (Unit 4 & 5)
Unit 6 The Olympics Now and Then
- 〔第6回〕 Unit 7 Writing Diaries on the Web
- 〔第7回〕 確認テスト (Unit 6 & 7)
Unit 9 More People Enjoying a Solo Life
- 〔第8回〕 Unit 10 Who Would the Taxis Stop for?
- 〔第9回〕 確認テスト (Unit 9 & 10)
Unit 11 Be a Responsible Pet Owner
- 〔第10回〕 Unit 12 The Super-detective Is Blind
- 〔第11回〕 確認テスト (Unit 11 & 12)
Unit 13 Pros and Cons of Surrogate Births
- 〔第12回〕 Unit 14 Are You and Your Partner Similar?

◆テキスト

- ・静 哲人『Reading in Action 学習者参加型の英語リーディング』(金星堂、2016年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業では積極的に英語で話すことを期待します。ペアワークやグループワークが多いので、お互いから学ぼうとする態度が前提条件。

◆成績評価方法

授業への貢献度50%と確認テスト (2回分のユニット) 5回50%。

科目 英語 (リーディング) C

1単位

担当 講師 賀川真理

本年度のスクーリングでは、「アメリカ社会におけるラティーノ」をテーマとする。かつてラティーノは、その多くが政治に無関心であるとみなされてきたが、果たしてそうなのであろうか。2016年の大統領選挙では、移民への対応が争点の一つとなったが、アメリカ社会においてラティーノはどのような存在なのであろうか。

彼らがアメリカ社会とどのように係わり、彼らによってどのような変化がもたらされているのかを知ることは、今後のアメリカ社会を分析する上で、一つの重要な視点と考えられる。本講義では、国際政治・社会・教育の各方面から、ラティーノが変えるアメリカ社会について、読み解くことを目的とする。

- 〔第1回〕 講義概要、イントロダクションーラティーノとは
- 〔第2回〕 David E. Hayes-Bautista, La Nueva California, Introduction
- 〔第3回〕 第二次世界大戦下でアメリカに強制連行された日系ラテンアメリカ人と戦後 補償 (DVD鑑賞と解説)
- 〔第4回〕 C. Harvey Gardiner, Pawns in a Triangle of Hate
- 〔第5回〕 Mendez v. Westminster判決とは (DVD鑑賞と解説)
- 〔第6回〕 Philip Strum, Mendez v. Westminster,

- 〔第7回〕 Who is the AB 540 student?—アメリカにおける非合法移民学生の光と影
 〔第8回〕 William Pérez, Americans by Heart, Chapter 2
 〔第9回〕 アメリカ社会における非合法移民の現実 (DVD鑑賞と解説)
 〔第10回〕 Juan Gonzales, Harvest of Empire, Chapter 11 ラティーノとDREAM Act
 〔第11回〕 ディスカッション
 〔第12回〕 試験

◆テキスト

事前にテキストとして使用するプリント教材を配布予定。

◆参考文献

- ・賀川真理著『カリフォルニア政治とラティーノ』(晃陽書房、2011年)
 ほか適宜紹介する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

この講義では、事前に配布するプリント教材について、予習を前提に読み進めて行く。そのため、授業開始時までに必ず本文に目を通してきて頂きたい。

特に授業の最初の30分程度の時間は、履修者の中でそのテーマについて得意とする方に担当章の著者紹介、要旨、キーワードとキーセンテンス、当該論文もしくは章に関連した事項についての発表に充てたいと考えている。

講義初日に担当章を決めるので、各自第1 - 3希望までを事前に考え、余裕があればプリントもしくはパワーポイントの準備を進めておくことをお勧めする。もちろん担当以外の章についても、基本的にできるだけ段落ごとの要旨や疑問点などをノートに書き留めておくと、授業の際に大いに役立つと思われる。

◆成績評価方法

毎回の出席を前提とし、プレゼンテーション(30%)・予習および授業への貢献度(20%)と最終日の試験(50%)による。

科目 英語(リーディング) D

1単位

担当 講師 沼田香穂里

英米の映画に描かれている文化を論じたテキストを読みます。各章の話題は英米文化の違い、イギリスの階級社会、ベトナム戦争など、映画をより深く理解するために知ることが必要となるテーマです。授業では、取り上げられたテーマに関する映画の一部を教室で観ながら(階級社会→『マイ・フェア・レディ』、ベトナム戦争『地獄の黙示録』など)、英文の内容を的確につかみ取るだけでなく、それぞれの映画に描かれた問題やその意義について考察します。最終的には、映画や社会問題に関する知識と共に、英語文献を読むのに必要な読解力を養成したいと思います。

- 〔第1回〕 Introduction 英語リーディングの注意点
 〔第2回〕 Unit 1 英米文化の比較 英国と米国の気質の違い
 〔第3回〕 Unit 1 英米文化の比較 イギリス人のユーモア

- 〔第4回〕 Unit 2 イギリスの伝統 文芸映画に描かれた古き良きイギリス
 〔第5回〕 Unit 3 階級とアクセント イギリスの階級社会
 〔第6回〕 Unit 3 階級とアクセント イギリスの労働者階級
 〔第7回〕 Unit 4 連合王国 イングランドとウェールズ
 〔第8回〕 Unit 4 連合王国 スコットランド・北アイルランド
 〔第9回〕 Unit 5 荒野の西部 米国における西部劇の意義
 〔第10回〕 Unit 6 ベトナム戦争 映画によるベトナム戦争への反省
 〔第11回〕 Unit 8 歴史の変遷 公民権運動
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・プリントを配布する。

◆参考文献

参考文献は特にありませんが、授業で観る映画は、どれも2時間程度の作品のうちわずか5～10分位になってしまいますので、授業をよりよく理解するためには、テキストに言及されている映画を予め見ておく方がよいと思います。全作品とは言いませんが、少なくとも1章につき1本は見えてください。テキストの最後に登場する映画や人物のリストがありますので、そこを参考にしてください。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

テキスト全体を読むことはできませんので、1～6章及び8章を予定しています。練習問題は抜かして、本文のみを読みますので、スクーリング開始前までに辞書を引いて訳せるようにしておいてください。また、予習の際には必ず家で一度音読してください。文法については必要に応じて授業でも触れますが、自信の無い学生はもう一度復習しておいてください。授業では日本語訳が中心になりますが、自分なりに取り上げられているテーマについて調べて意見をまとめておくなど、自主性をもって真摯に取り組んでください。

◆成績評価方法

評価は基本的に最終授業で行われる試験の成績によって決めます。その他、出席状況、予習の有無、授業内における積極的な発言など平常の授業態度を加味します。

科目 英語(リーディング) E

1単位

担当 文学部教授 高橋宣也

テキストは、英語の単語の由来を訪ねる内容です。章ごとに一つの単語が扱われ、今では何気なく用いられている語が、どのような経緯で現代のような意味や用法となったのかをたどります。簡明な説明を正確に読む訓練を行います。また同時に、テキストの内容から英語そのもののへの興味も増加することを期待します。

- 〔第1回〕 第12章
 〔第2回〕 第13章
 〔第3回〕 第14章
 〔第4回〕 第15章

- 〔第5回〕 第16章
- 〔第6回〕 第17章
- 〔第7回〕 第18章
- 〔第8回〕 第19章
- 〔第9回〕 第20章
- 〔第10回〕 第21章
- 〔第11回〕 第22章
- 〔第12回〕 質疑応答・試験

◆テキスト

- ・Isaac Asimov『Words from History I (『英単語のロマンスI [改訂版]』) (鷹書房弓プレス)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

テキストの英語は比較的平易ですが、細部をおろそかにせずにきちんとした読解を目指しますので、綿密な予習が必要です。練習問題（1番～3番）もやってください。なお、第12章‘Gentleman’から始めますので、気をつけてください。また、講義内容の予定は進行の目安です。

◆成績評価方法

平常の出席と授業時の成果、試験で評価します。

科目	英語（リーディング）F 【実力養成クラス（中～上級）】	1単位
担当	法学部教授 篠原俊吾	

【応用力をつけることを目的とした、通常のクラスよりも難易度が高いクラスです】

主としてインプット強化を目的としています。こちらで準備した短いエッセイを読み、あわせて関連する映像資料を補助教材を用いて問題の理解を深めていきたいと思います（補助教材はリスニングのトレーニングも兼ねています）。その他に、適宜短いリスニング教材も取り入れていく予定です。

- 〔第1回〕 イントロダクション：授業の進め方と英語の学び方について。
- 〔第2回〕 スピーチと文章構成（1）：著名人のスピーチを聞き、文章の構成の仕方を学ぶ。
- 〔第3回〕 スピーチと文章構成（2）：著名人のスピーチを聞き、文章の構成の仕方を学ぶ。
- 〔第4回〕 スピーチと文章構成（3）：著名人のスピーチを聞き、文章の構成の仕方を学ぶ。（実践編）
- 〔第5回〕 「人はなぜ眠るのか」（1）：睡眠に関するエッセイを読みます。（前半）
- 〔第6回〕 「人はなぜ眠るのか」（2）：睡眠に関するエッセイを読みます。（後半）
- 〔第7回〕 「人はなぜ笑うのか」（1）：笑いのメカニズムに関するエッセイを読みます。（前半）
- 〔第8回〕 「人はなぜ笑うのか」（2）：笑いのメカニズムに関するエッセイを読みます。（前半）
- 〔第9回〕 「食文化、肥満、食料廃棄」：（1）健康と食に関するエッセイを読みます。（前半）
- 〔第10回〕 「食文化、肥満、食料廃棄」（2）：健康と食に関するエッセイを読みます。（後半）
- 〔第11回〕 「一点集中主義へのアンチテーゼ」：細分化する社会に対し苦言を呈する人類学者のエッセイを読みます。

〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

おおよそ英検2級程度（またはそれ以上）の受講者を想定しておりますが、もちろん、やる気のある方であればどのような方でも大歓迎です。短期間で比較的多めの英語を読むことになりますので、厳しい場面もあるかとは思いますが、できるだけ丁寧にご説明しますので最後まであきらめずに出席してください。また、（とりわけスピーチを扱う回では）テキストを授業時に全員前で音読する機会があると思います。あらかじめご了承ください。

◆成績評価方法

出席、授業での貢献度30%、試験70%。

科目	英語（リーディング）G	1単位
担当	講師 多々良直弘	

この授業では異文化間コミュニケーションに関するテキストを講読します。日本人とアメリカ人のコミュニケーション上のギャップを通じて、両国の国民性や文化の相違を考察します。

- 〔第1回〕 You and I are Equals
- 〔第2回〕 You and I are Close Friends
- 〔第3回〕 You and I are Relaxed
- 〔第4回〕 You and I are Independent
- 〔第5回〕 People as Individuals
- 〔第6回〕 Being Original
- 〔第7回〕 Questions, Questions!
- 〔第8回〕 Answer to the Point!
- 〔第9回〕 Conversational Ballgames
- 〔第10回〕 Don't Apologize!
- 〔第11回〕 Nobody Told Me!
- 〔第12回〕 総括と試験

◆テキスト

- ・ナンシー 坂本・坂本元洋『Polite Fictions in Collision, Why Japanese and Americans Seem Rude to Each Other (異文化との出会い・誤解・理解)』（金星堂、2004年）、ISBN 978-4-7647-3778-5

◆成績評価方法

授業内における貢献度50%と最終日に行う試験50%により評価します。

科目	英語（リーディング）H	1単位
担当	講師 八木橋宏勇	

本講義は、言語・コミュニケーションに関する英文を題材に、言語学（日英対照研究）の研究成果を積極的に援用しながら、「自らの力で初見の英文を精確に理解できる読解力」と「筆者の思考の流れを追って＜筆者が言わんとしている真意＞を汲み取る解釈力」の涵養を目指す。毎回、授業は以下の手順で進められる予定である。

- ①英文をA4判1枚で配布

- ②初見での理解度チェック/理解が及ばない箇所の特定
 ③担当者による解説
 ④再読での理解度チェック
 ⑤学習したことを他の英文を読む際にも活用できる
 よう語彙・文法・談話展開等のまとめ
- 〔第1回〕 イントロダクション1ー英文をいかに区
 切って理解していくかー
 〔第2回〕 イントロダクション2ー日本語の事態把
 握・英語の事態把握ー
 〔第3回〕 Words and Their Stories: Nicknames
 for New York City
 〔第4回〕 It's a Mickey Mouse course!
 〔第5回〕 Small Talk in English
 〔第6回〕 Guelph Transit university express
 bus service is back
 〔第7回〕 Language in Society
 〔第8回〕 Position of text on the page
 phenomenon
 〔第9回〕 Two paces north, one pace south
 〔第10回〕 What is Emergency SOS?
 〔第11回〕 Dyirbal
 〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。なお、〔授業の概要〕に
 記されている英文記事のトピックは、授業開始までに
 一部変更される可能性もある。

◆参考文献

授業中に適宜紹介する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

現在の英語力は一切問わない。予習は必要ないが、
 復習と「学習したことを実際に使ってみる」ことは必
 ず行っていただきたい。また、授業には辞書（電子辞
 書で構わないが、できれば英和辞書と英英辞書）を必
 ず持参してほしい。

◆成績評価方法

語学は継続的な学習が必須であることから、出席を
 含む平常点は重視する。試験は最終日に行う予定。出
 席（60%）、試験（40%）。

科目 英語（リーディング）Ⅰ

1単位

担当 講師 中川千帆

現代社会の興味深いトピックを扱った500語前後の
 文章を、パラグラフごとの内容を確認しつつ、文章全
 体の流れを確認できるように読み進めていきます。こ
 の作業を繰り返すことで、文章の論理的な構成や展開
 の仕方に慣れ、大学レベルでの学習に必要な文献や評
 論を読むための読解力を身につけます。

- 〔第1回〕 イントロダクション
 〔第2回〕 Chapter 1 : A Cultural Difference:
 Being on Time 解説
 〔第3回〕 Chapter 1 : A Cultural Difference:
 Being on Time 演習問題
 〔第4回〕 Chapter 2 : Changing Lifestyles and
 New Eating Habits 解説
 〔第5回〕 Chapter 2 : Changing Lifestyles and

New Eating Habits 演習問題

- 〔第6回〕 Chapter 3 : Technology Competes
 for Family Time 解説
 〔第7回〕 Chapter 3 : Technology Competes
 for Family Time 演習問題
 〔第8回〕 Chapter 4 : Language: Is It Always
 Spoken? 解説
 〔第9回〕 Chapter 4 : Language: Is It Always
 Spoken? 演習問題
 〔第10回〕 Chapter 5 : Loneliness: How Can
 We Overcome It? 解説
 〔第11回〕 Chapter 5 : Loneliness: How Can
 We Overcome It? 演習問題
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

・山科美和子・横山三鶴・沖野泰子『Reading
 Choice: Skills for Academic Success』（セン
 ゲージラーニング、2013年）
 ISBN 978-1-285-19749-4

◆受講上の要望または受講上の前提条件

出席を重視します。全日程の3分の1以上（5回）
 を欠席した者は、原則として不合格とします。英和辞
 書は毎回必ず持参してください。できれば英英辞書も
 準備してください。積極的に学ぶ意欲を持つ学生を欲
 迎します。

◆成績評価方法

最終回に実施する確認テスト（70%）に、小テスト
 や課題提出を含めた平常点（30%）を合わせて評価し
 ます。

科目 英語（リーディング）Ⅱ

1単位

担当 講師 松本純一

英語および言語一般に関するさまざまな話題につい
 て、初心者向きに易しく述べたテキストを講読します。
 教科書には英語の四技能を高めるためのさまざまな要
 素が盛り込まれていますが、今回の講義では主に英文
 の本文を正確に読解することに集中する予定です。本
 文の内容に関連するより深い解説なども随時取り入れ
 ていくつもりなので、進度はあまり速くはありません。
 たくさん進むことよりも、確実に理解しながらじっく
 り進むことのほうを重視します。

- 〔第1回〕 イントロダクション
 The Study of Language（テキスト
 Chapter 1）
 〔第2回〕 British English and American
 English（テキストChapter 2）
 English as a World Language（テキ
 ストChapter 3）
 〔第3回〕 Linguistics, Language, and Culture
 （テキストChapter 4）
 Registers（テキストChapter 5）
 〔第4回〕 Language, Culture, and
 Categorization（テキストChapter 6）
 First Language Acquisition（テキスト
 Chapter 7）
 〔第5回〕 The Study of the Sounds of

- Language (テキストChapter 8)
Names in English (テキストChapter 9)
- 〔第6回〕 Language Contact and Borrowing(テキストChapter 10)
Language Variation (テキストChapter 11)
- 〔第7回〕 Meaning in Words and Sentences(テキストChapter 12)
Japanese English (テキストChapter 13)
- 〔第8回〕 Word Formation in English (テキストChapter 14)
Spelling and English Pronunciation (テキストChapter 15)
- 〔第9回〕 The Importance of Language (テキストChapter 16)
Language Learning (テキストChapter 17)
- 〔第10回〕 Language and Computers (テキストChapter 19)
English and Other Indo-European Languages (テキストChapter 22)
- 〔第11回〕 Modern Linguistics (テキストChapter 23)
English Onomatopoeia (テキストChapter 24)
- 〔第12回〕 English through the Ages (テキストChapter 25)
総括

◆テキスト

- ・ 赤楚治之、清水克正他『Twenty-Six Short Essays on English (英語についての26章)』(英宝社、2013年)、ISBN 978-4-269-14018-9

◆受講上の要望または受講上の前提条件

英文のテキストを注意深く正確に読み進める心構えが必要なことは勿論ですが、書かれている内容自体についても積極的に興味を持っていただけることを希望します。したがって、教室ではテキストの内容についての発展的な質問や問題提起が出されることを期待しています。そのようなことのためになら、多少授業のペースが遅れてもいっこうに気にしません。

◆成績評価方法

出席状態・授業中の演習への参加態度、および最終日に提出していただくレポートによって成績評価をおこないます。

科目 英語 (リーディング) K

1 単位

担当 講師 金澤洋子

This course aims to provide opportunities to think and share opinions by reading and discussing current topics mainly on health, environment and ethical issues. The instructor will provide reading materials (from current news papers and magazines such as Time, the International Herald Tribune,

Scientific Americans, Washington Post, and a number of Japanese newspapers in English). The participants will also provide a topic, making a presentation in English at the end of the course. Through reading, presentation, discussion and writing, participants will deepen their knowledge of current issues and also enlarge their productive academic vocabulary. The course also encourages the students to think critically and try to persuade other students with different positions. The topics may include surrogate birth, baby hatch, total ban on smoking in public places, gender selection, wage gaps and ethics of organ transplants.

Apart from presentations, summary writing or a reaction paper on one of the articles of the day will also be required. English will be used most of the time.

- 〔第1回〕 Introduction & Topic 1
〔第2回〕 Topic 2 On medical ethics 1)
〔第3回〕 Topic 3 On medical ethics 2)
〔第4回〕 Topic 4 On discrimination
〔第5回〕 Topic 5 On business
〔第6回〕 Topic 6 On lifestyle
〔第7回〕 Topic 7 On technology, science and health
〔第8回〕 Topic 8 On cultural issues
〔第9回〕 Topic 9 On various news and features
〔第10回〕 Students' presentations
〔第11回〕 Students' presentations
〔第12回〕 Review and Summary

◆テキストについて

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

Participants are encouraged to use English most of the time especially when they report the result of discussion in pairs and groups. Therefore, the students are expected to participate actively and communicate in English with other participants in class.

◆成績評価方法

Evaluation will be based on class contribution (40%), oral presentations (30%) and a final exam and assignments submitted in class will also be included (30%).

科目 英語 (リーディング) L

1 単位

担当 講師 近藤正子

The aim of this course is to develop students' reading skills and international awareness by exploring international affairs in English. The course begins with an introduction in which students learn how to read Internet articles in English. Students also

watch movies which include the same content as their reading materials. Based on the factual knowledge students develop through these activities, students are expected to make presentations based on assigned materials.

This course requires regular homework and active participation in every classroom activity. Students are expected to attend on a regular basis.

- 〔第1回〕 Introduction
- 〔第2回〕 Barack Obama (1)
- 〔第3回〕 Barack Obama (2)
- 〔第4回〕 Steve Jobs (1)
- 〔第5回〕 Steve Jobs (2)
- 〔第6回〕 Review and Summary (1)
- 〔第7回〕 Rosa Parks
- 〔第8回〕 Nelson Mandela
- 〔第9回〕 Muhammad Yunus (1)
- 〔第10回〕 Muhammad Yunus (2)
- 〔第11回〕 Malala Yousafzai
- 〔第12回〕 Review and Summary (2)
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

- (1) Regular on-time attendance
- (2) Preparation of regular homework
- (3) Well prepared presentations
- (4) Active participation in classroom activities

◆成績評価方法

Grades will be decided according to the following criteria: attendance, participation and other assignments (10%); mid-term (30%) and final (30%) exams; presentation (30%).

科目	英語（リーディング）M	1単位
担当	講師 伊藤 盡	

ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロの、一番若い作品であるThe Buried Giant (2015年;邦訳『忘れられた巨人』)を読み、長文読解を経験しながら、英語の読み方を学びます。

授業では本書の一部しか読むことができません。そこで、この授業の目標は「独力でこの書物を読むことが出来るようになるための英語力の養成」ということになります。

この授業は、

1. 英文法の基礎は知っているけれど、なかなか応用が出来ない人
2. 英語を読みたいけれど、長い書物を読むのは自信がない人
3. カズオ・イシグロという作家に興味があるけれど、まだ原書では読んだことがない人
4. ノーベル文学賞を取る人の英語の文章ってどのようなものなんだろう?と興味を覚えた人

5. 中世のイングランドに興味を持つ人

に、英文を読む楽しさを学ぶためのものです。

- 〔第1回〕 イントロダクション:辞書の紹介と英語の学び方。授業の進め方、作者と作品について説明します。
- 〔第2回〕 第1章の冒頭の読み方:語り手が読者に伝えるメッセージにはどんな意味があるのか考えます。
- 〔第3回〕 章と章とのつながりと断裂:第一章の終わりから第二章の始め-Buried Giantのモチーフ (pp.34-37) の意味について考えます。
- 〔第4回〕 Boatman (渡し守) のエピソード (pp.37-52):作品全体のテーマとの関連について考えます。
- 〔第5回〕 旅の向かうべき指針 (pp.70-73) を知ります。ストーリーの大枠を理解します。
- 〔第6回〕 Wistanとの出会いの経緯 (pp.78-86); Edwinを連れて行く事情 (pp.90-94) を理解します。ここまでの、旅の準備となります。
- 〔第7回〕 ガウェイン卿との邂逅 (pp.117-124)。その意味と背景について解説します (第1回)
- 〔第8回〕 ガウェイン卿との邂逅 (pp.125-142)。その意味と背景について解説します (第2回)
- 〔第9回〕 Part 1 で読んだSaxonsとBritonsの争いの意味するものについて考えましょう。(pp.142までの内容把握の補足)
- 〔第10回〕 第8章 (pp.208-228) これまでとは別の視点から物語られる手法について:Edwinの視点と記憶について理解しながら考察します。
- 〔第11回〕 Sir Gawainの独白 (pp.231-244) について理解しながら、私たちはここから何を読み取るべきかを考察します。
- 〔第12回〕 試験・総括:授業の「総括」をします。
- (最終回) 英語の内容と話の内容を復習しましょう。そのためのテストも行います。
- 〔その他〕 小テスト

◆テキスト

- ・Ishiguro, Kazuo『The Buried Giant.』(ペーパーバック) (Faber & Faber, 2016)
ISBN 9780571315062

◆参考文献

- ・カズオ・イシグロ著、土屋政雄訳『忘れられた巨人』(早川書房、2017年)
- ・『ユリイカ:詩と批評』2017年12月号(青土社、2017年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

基礎的な英文法は知っていることが望ましい。

受講の際は、日本語訳を読んで、教室内では読めなかった原文の内容を把握してください。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 英語（リーディング）N	1 単位
担当 講師 出原健一	

英語を正確に読む訓練を行う。また、その訓練を通じて、日本語と英語の発想の違いについての理解を促す。具体的には、各回ごとにまとめた分量の英文を読み、20-30分程度で日本語に翻訳してもらう（この際、「直訳」は認めない。自分の理解した範囲でよいので、可能な限り英文の意味を自然な日本語で表現してもらう）。その後、英文解説や文法の解説を行った後、再度、改めて、より正確な翻訳を試みてもらう。

〔第1回〕 プリントの英文の翻訳を試みてもらい、その後英文解説及び文法解説を行う。

〔第2回〕 第1回と同様。

〔第3回〕 第1回と同様。

〔第4回〕 第1回と同様。

〔第5回〕 第1回と同様。

〔第6回〕 第1回と同様。

〔第7回〕 第1回と同様。

〔第8回〕 第1回と同様。

〔第9回〕 第1回と同様。

〔第10回〕 第1回と同様。

〔第11回〕 第1回と同様。

〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

英和辞典を必ず持参すること。電子辞書でも構わないが、スマートフォンなどのアプリなどは認めない。

◆成績評価方法

最終日の試験による。ただし、2回以上の無断欠席をした場合、最終試験の受験資格を与えない。

科目 英語（ライティング）1	1 単位
担当 講師 及川一美	

NHK BSの人気番組『ニューヨーク街物語』から「新世代シングルマザー」「スーパー主夫」「ヨガ」などのテーマを取り上げたテキストで速聴の力をつけ、番組理解を促すサマリー・Vocabulary・Writingなどの練習問題で発信力の基礎を学びます。まず単語や文法から、そして独特の言い回しや洒落た表現に触れながら何かを身に付けられたらと思います。

〔第1回〕 unit 1: Mothers, Single by Choice

〔第2回〕 unit 2: Fragrance by Design

〔第3回〕 unit 3: Fashionably Green unit 4: Super Dad

〔第4回〕 unit 5: Inventive New Toys

〔第5回〕 unit 6: Relaxing with Yoga unit 7: Healing with Balloons

〔第6回〕 unit 8: Good Trash

〔第7回〕 unit 9: Pet Rescue unit 10: Saving Art from the Big Spenders

〔第8回〕 unit 11: Tasty Business

〔第9回〕 unit 12: Musical Impact unit 13: Flea Market

〔第10回〕 unit 14: Fighting Global Warming

〔第11回〕 Review

〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

・金森 強、Braven Smillie 『NHK BS Program: New York Streets (DVDで楽しむ『ニューヨーク街物語』)』（金星堂）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

予習として教科書の練習問題を解き本文の単語を調べてきてください。

授業では英語学習に役立つサイトなど紹介いたしますので自分にあったものに積極的に取り組み、質問がございましたら授業の前後に聞いてください。

◆成績評価方法

授業参加度及び最終日の試験による。

科目 英語（ライティング）2	1 単位
担当 講師 ハインズ, マーティン K.	

On this course, students will examine the three major styles of writing. Studying a major language skill in isolation is almost impossible. As such, in each lesson, time will also be devoted to improving speaking and listening skills. By the conclusion of the course, students will be able to express themselves in a number of written genres.

〔第1回〕 Introduction

Writing: Narrative 1

Speaking & Reading Skills

〔第2回〕 Writing: Narrative 2

Vocabulary Extension & Listening Skills

〔第3回〕 Writing: Narrative 3

Speaking & Reading Skills

〔第4回〕 Writing: Narrative 4

Vocabulary Extension & Listening Skills

〔第5回〕 Writing: Descriptive 1

Speaking & Reading Skills

〔第6回〕 Writing: Descriptive 2

Vocabulary Extension & Listening Skills

〔第7回〕 Writing: Descriptive 3

Speaking & Reading Skills

〔第8回〕 Writing: Descriptive 4

Vocabulary Extension & Listening Skills

〔第9回〕 Writing: Expository 1

Speaking & Reading Skills

〔第10回〕 Writing: Expository 2

Vocabulary Extension & Listening Skills

〔第11回〕 Writing: Expository 3

Speaking & Reading Skills

〔第12回〕 Writing: Expository 4

Vocabulary Extension & Listening

Skills

Course Review

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。
- ・There is no textbook for this course. All materials will be provided by the lecturer.

◆受講上の要望または受講上の前提条件

Students must be aware that a large percentage of their final grade is allocated to attendance and participation.

The lecturer is available before and after class to answer any questions.

◆成績評価方法

Final grade will be based on a combination of:

- Attendance
- Classroom Participation
- Writing assignments

科目 英語（ライティング） 3

1 単位

担当 講師 ハスケル, デル R.

WRITING 2 - WRITING PERSONALLY

Hiyoshi campus, August 6-11, 2018

This intermediate level course is designed to develop English writing using communicative activities, including writing about yourself and other people, interviewing, writing brief notes, draft writing, peer editing and revising. English will be used for all activities.

Students will complete one major writing project - a personal profile based on a recorded interview with an interesting person. The personal profile project will involve writing interview questions, interviewing, writing brief notes about personal information, describing appearance and character, writing quotations, and expressing your opinions.

COURSE OUTLINE

- 1 Introduction, partner interviewing
- 2 Draft writing, peer editing, rewriting
- 3 Sentence combination, sentence completion
- 4 Personal profile guide, interview question writing, interview DVD
- 5 Partner profile correction, interview question check
- 6 Description - appearance & character, interview DVD
- 7 Interview notes check, draft writing
- 8 Quotations - direct & indirect, interview DVD
- 9 Draft editing, rewriting
- 10 Problem solving - content & structure

11 Personal profile collection, review

12 Writer's problems & solutions

◆テキスト

- ・ All material will be provided by the course instructor.

◆受講上の要望または受講上の前提条件

Students will need to use a computer for personal profile writing.

*Students in this course must be able to read, write, understand, and speak English at an intermediate or advanced level of proficiency.

*Elementary level students will find this course too difficult.

◆成績評価方法

Assessment will be based on daily attendance, active participation (listening, speaking, reading, and writing) in English, homework assignments, and one personal profile writing project.

科目 英語（ライティング） 4

1 単位

担当 講師 バロウス, リチャード J.

Essential Writing Skills Aim: This is an intermediate level course to help students to progress from single paragraph writing to multi-paragraph essays. Stimulating themes of wide, general interest will provide a springboard for process-oriented student writing tasks. The course will take a structured approach to the 'tools' that students need to become successful writers. Course Contents: Each lesson will be focused on the following writing skills: Day 1: Process Writing & Paragraph Structure/Development Day 2: Descriptive & Process Writing Day 3: Opinion Paragraphs Day 4: Structure & Outline of an Essay Day 5: Comparison/Contrast & Analysis Writing Day 6: Problem/Solution Essays

◆テキスト

- ・ Dorothy E. Zemach 『Writing Essays』 (Macmillan Language House, 2011年) ISBN 978-0230415928

◆受講上の要望または受講上の前提条件

In addition to the textbook, students are required to bring an A 4 lined notebook each day for in-class note taking & writing practice. Since all writing assignments must be printed, students must also have access to a computer & printer. Students are also recommended to bring an English-English dictionary, preferably an electronic one. This course aims to introduce you to the necessary skills to improve your writing ability. However, regular attendance & practice is essential for improving writing

skills and students should be prepared to print their homework writing assignments & do comprehension exercises on a daily basis.

◆成績評価方法

Students will be evaluated according to the following criteria: Attendance & Punctuality: 30% Homework Assignments: 40% Final Written Exam: 30%

科目 英語（ライティング） 5

1 単位

担当 講師 沢村 静

このクラスでは、基本的な英作文からパラグラフライティングの基本構造を理解した正しい文章を書けることを目指します。自己紹介から説明書、物語文など各テーマについて筋道立てて自己表現するための技術を学びましょう。文章の理論構成、展開法を理解するとともに、その基礎となる文法事項を復習し、語彙を強化していきます。

〔第1回〕 Chapter 1 : Introduction

定義の仕方 自己紹介

〔第2回〕 Chapter 2 : トピック文の書き方

〔第3回〕 Chapter 3 : 時系列的なサポート文の書

〔第4回〕 Chapter 4 : 手順や手続きを説明する

〔第5回〕 Chapter 5 : 例示・列挙のサポート文の書き方

〔第6回〕 Chapter 6 : 原因と結果のサポート文の書き方

〔第7回〕 Chapter 7 : 比較・対照のサポート文の書き方

〔第8回〕 Chapter 8 : 分類のサポート文の書き方

〔第9回〕 Chapter 9 : 前置詞の概念とイメージについて

〔第10回〕 Chapter10 : 形容詞の種類、関係副詞について

〔第11回〕 Chapter11 : 分詞・分詞構文について

〔第12回〕 総括

〔その他〕 小テスト

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎回辞書を必ず持参してください。予習、復習を前提で授業を進めます。アクティビティやディスカッションを多く取り入れますので、他学生と積極的に関わりながら授業に参加することを期待します。また、各課ごとの課題提出は必須です。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 英語（ライティング） 6

1 単位

担当 講師 ヤング, ジェローム

Learning to write well is a difficult, life-long pursuit. This class aims to give students knowledge of the mechanics of the English essay. Student essays with focus on writing family history, on writing biographies. Even though some people are not interested in history per se, most people are interested in the history of their own families and ask many questions about their ancestors: Who were my grandparents, my great-grandparents, my great-great-grandparents. What did they do? How did they live? In this class students will select a family member about whom they know little but would like to know more. The goal is to research and write a 1000 word essay about his or her life.

Session 1: Introduction

Session 2: Writing Biographies

Session 3: The English Essay

Session 4: Ancestor Data

Session 5: Analyzing Photographs

Session 6: Types of English Paragraphs

Session 7: Describing Appearance

Session 8: Ancestor's Personality

Session 9: Important Places

Session 10: Significant Events

Session 11: Review

Session 12: Final Speech

〔その他〕 課題・レポート

◆テキストについて

指定しない。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

Instructor's Expectations: Regular on-time attendance, preparation of daily homework assignments, and active participation in class (using English at all times).

◆成績評価方法

Methods of Evaluation: There will be continuous evaluation of a student's performance and progress in this class. Final grades will be based on attendance, active class participation, timely completion of all homework assignments, one writing project, and a final speech.

科目 英語（ライティング） 7

1 単位

担当 講師 吉原 学

センテンス・レベルのライティングのコースです。このコースには2つの目的があります。第1の目的は、英作文（センテンス・レベル）の練習を通して正確な文を書けるようになることです。きちんとした文を書けるようになれば、きちんとした英語を話せるよ

うになります。第2の目的は、センテンス・レベルのライティングの練習を通して英語における情報の伝達の仕方（語順）、文法、そして語法（語の使い方）を習得することです。これらの知識なしでは正確な文を書くことはできません。今回は、以下の5つの重要文法事項に焦点をあて学習します。

授業はペアもしくはグループを作って、受講生同士が意見交換をしながら力を付けていくようにします。みなさんが主役のコースです。

〔第1回〕 オリエンテーション&時のコントロール（時制）①

〔第2回〕 時のコントロール（時制）②

〔第3回〕 時のコントロール（時制）③

〔第4回〕 時のコントロール（時制）④

〔第5回〕 機能表現（助動詞）①

〔第6回〕 機能表現（助動詞）②

〔第7回〕 名詞&冠詞

〔第8回〕 後置修飾①

〔第9回〕 後置修飾②

〔第10回〕 接続詞①

〔第11回〕 接続詞②

〔第12回〕 総括/ファイナルテスト

◆テキスト

プリント教材。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

学習効果を高めるために、事前準備として「いいずな書店」が無料で提供している『【MEW Core 500】コア解説動画』の動画1～74までを見て、基本動詞、前置詞のコアを確認しておいてください。

URL:https://www.youtube.com/playlist?list=PLI9V6ssotJDxRKVa1YxHrW8G_2KcZ8Cup

◆成績評価方法

成績は、次の基準でつけられます。出席率・授業参加・積極性（40%）、ファイナルテスト（60%）。

また、正当な理由のない欠席が4回以上になった場合または過度の遅刻がある場合、成績がつけられなくなります。また、5分以上の遅刻3回で1回の欠席となります。

科目 英語（ライティング） 8

1単位

担当 講師 トーマス、ダックス

This advanced level writing course consists of two main parts: Creative Writing and Analytical Writing.

In the first part students will develop their creative language skills through study of the various elements of, and structures used in, written English narratives. Topics covered will include: establishing settings, building characters, creating conflict, organizing the story, and using dialogue, tense and descriptive language appropriately.

In the second part of the course students will develop their analytical language skills through the writing of an argumentative essay. We'll look at formulating strong thesis

statements, effective brainstorming, organising and outlining, and transitioning from outline to essay. In all cases the student's goal is to construct a well-formulated, persuasive essay, complete with citations and references.

Students will be required to work cooperatively with other students in class as well as complete homework independently outside of class.

〔第1回〕 Course introduction; review of writing basics; useful writing tools

〔第2回〕 Creative Writing 1 – Using descriptive language

〔第3回〕 Creative Writing 2 – Elements of Narrative

〔第4回〕 Creative Writing 3 – Group story-building activity

〔第5回〕 Creative Writing 4 – Peer editing and correction

〔第6回〕 Paraphrasing and Summarising

〔第7回〕 Writing citations and references

〔第8回〕 Analytical Writing 1 – Researching an Argumentative Essay

〔第9回〕 Analytical Writing 2 – Outlining an Argumentative essay

〔第10回〕 Analytical Writing 3 – Writing an Argumentative essay

〔第11回〕 Analytical Writing 4 – Peer editing and correction

〔第12回〕 Course summary

◆テキスト

・ All materials for this course will be provided by the instructor.

◆参考文献

None.

◆受講上の要望または受講上の前提条件

1. This class is held in a computer room. Assignments will be completed using MS Word and submitted by email attachment. A very basic level of computer competence is expected.
2. Students are required to have their own email account that can be accessed in the computer room by means of the Internet. Some typical examples of web-based services are Gmail, Hotmail, Yahoo, and Excite, but others may also work. Phone-based texting systems such as Docomo Mail or Ezweb will not be sufficient.
3. This is an advanced level class and students will be expected to use English in class to communicate with their partners.

◆成績評価方法

Evaluation will be based on writing assignments, class participation (including attendance), and a final exam.

科目 英語（ライティング） 9

1 単位

担当 経済学部教授 ノッター, デビッド M.

In this class we will cover the basics of paragraph writing. Students will also learn how to paraphrase, a skill that is very useful in academic writing. In addition to that, we will also practice writing summaries. The class will be conducted in both English and Japanese.

- 〔第1回〕 The basics of paragraph writing, part 1
- 〔第2回〕 The basics of paragraph writing, part 2
- 〔第3回〕 The basics of paragraph writing, part 3
- 〔第4回〕 Learning how to paraphrase, part 1
- 〔第5回〕 Learning how to paraphrase, part 2
- 〔第6回〕 Learning how to paraphrase, part 3
- 〔第7回〕 Summary writing, part 1
- 〔第8回〕 Summary writing, part 2
- 〔第9回〕 Summary writing, part 3
- 〔第10回〕 Combining skills: Incorporating paraphrasing and summaries into our paragraphs, part 1
- 〔第11回〕 Combining skills: Incorporating paraphrasing and summaries into our paragraphs, part 2
- 〔第12回〕 Combining skills: Incorporating paraphrasing and summaries into our paragraphs, part 3

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。
- ・There is no text for this class, but the necessary materials will be distributed to students in class.

◆成績評価方法

Evaluation will be based on attendance, paragraphs, participation, and a final examination.

科目 英語（ライティング） 10

1 単位

担当 講師 日高正司

このクラスではパラグラフ・ライティング (PW) の基礎を学びます。PWスタイルを使い、まとまりある英文を作成する能力を身につけることがねらいです。

テキストの練習問題やモデル文を使って英語の表現や論理展開を学びます。

- 〔第1回〕 イントロダクション:パラグラフ・ライティングとは何か
- 〔第2回〕 1) 出来事を語る 2) 手順を説明する
- 〔第3回〕 感情や人物、場所を描写する
- 〔第4回〕 人物や物事を定義する
- 〔第5回〕 人物や物事を比較・対照する
- 〔第6回〕 原因と結果を書く

〔第7回〕 問題を指摘して解決する

〔第8回〕 自分の意見を述べる

〔第9回〕 反対意見を述べる

〔第10回〕 データを説明・分析する

〔第11回〕 英文メール・レターを作成する

〔第12回〕 授業のまとめ

◆テキスト

- ・仲谷都、吉原学、Ruth Fallon 『Smart Writing はじめてのパラグラフ・ライティング』(成美堂、2017年) ISBN 978-4-7919-6032-3

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業外課題があります。

◆成績評価方法

授業課題 (50%) と最終試験 (50%) の総合評価とする。

科目 英語（ライティング） 11

1 単位

担当 講師 柴田由佳子

本授業は、主に2つの内容から構成されます。1つ目は文法を重視した英作文の演習です。文法に対して苦手意識をお持ちの方もおいでかと思いますが、「評価される英語」を目指す場合には欠かせないものです。文法の意味や使い方の確認から始め、練習問題を解いたり文法事項が用いられている英文を読んだりしながら理解を深めた上で、英作文の演習につなげていきます。テキストは必ず予習してきてください。2つ目はグループで行うエッセイ・ライティングです。ここで言うエッセイとは日本語の随筆ではなく小論文に当たるものです。必要とされるのは英語力だけではなく、論理的に思考する力など、多くの力が必要とされます。各々の得意分野で貢献し、グループ全体で1つのエッセイを書きあげてください。

〔第1回〕 テキスト 1章

〔第2回〕 ライティング

〔第3回〕 テキスト 2章

〔第4回〕 エッセイ・ライティング

〔第5回〕 テキスト 3章

〔第6回〕 テキスト 4章

〔第7回〕 テキスト 5章

〔第8回〕 エッセイ・ライティング

〔第9回〕 テキスト 6章

〔第10回〕 テキスト 7章

〔第11回〕 試験・総括

〔第12回〕 エッセイ・ライティング

〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布します (予習が必要です)。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎日の予習と授業への積極的な参加を重視します。また本授業ではグループワークも取り入れますので、お互いの協力が不可欠となります。ご自身の担当分が終わらなかった場合は、授業外の時間に行ってください。辞書は毎回持参してください。

◆成績評価方法

授業への積極的な参加、エッセイ、試験の結果で総

合的に評価します。

科目 英語（ライティング）12

1 単位

担当 講師 戸嶋真弓

簡単な英語で書かれたDVD付きの口語英語のテキストを用いて、英語というのは実際にどのように使われているのかを学び、テキストの中で起こっているドラマの筋書きを英語で表現できるようにしていきます。〔第1回〕 ガイダンスを行います。

簡単な英語文が書けるようになるためには、どのようなことを行えば良いのかを説明します。

〔第2回〕 自己紹介を書きます。

〔第3回〕 テキストのWeek 1 からWeek 3を読み、主人公が何をしているのかを書きます。ここでは、現在形と現在進行形を復習します。

〔第4回〕 Week 4 からWeek 6を読み、主人公が何をしたかを書きます。ここでは、過去形と過去進行形を復習します。

〔第5回〕 Week 7からWeek 9を読み、主人公がこれから何をするのかを書きます。ここでは、未来表現の確認をします。

〔第6回〕 グループワークを行い、日本語で書かれた文章を、テキストを参考にして、英語で同等の表現が書けるようにしていきます。

〔第7回〕 Week 10からWeek 13を参考にして、実際に使う表現を学んでいきます。

〔第8回〕 Week 14からweek 17を参考にして、実際に英作文が自分でできるようにしていきます。

〔第9回〕 Week 18からWeek 21を参考にして、様々な情報が表現できるようにしていきます。

〔第10回〕 Week 22からWeek 25を参考にして、自分で自分の意見を形成し、書けるようにしていきます。

〔第11回〕 復習を行います。また、グループワークをしていきます。

〔第12回〕 試験・総括をします。

◆テキスト

・松本 茂監修『おとなの基礎英語 season 2』（主婦の友社、2014年）ISBN 978-4-07-293166-0

◆受講上の要望または受講上の前提条件

テキストにはDVDが付いていますので、受講前にWeek 1 - 25を観ておく必要があります。また、テキストには簡便な日本語訳が付いていますので、すべて目を通し、主人公がどのような人で、どのようなことをしているのかを把握しておく必要があります。中学校までで学習した文法事項を忘れての方は、必ず確認しておいてください。

◆成績評価方法

授業時の発言・板書や予習による貢献度、グループワーク、最終日の確認テストの合算によります。

科目 英語（ライティング）13 【実力養成クラス(中～上級)】

1 単位

担当 法学部教授 佐藤元状

【応用力をつけることを目的とした、通常のクラスよりも難易度が高いクラスです。】

英語でアカデミックな文章を書くための基本的なスキルをわずか1週間で学習します。前半はパラグラフ（＝段落）の書き方、後半はエッセイ（＝複数の段落からなる文章のまとまり）の書き方の訓練をします。英語である一定の長さの論理的な構成のリサーチ・ペーパー（＝自分で決定したテーマについて独自のリサーチをして、自己の見解を導き出したもの）を書けるようになるには、継続的な努力と勉学への真摯な態度が不可欠です。ライティングの宿題の量は少ないとは決して言えませんが、がんばってついてきてください。こちら全力で指導にあたります。参加者のみなさんの1週間後の英語のライティング能力の飛躍的な向上を保証します。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回～第6回〕 パラグラフの書き方の訓練

〔第7回～第10回〕 エッセイの書き方の訓練

〔第11回・第12回〕 ワークショップ

〔その他〕 課題・レポート(定期的な宿題およびリサーチ・ペーパー)

◆テキスト

・Alice Oshima / Ann Hogue 『Longman Academic Writing Series Level 4 Student Book (5E)〔第5版〕』（Pearson Japan、2013年）ISBN 978-0132915694

◆参考文献

授業中に指示します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

やる気のある学生を歓迎します。授業には、英英辞典の入った電子辞書を持参してください。

◆成績評価方法

成績は、出席、平常点、提出物、リサーチ・ペーパーから総合的に判断します。配分の目安は、1) 出席、平常点、提出物を合わせて30%、2) リサーチ・ペーパー70%です。

科目 英語（ライティング）14

1 単位

担当 講師 由井口バート

英語で理論的な文を書き、自分の主張や説明などを読んだ人に伝える事を目的としています。授業では各自英文を作成し、作文の構築法に従って説得力のある明確な文を書く練習をします。最終的にある程度の長文を書く事を目指します。明確さや理論性を重視する英文においてはスキルやルールも重要です。文を書く事が得意でない人も、他の受講生を気にせずに丁寧に自分なりのペースで文を書いてもらいます。書く力を身につけるには実際に多くの文を書く事が一番良い方法で、多く書く事により作文力が上がります。出された課題に対し下書きをし、それを講師が添削し、仕上げて行きます。良い文を書くのが目的ですので、繰り返し

返し書く事により書く力が養われていきます。随時新しい課題がだされませんが、この授業では課題を幾つ終わらすかではなく、書いた内容を重視しますので、この課題に対し丁寧に取り組んで欲しいと思います。授業の内容はクラスの人数、課題の進み具合により、内容が前後する場合があります。(課題は10ありますが、全ての課題を早く終わらせた人たちには新たに課題が与えられます。)

- 〔第1回〕 自己紹介：各自英語で自己紹介の文を書いてもらいます。
- 〔第2回〕 語彙チェック：英文を書く場合ある程度の語彙が必要に成ります。ここでは辞書を使わないで語彙チェック課題が出ます。
- 〔第3回〕 人物を描写する：英語で人物の特徴、外見などを説明します。
- 〔第4回〕 風景描写をする：景色などを英語でいかに正確に表せるか挑戦します。
- 〔第5回〕 道案内の文を書く：道順を説明するのは何語でも難しいですが、この回は英語で道順の説明を書きます。
- 〔第6回〕 日本昔話を書く：既にある昔話を英語で書きます。どの昔話を選ぶかは個人の自由です。
- 〔第7回〕 詩を書く：英語で詩を書くことに挑戦してもらいます。どのような詩を書くかは授業で説明をします。
- 〔第8回〕 説明文を書く：英語で何かの説明文を書いてもらいます。各自得意な物を選んで書いてもらいます。
- 〔第9回〕 故事成語：故事成語の由来と使い方を英語で説明してもらいます。何を選んで説明す

るか自由です。

- 〔第10回〕 比較／対比：英語で何かを比較／対比してもらい、説明文を書いてもらいます。
- 〔第11回〕 最終課題：最終課題（長文）は前の授業で発表します。最終課題は下書きをし、添削の後に提出する為に清書をしてもらいます。
- 〔第12回〕 最終課題：最終課題の添削をし、清書しての提出になります。提出する場合は全員同じ用紙でしてもらいます。

◆テキスト

指定しない。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

辞書（電子辞書、スマートフォン、タブレットなども可）を必ず持参する事。ただしコンピューターを使つての作文は禁止です。この授業は全て手書になります。これはコンピューターを使った場合、スペルチェックなどが入り、書く練習にならないからです。その他の必要な事柄については初回の授業で説明をします。(例：作文を書く場合は提出する最終課題以外は全てエンピツ、フリクションペンなどの消せる物を使う。)

◆成績評価方法

この授業の性質上、毎回出席を確認し、課題を一つ一つ終わらせていきます。ただし、最初に述べたように、終わらせた課題の数ではなく、内容と表現力を重視して評価します。全ての課題が終了していても大丈夫です。ただし最終課題は全員提出になります。最終課題は評価の30%、他の課題は総合的に50%、出席は20%になります。ただし、正当な理由（病気など）がない授業の欠席が3回以上ある場合は自動的にDになりますので注意してください。

外国語科目／ドイツ語

科目 ドイツ語（初級前期）Ⅰ—A 1単位

担当 商学部准教授 西尾宇広 / 講師 秋田静男

初級前期は、ABC、発音の仕方から始めて、ドイツ語文法の基本ルールを学習し、ドイツ語を読み、書き、聞き、話すことのしっかりとした基礎をつくる。教科書の約半分、zu不定句のところまで学習する。

- 〔第1回〕 アルファベット、第1課：発音
- 〔第2回〕 第2課：動詞の現在人称変化
- 〔第3回〕 第3課：冠詞と名詞（単数）
- 〔第4回〕 第4課：冠詞類
- 〔第5回〕 第5課：前置詞
- 〔第6回〕 第6課：名詞の複数形
- 〔第7回〕 第7課：動詞の人称変化（特殊）、命令形
- 〔第8回〕 第8課（1）：話法の助動詞
- 〔第9回〕 第8課（2）：未来形
- 〔第10回〕 第9課：定形後置
- 〔第11回〕 第10課：zu不定句
- 〔第12回〕 まとめと試験

◆テキスト

・大谷弘道・井戸田総一郎・岩下真好・大畑純一・識

名章喜編『新編初歩ドイツ語』（慶應義塾大学出版会、1995年）、ISBN 978-4-7664-0260-5

◆受講上の要望または受講上の前提条件

この段階は、今後のドイツ語のあらゆる学習の基礎となるものなので、きちんと身につけてほしい。

◆成績評価方法

スクーリング最終日の試験によって評価する。

科目 ドイツ語（初級後期）Ⅱ—A 1単位

担当 商学部准教授 西尾宇広 / 講師 秋田静男

初級後期は、初級前期に引き続いてドイツ語の文法の基礎を学ぶ。教科書の後半、形容詞以後を学習する。

- 〔第1回〕 初級前期の総ざらい
- 〔第2回〕 第11課：形容詞の変化
- 〔第3回〕 第12課：分離動詞
- 〔第4回〕 第13課：再帰動詞
- 〔第5回〕 第14課：動詞の3要形と過去
- 〔第6回〕 第15課：現在完了
- 〔第7回〕 第16課：受動形
- 〔第8回〕 第17課：関係代名詞

- 〔第9回〕 第18課：接続法の形態
 〔第10回〕 第19課：接続法の用法（1）—間接話法
 〔第11回〕 第20課：接続法の用法（2）—非現実話法
 〔第12回〕 まとめと試験
 テキスト、注意事項等は、ドイツ語（初級前期）Ⅰ—Aと同じ。

科目 ドイツ語（中級）Ⅲ—A

1 単位

担当 経済学部教授 七字眞明

このクラスでは、ドイツ語の語彙を増やし、読解力を身につける練習に取り組みます。テキストを読みながら、ドイツ語の基本的な文法事項の復習も行います。

テキストには『時事ドイツ語 2018年度版』(Andrea Raab／石井寿子著・朝日出版社・2018)を使用します。

- 〔第1回〕 第10課のテキスト「Zwanzig Jahre Kyoto-Protokoll: ein Grund zum Feiern?」のうち、38ページ1行目から9行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
- 〔第2回〕 第10課のテキスト「Zwanzig Jahre Kyoto-Protokoll: ein Grund zum Feiern?」のうち、38ページ10行目から39ページ24行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
- 〔第3回〕 第10課のテキスト「Zwanzig Jahre Kyoto-Protokoll: ein Grund zum Feiern?」のうち、39ページ25行目から37行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
- 〔第4回〕 第10課のテキスト「Zwanzig Jahre Kyoto-Protokoll: ein Grund zum Feiern?」の内容に関連した練習問題として、40ページの問題Ⅰから問題Ⅴに取り組みます。
- 〔第5回〕 第5課のテキスト「Das eigene Auto verliert für Deutsche an Bedeutung」のうち、18ページ1行目から11行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
- 〔第6回〕 第5課のテキスト「Das eigene Auto verliert für Deutsche an Bedeutung」のうち、18ページ12行目から19ページ24行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
- 〔第7回〕 第5課のテキスト「Das eigene Auto verliert für Deutsche an Bedeutung」のうち、19ページ25行目から31行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。さらに、第5課のテキストの内容に関連した練習問題として、20ページの問題Ⅰと問題Ⅱに取り組みます。
- 〔第8回〕 第5課のテキスト「Das eigene Auto verliert für Deutsche an Bedeutung」の内容に関連した練習問題として、20ペー

ジの問題Ⅲから問題Ⅴに取り組みます。

- 〔第9回〕 第1課のテキスト「Erinnerung an Theodor Storm」のうち、2ページ1行目から14行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
- 〔第10回〕 第1課のテキスト「Erinnerung an Theodor Storm」のうち、2ページ15行目から3ページ35行目までを、履修者の皆さんに日本語に翻訳していただきます。
- 〔第11回〕 第1課のテキスト「Erinnerung an Theodor Storm」の内容に関連した練習問題として、4ページの問題Ⅰから問題Ⅴに取り組みます。

- 〔第12回〕 まとめと試験と総括を行います。

（注意）なお、各回の授業で扱う予定範囲は、履修者のドイツ語文法の理解度に応じ、多少前後する可能性があります。

◆テキスト

- ・Andrea Raab／石井寿子著『時事ドイツ語 2018年度版』（朝日出版社、2018年）ISBN978-4-255-25414-2

◆参考文献

特にありません。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業では、皆さんにテキストの翻訳を担当し練習問題に挑戦していただくと考えています。授業開始までに必ず予習（独和辞書を用いてひととおりテキストの日本語訳を準備する）をして授業に臨んでください。また、ドイツ語の文法を忘れてしまった方は、以前使用した文法の教科書も持参してください。

◆成績評価方法

最終授業日に行う試験（50％）と平常点（50％）の総合評価とします。

科目 ドイツ語（中級）Ⅲ—B

1 単位

担当 経済学部教授 七字眞明

ドイツ語（中級）Ⅲ—Aと同じ。

科目 ドイツ語（上級）Ⅳ—A

1 単位

担当 名誉教授 中山 豊

ドイツ人の言語学者が日本語とドイツ語の構造的相違、日本人とドイツ人の言語行動についての相違について著したエッセイを読みながら、ドイツ語の読解力を養うことを中心的目標とします。

平行して文法・作文練習も行い、ドイツ語による発信力の向上にも努めます。

- 〔第1回〕 ドイツ語初級・中級の復習
 〔第2回〕 日本語は難しい言語か（Ⅰ）
 〔第3回〕 日本語は難しい言語か（Ⅱ）
 〔第4回〕 言語と文字との関係（Ⅰ）
 〔第5回〕 言語と文字との関係（Ⅱ）
 〔第6回〕 日本人と外国人との対話の特異性（Ⅰ）
 〔第7回〕 日本人と外国人との対話の特異性（Ⅱ）
 〔第8回〕 日本人と外国人の言語行動の相違（Ⅰ）

- 〔第9回〕 日本人と外国人の言語行動の相違（Ⅱ）
 〔第10回〕 日本語とドイツ語の敬語（Ⅰ）
 〔第11回〕 日本語とドイツ語の敬語（Ⅱ）
 〔第12回〕 まとめと試験

◆テキスト

プリントを適宜配布します。

◆参考文献

- ・中島悠爾他『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社 2003年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

テキストの指定された範囲を必ず予習して授業に臨んでください。

◆成績評価方法

平常点（50％）と最終日の試験（50％）により評価します。

科目	ドイツ語（上級）Ⅳ—B	1単位
担当	講師 津崎正行	

この授業では、ドイツの文化、歴史、社会などをテーマとした文章を読みながら、ドイツ語の文章を正確に読むために必要な文法事項を学びます。あわせて、重要な熟語表現、慣用句、語彙などを効率的に身につけます。

- 〔第1回〕 Lektion 1: 地理と気候 Lektion 2: 食べ物と飲み物

- 〔第2回〕 Lektion 3: ドイツ語という言語
 Lektion 4: ドイツの大学
 〔第3回〕 Lektion 5: 休暇と趣味
 Lektion 6: 治安
 〔第4回〕 Lektion 7: 教育システム
 〔第5回〕 Lektion 8: 政治システム
 〔第6回〕 Lektion 9: 歴史
 〔第7回〕 Lektion 10: 音楽
 〔第8回〕 Lektion 11: 宗教
 〔第9回〕 Lektion 12: ドイツの分割
 〔第10回〕 Lektion 13: EUとユーロ
 〔第11回〕 Lektion 14: 外国人、移民、難民
 〔第12回〕 まとめと試験
 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

- ・斎藤太郎、Siegfried Kohlhammer『知りたいドイツ語~読みながらステップアップ~』（朝日出版社、2018年）、ISBN 978-4-255-25403-6

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業はそのつど、参加者がどこまで理解できているかを確認しながら進めてゆきます。したがって、基本的には毎回、すべての方に発言をしていただくこととなりますので、事前に指定された範囲の予習をお願いしてください。

◆成績評価方法

毎回の授業での発言および最終日の試験によって、総合的に評価します。

外国語科目／フランス語

科目	フランス語（初級前期）Ⅰ—A フランス語（初級前期）Ⅰ—B	1単位
担当	講師 森 千夏 / 講師 五味田 泰	

フランス語の初級文法の授業です。「綴りと発音」から始めて「目的語人称代名詞の位置」までを学習します。教科書は0課から10課までを学習します。毎回教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で授業を進めていきます。

- 〔第1回〕 Leçon 0 綴りと発音
 〔第2回〕 Leçon 1 「名詞の性と数」・「冠詞」・「提示表現」
 〔第3回〕 Leçon 2 「主語人称代名詞」・「動詞êtreとavoirの直接法現在形」・「疑問文に対する答え方」
 〔第4回〕 Leçon 3 「-er型規則動詞と-ir型規則動詞の直説法現在形」・「形容詞」
 〔第5回〕 Leçon 4 「指示形容詞」・「所有形容詞」・「強勢人称代名詞」
 〔第6回〕 Leçon 5 「否定文・否定のde」・「疑問文」・「否定疑問文に対する答え方」
 〔第7回〕 Leçon 6 「不規則動詞allerとvenirの直接法現在形」・「近接未来と近接過去」・「前置詞àとdeと定冠詞の縮約」・「強調構文」

- 〔第8回〕 Leçon 7 「疑問形容詞」・「疑問副詞」・「疑問代名詞（1）一性・数変化しないもの」
 〔第9回〕 Leçon 8 「命令法」・「非人称構文」・「疑問代名詞（2）一性・数変化するもの」
 〔第10回〕 Leçon 9 「比較級」・「最上級」・「特殊な優等比較級・優等最上級」
 〔第11回〕 Leçon 10 「人称代名詞」・「目的語人称代名詞の位置」
 〔第12回〕 総括・最終試験

◆テキスト

- ・石上亜紀子他『アトリエ・フランセー見開きフランス語文法（CD付）』（朝日出版社、2007年）ISBN 978-4-255-35184-1

◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語を初めて学ぶ学生を対象とします。1回の授業で教科書の1課を学習するという比較的速いペースで進みますので、授業前の予習と授業後の復習は不可欠です。予習に関しては、授業前に授業で学ぶ課の文法説明を一読して理解するよう努めるようにしてください。復習に関しては、教科書の練習問題はもちろん、付録の文法問題も必ず解き、授業で学習した課の内容を確実にマスターするよう心がけてください。なお、教科書にはCDも付いていますので、フランス語の発音の学習に大いに役立ててください。

一般に、語学の学習にとって反復練習は欠かせません。動詞の活用を含めた文法事項は、何度も音読して

暗記し、また忘れたら覚え直すという作業を繰り返し、できるだけ多くの文法練習の問題を解くようにしてください。この作業を繰り返すうちに確実にフランス語の実力がつくようになるでしょう。

◆成績評価方法

平常点および最終試験による。

科目 フランス語（初級前期）Ⅰ—C 1単位

担当 講師 クレメール小椋, アレクサンドラ J. / 講師 小嶋竜寿

フランス語（初級前期）Ⅰ—A、Bと同じ。

科目 フランス語（初級後期）Ⅱ—A 1単位

担当 講師 クレメール小椋, アレクサンドラ J. / 講師 小嶋竜寿

フランス語初級前期にひきつづき、「過去分詞」から「接続法」までを学習します。教科書は11課から20課までを学習します。1回の授業で教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で進めていきます。なお初回の授業は前期に学習した文法の復習に充てます。

- 〔第1回〕 Leçon 6 から Leçon 10 までの文法事項の復習
- 〔第2回〕 Leçon 11 「過去分詞」・「直説法複合過去」
- 〔第3回〕 Leçon 12 「代名動詞」
- 〔第4回〕 Leçon 13 「中性代名詞 en, y, le」
- 〔第5回〕 Leçon 14 「関係代名詞」
- 〔第6回〕 Leçon 15 「受動態」・「指示代名詞」・「所有代名詞」
- 〔第7回〕 Leçon 16 「直説法半過去形」・「直説法大過去形」
- 〔第8回〕 Leçon 17 「直説法単純未来形」・「直説法前未来形」
- 〔第9回〕 Leçon 18 「現在分詞」・「ジェロンディフ」
- 〔第10回〕 Leçon 19 「条件法現在形・過去形」
- 〔第11回〕 Leçon 20 「接続法現在形・過去形」
- 〔第12回〕 総括・最終試験

◆テキスト

- ・石上亜紀子他『アトリエ・フランセー見開きフランス語文法（CD付）』（朝日出版社、2007年）
ISBN 978-4-255-35184-1

◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語初級前期を終えた学生、またはそれと同程度の知識を持つ学生を対象とします。この科目の受講希望者は、第1回目の授業の前までに『アトリエ・フランセ』の特に6課から10課までを自主学習しておいてください。第1回目の授業ではこれらの課の簡単な復習をします。

テキスト、注意事項などはフランス語（初級前期）Ⅰ—A、B、Cと同じです。

◆成績評価方法

平常点および最終試験による。

科目 フランス語（中級）Ⅲ—A 1単位

担当 総合政策学部専任講師 西川葉澄

この授業では、初級文法を復習しながら簡単なフランス語の文章を読んでいきます。はじめから訳読せずに、まずは文章をざっと全体的に理解できる読み方を練習します。その後精読すべき部分をしっかり読む練習もしましょう。また、自信を持って正しく音読できるように、発音練習も随時行います。自律した学習ができるような方法も紹介します。

〔第1回〕 レベルチェックと Leçon 1 : Tintin

〔第2回〕 Leçon 2 : Macarons

〔第3回〕 Leçon 3 : Train à grande vitesse

〔第4回〕 Leçon 4 : Pétanque

〔第5回〕 Leçon 5 : Baguette et béret

〔第6回〕 Leçon 7 : Brigitte Bardot

〔第7回〕 第6回までのまとめと復習

〔第8回〕 Leçon 9 : Vacances

〔第9回〕 Leçon 11 : Beaujolais Nouveau

〔第10回〕 Leçon 12 : Châteaux de la Loire

〔第11回〕 Leçon 14 : Belmondo et Delon

〔第12回（最終回）〕 試験および総括

〔その他〕 3回目以降、奇数回には毎回小テストを行います。

◆テキスト

- ・Denis C. MEYER『フランスを読み解く鍵 第3巻』（アシェット・ジャポン、2017年）
ISBN 978-4-907970-16-1

◆参考文献

中條屋進他編、『ディコ仏和辞典』、白水社、2016年、ISBN9784560000441やCasio EX-word XD-G7200など、信頼できる辞書。他の辞書（アプリなどを含む）については初回の授業で説明します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語の初級文法を理解していること。

初回までの予習はこれまでに学習した初級文法や語彙の復習にあててください。その後の予習箇所は1回目の授業以降に指示します。3回目以降、奇数回には毎回小テストを行います。

◆成績評価方法

平常点（授業への取り組み、小テスト）および最終日に行う試験で総合的に評価します。

科目 フランス語（中級）Ⅲ—B 1単位

担当 講師 真部清孝

初級文法を復習しつつ、簡単なフランス語を読んでいきます。原典講読の手ほどきをするクラスです。

〔第1回〕 講読：テキスト第1課：Les chaînes d'information en continu

〔第2回〕 講読：テキスト第2課：Arc

〔第3回〕 講読：テキスト第3課：Les startups françaises

〔第4回〕 講読：テキスト第4課：Le financement des études en France

〔第5回〕 講読：テキスト第5課：La recherche

- d'emploi des jeunes
- 〔第6回〕 文法事項の確認
- 〔第7回〕 講読：テキスト第6課：Les nouvelles régions françaises
- 〔第8回〕 講読：テキスト第7課：Nice et Cannes
- 〔第9回〕 講読：テキスト第8課：Les Britanniques installés en Dordogne
- 〔第10回〕 講読：テキスト第9課：Lourdes
- 〔第11回〕 講読：テキスト第10課：Voltaire et la tolérance
- 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

- ・加藤晴久／ミシェル・サガズ『時事フランス語 2018年度版』（朝日出版社、2018年） ISBN 978-4-255-35281-7

◆参考文献

なし。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語の初級文法を理解していること。

◆成績評価方法

最終日の試験によって評価。

科目 フランス語（上級）Ⅳ—A 1単位**担当** 講師 原山重信

マラルメの散文を読む 担当者の専門研究対象である19世紀後半の詩人、マラルメの散文のうち、その詩論のエッセンスである「詩の危機」を講読します。少々専門的になりますが、ヴァリエーションを突き合せながら、いくつかある既訳も参照しつつ、丁寧に読んでいきましょう。

〔第1回〕 「詩の危機」の成り立ち

〔第2回〕 パラグラフ1～4

〔第3回〕 パラグラフ5～8

〔第4回〕 パラグラフ9～12

〔第5回〕 パラグラフ13～16

〔第6回〕 パラグラフ17～20

〔第7回〕 パラグラフ21～23

〔第8回〕 パラグラフ24～26

〔第9回〕 パラグラフ27～30

〔第10回〕 パラグラフ31～35

〔第11回〕 パラグラフ36～38

〔第12回〕 試験および総括

〔その他〕 受講に先立って配布するテキストの全訳を作って、授業に臨み、授業で扱い切れない部分が出た場合は、残りの訳を提出していただきます。

◆テキスト

テキストはありません。プリントを配布します。

受講生が確定した段階で、予めテキストをお送りしますから、必ず、読み・意味を確認して、ご自身で訳文を作ってから授業に参加してください。

◆成績評価方法

授業内活動の状況と、最終試験の結果をみて、総合的に判断します。

科目 フランス語（上級）Ⅳ—B 1単位**担当** 総合政策学部准教授 宮代康丈

中級程度の文法知識を持っていることを前提に、フランス語圏で実際に出版されている本を一冊まるごと読みます。授業で取り上げるのは、スイスで創作活動が続けたハンガリー出身の作家アゴタ・クリストフの自伝です。フランス語に慣れるために、1回の授業で多くのページを読み進めますが、それでも各種の単語や表現、構文については緻密な理解を求めます。フランス語で書いたり話したりする時に、この授業を通して身に着けた事項を実際に応用して使えるようになることが最終的な目標です。

〔第1回〕 « Débuts » (p. 5-8) の読解・文法説明

〔第2回〕 « De la parole à l'écriture » (p. 9-12) の読解・文法説明

〔第3回〕 « Poèmes » (p. 13-16) の読解・文法説明

〔第4回〕 « Clowneries » (p. 17-20) の読解・文法説明

〔第5回〕 « Langue maternelle et langues ennemies » (p. 21-24) の読解・文法説明

〔第6回〕 « La mort de Staline » (p. 25-29) の読解・文法説明

〔第7回〕 « La mémoire » (p. 31-35) の読解・文法説明

〔第8回〕 « Personnes déplacées » (p. 37-40) の読解・文法説明

〔第9回〕 « Le désert » (p. 41-44) の読解・文法説明

〔第10回〕 « Comment devient-on écrivain ? » (p. 45-49) の読解・文法説明

〔第11回〕 « L'analphabète » (p. 51-55) の読解・文法説明

〔第12回〕 まとめ・試験

◆テキスト

- ・Agota Kristof『L'Analphabète. Récit autobiographique』（Zoé, 2004） ISBN 978-2-88182-512-5

なお、本書には参考文献の欄に挙げた邦訳があります。内容を理解するための助けとして利用してかまいません。

◆参考文献

- ・アゴタ・クリストフ『文盲：アゴタ・クリストフ自伝』（堀茂樹訳、白水社、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

中級程度の文法知識を持っていることが受講の前提です。また、毎回の授業に出席するにあたっては、事前に自分で辞書を引いて指定箇所を予習しておくことが欠かせません。

◆成績評価方法

授業最終日に行なう筆記試験の結果に平常点（出席・予習・ディクテ）を加えて総合的に評価します。

外国語科目／選択外国語

科目 中国語（初級）A 1単位

担当 商学部准教授 高橋幸吉

中国語を初めて学ぶ人を対象とした授業です。発音記号であるピンインの読み書きが出来るようになり、簡単な会話を正しい発音で行えるようになることを目標とします。授業の三割（最初の二日間はほぼ全て）は発音練習が占めますので、少々体力を要する授業となります。

- 〔第1回〕 “中国語”とは?、発音篇 1:四声と短母音
- 〔第2回〕 発音篇 2:子音と有気音・無気音
- 〔第3回〕 発音篇 3:捲舌音・複母音
- 〔第4回〕 発音篇 4:-nと-ng・変調・r化
- 〔第5回〕 発音のまとめ（小テスト）、テキスト第1課
- 〔第6回〕 テキスト第2課
- 〔第7回〕 第1・2課単語小テスト、テキスト第3課
- 〔第8回〕 テキスト第4課
- 〔第9回〕 第3・4課単語小テスト、テキスト第5課
- 〔第10回〕 テキスト第6課
- 〔第11回〕 第5・6課単語小テスト、ここまでの復習
- 〔第12回〕 最終試験（50分間）・解答解説・総括
- 〔その他〕 小テスト

◆テキスト

- ・遠藤光暁 監修『入門ビジュアル中国語』（朝日出版社、2015年）
ISBN 978-4-255-45262-3

◆成績評価方法

小テスト1割、最終日の試験9割で算出します。
詳細は初回授業で説明いたします。

科目 中国語（初級）B 1単位

担当 商学部准教授 高橋幸吉

中国語（初級）Aと同じ。

科目 スペイン語（初級） 1単位

担当 経済学部専任講師 小原 正

スペイン語を初めて学ぶ学生のためのクラスです。まず、スペイン語のアルファベットや発音に慣れていただいたのち、初級文法を学んでいきます。

- 〔第1回〕 アルファベットと発音
- 〔第2回〕 名詞、定冠詞
- 〔第3回〕 主語人称代名詞、動詞ser, estar
- 〔第4回〕 動詞の規則活用（直説法現在）、指示詞
- 〔第5回〕 形容詞、動詞ir, venir
- 〔第6回〕 動詞hacer、形容詞（2）
- 〔第7回〕 動詞tener, saber, conocer、不定語と否定語
- 〔第8回〕 動詞dar、目的格人称代名詞
- 〔第9回〕 語幹母音変化動詞、動詞gustar
- 〔第10回〕 直説法現在の動詞活用のまとめ

〔第11回〕 試験

〔第12回〕 総括とふりかえり

◆テキスト

- ・西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』（同学社、2017年）、ISBN 978-4-8102-0432-2

◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎回宿題が出ます。宿題を必ず行なったうえで、授業に参加してください。復習も毎回の授業のあと、必ず行なってください。

受講生のみなさんの理解度をふまえながら、授業を進めていきます。授業計画の内容と順序には変更のある場合があります。

◆成績評価方法

平常点と試験をあわせて、総合的に評価します。

科目 ロシア語（初級） 1単位

担当 講師 中澤朋子

この授業は、ロシア語を初めて学ぶ方を対象にした入門のクラスです。ロシア語の文字から始めて、最終的には比較的やさしいロシア語の文をすらすらと読めるようにすること、さらに可能ならば、会話でよく使われる簡単なフレーズを発話できるようにすることを目指します。受講生のみなさんの理解度をそのつどふまえながらゆっくりと進めていきますので、根気強く且つ意欲的に授業に臨んでください。概して「難解な言語」と評されることの多いロシア語ですが、丁寧に向き合えば、全12回の授業を終える頃にはロシアやロシア語そのものに愛着さえ覚えるようになっていることでしょう。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 文字と発音
- 〔第3回〕 平叙文、疑問文
- 〔第4回〕 動詞の現在人称変化（1）
- 〔第5回〕 所有代名詞、前置詞
- 〔第6回〕 動詞の現在人称変化（2）
- 〔第7回〕 所有の表現、動詞の過去形
- 〔第8回〕 運動の動詞
- 〔第9回〕 合成未来、動詞の体
- 〔第10回〕 形容詞短語尾形
- 〔第11回〕 2人称命令法、比較級
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・桑野隆『初級ロシア語20課《CD付》』（白水社、2012年）、ISBN 978-4-560-08614-8

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特にありません。ロシアやロシア語に少しでも興味のある受講生のみなさんの積極的な参加をお待ちしています。

◆成績評価方法

平常点および最終試験によって評価します。

科目 朝鮮語（初級）	1 単位
担当 講師 崔 鶴山	

韓国・朝鮮語の文字（ハングル）と発音を学び、基本的な単語と文型を練習します。これにより、「～は～です」「～を～（し）ます」程度の短文が書けるように、また、口頭で言えるように練習します。単語や文章を読むときは、文字を見るだけでなく、発音を聞いて声に出す練習が必要です。語順や漢字語など日本語との共通点は学習上の大きなメリットです。全12回の授業では、日本語の語順で単語を並べて短文が作れるところまで進みます。

〔第1回〕 講義の概要、文字と発音

〔第2回〕 文字と発音

〔第3回〕 文字と発音

〔第4回〕 文字と発音

〔第5回〕 「～は（名詞）です／ですか」

〔第6回〕 「～があります／ありません」

〔第7回〕 動詞・形容詞の表現、中間テスト

〔第8回〕 動詞・形容詞の表現

〔第9回〕 動詞・形容詞の表現

〔第10回〕 否定文、疑問詞

〔第11回〕 試験

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・金智賢『教養韓国語初級』（朝日出版社、2015年）、ISBN 978-4-255-55636-9

◆受講上の要望または受講上の前提条件

文字から学ぶ入門の授業です。既習者の割合が多い場合でも初心者への理解度に合わせて授業を進めますので、その点、了解してください。

◆成績評価方法

平常点と試験で評価します。出席重視。

保健体育科目

科目 保健衛生	1 単位
保健管理センター教授 森 正明 / 同教授 徳村光昭 担当 同教授 横山裕一 / 同准教授 広瀬 寛 同准教授 和井内由充子	

本講義は慶應義塾大学保健管理センターの医師が各自の専門分野で近年話題になっている疾患を概説し、健康な生活のヒントを提供することを目的とする。

〔第1回〕 現代の子どもたちには、肥満が多い一方で、やせも増加している。肥満につながる子どもの生活習慣、思春期やせ症（神経性やせ症）について、新しい研究データを提示し解説する。（担当 徳村 光昭 教授）

〔第2回〕 虚血性心疾患は生活習慣病の最終的直接死因のひとつであり、突然死の原因としても重要である。その病態、予防、緊急時の処置について。（担当 和井内 由充子 准教授）

〔第3回〕 飲酒と健康には密接な関係がある。飲酒が身体に与える急性と慢性の影響およびその

個人差を示し、適正飲酒、即ち健康的な飲酒とは何かを解説する。（担当 横山 裕一 教授）

〔第4回〕 インフルエンザ、結核、食中毒など、日頃、健康な人でも注意が必要な感染症の予防や治療について。（担当 森 正明 教授）

〔第5回〕 最近のライフスタイルの変化が糖尿病や高血圧を増加させている。これら生活習慣病の正しい理解とその予防・治療について。（担当 広瀬 寛 准教授）

〔第6回〕 試験・講評（担当 広瀬 寛 准教授）

◆テキスト

・慶應義塾大学保健管理センター編『保健衛生』（通信テキスト、2018年）

◆参考文献

各担当者が資料配布。

◆成績評価方法

出席状況と最終日の試験による。試験は資料などの持ち込みは不可で行う。

体育スクーリング／スポーツクラス

各種目の実施場所、更衣室等、体育スクーリング実施に関する詳細は、7月中旬に送付する「体育スクーリング実施要綱」に発表します。

なお、スクーリング期間中は、天候等により実施場所・更衣室が変更になることがありますので、毎日必ず体育スクーリング用掲示板（記念館入口前、または並木道途中郵便ポスト前）を確認してください。

科目 ゴルフ	1 単位
担当 講師 勝又正浩	

定員—20名

実施場所—体育会ゴルフ部練習場

準備するもの—動きやすい服装、運動靴（ゴルフスパイク不可）、練習用クラブ数本、ゴルフグローブ、タオル、飲み物

若年層から高齢者層まで幅広く楽しむ事が出来るゴ

ルフを、クラブの握り方から指導します。

スポーツとしてのゴルフを学ぶことにより、健康増進、体力アップに繋げて行きたいと考えています。

又、ゴルフの歴史、ルール、ゴルフ業界の現在、過去、未来についての講義も行います。

初級者にはクラブの握り方から、コースラウンドに必要な技術の基礎を指導し、講義終了後の練習方法に関しても指導します。

中・上級者には、個人別の課題を抽出し、より一層のレベルアップを図れるように具体的に指導します。

〔第1回〕 講義内容：ゴルフを行うに当たっての注意事項の説明。ゴルフの歴史と、日本のゴルフについて。

実技内容：ゴルフの基礎(スタンス、グリップ、アドレス)

〔第2回〕 講義内容：ゴルフルールについて

実技内容：ゴルフにおける準備体操

〔第3回〕 講義内容：プロゴルフに関して

実技内容：個別指導

〔第4回〕 講義内容：ゴルフ四方山話

実技内容：個別指導

〔第5回〕 講義内容：ゴルフクラブの選び方

実技内容：個別指導

〔第6回〕 講義内容：総括

実技内容：パッティング指導

◆テキスト

指定しない。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特にありません。

◆成績評価方法

出席60%、態度20%、理解20%の配点で評価。

体育スクーリング／スポーツセミナー

科目 水泳

2単位

担当 体育研究所専任講師 鳥海 崇

定員—30名

実施場所—協生館地下大学体育施設プール

準備するもの—水着、スイムキャップ、ゴーグル、タオル、飲み物

慶應義塾には約80年前から『塾生皆泳』という伝統があり、「泳ぐ技能を身につけることが、人として備えるべき重要な素養のひとつである」という水泳教育の理念がある。塾生たるもの泳げないために命を落したり、溺れている人を救えないということがないように水泳技術を身につけるべし、というのがその教えである。本授業では老若男女問わず全く泳げない者から全国大会経験者まで幅広い対象に対して、この『塾生皆泳』を実践する。履修者は6日間同じプールで文字通り裸の付き合いを通じて同じプールで泳いだ仲としての『泳縁』を築き授業後にも続く人間関係が構築できるだろう。

〔第1回〕 講義内容：慶應義塾における水泳授業の歴史と水泳を履修することで得られる知見についてのまとめ。

演習内容：プールの利用方法についての実践。競泳用、水球用、飛込用、サウナの安全な利用法。

〔第2回〕 講義内容：クロールの理論。泳法・呼吸法・練習方法についての概略。

演習内容：クロールの実践。

〔第3回〕 講義内容：平泳ぎの理論。泳法・呼吸法・練習方法についての概略。

演習内容：平泳ぎの実践。

〔第4回〕 講義内容：背泳ぎの理論。泳法・呼吸法・練習方法についての概略。

演習内容：背泳ぎの実践。

〔第5回〕 講義内容：運動強度と心拍数の理論。体育理論テキスト3章及び4章

演習内容：運動強度と心拍数の実践。

〔第6回〕 講義内容：安全水泳と水難事故防止の理論。安全水泳の国際比較。状況別の対応方法のまとめ。

演習内容：安全水泳と水難事故防止の実践。

◆テキスト

指定しない。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

安全を第一に考えております。集団行動がとれず他の履修者に危険を及ぼす場合はプールからの退去を命じることがあります。

履修者同士及び教員との交流も大切に考えております。積極的な授業参加を望みます。

◆成績評価方法

出席(60%)、態度(20%)、技術(20%)による成績評価

科目 卓球

2単位

担当 講師 木林 弥生

定員—25名程度

実施場所—スポーツ棟地下1階 卓球場

準備するもの—運動のできる服装、室内シューズ(靴裏が黒いものは禁止です)は必ずご準備ください。そのほか、季節柄必要に応じてタオル、水分補給のための飲料等があるとよいと思います。

卓球を通して体を動かすことを楽しみ、スポーツの知識を深めることを目標にしています。演習は卓球をはじめとする方でも理解し、実践できるようなプログラムを組んでおります。講義は卓球についても行いますが、体を動かすことの大切さや健康についてなどもテーマに取り上げます。卓球は年齢や性別を問わずに生涯を通して行えるスポーツです。またボールを打ちあう仲間がいないとできないスポーツです。経験者の方はもちろん、はじめて卓球をする方も卓球を楽しみながら学友を増やしてください。

- 〔第1回〕 講義内容：卓球について1
演習内容：フォアハンドとバックハンドを理解し、実践する
- 〔第2回〕 講義内容：スポーツと健康について1
演習内容：昨日の復習、ボールを連続で打ち合うことに挑戦する
- 〔第3回〕 講義内容：スポーツと健康について2
演習内容：昨日の復習、サーブ・レシーブを理解し、実践する、シングルス試合を理解し、実践する
- 〔第4回〕 講義内容：卓球について2
演習内容：ダブルス試合を理解し、実践する
- 〔第5回〕 講義内容：スポーツを楽しむ
演習内容：ボールの回転を理解し、実践する、シングルス試合で自分の戦術を試す
- 〔第6回〕 講義内容：総括
演習内容：紅白戦（シングルス・ダブルスの試合をチーム対抗で行います）

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

卓球台は7台あります。履修人数が多い場合は複数人で1台を使いながら授業を行います。

ラケットは貸し出し用がありますのでお使いいただけますが、ご自身のラケットをお持ちの方は是非ご持参ください。シューズの貸し出しはありません。

初日は運動できる服装に替えた上で、実施場所に来てください。

この授業は経験者から未経験者まで幅広いレベルの方を対象にしています。経験者の方は未経験者の方へのご配慮をお願いいたします。

各回の内容は授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

◆成績評価方法

出席（60%）、態度（20%）、理解（20%）の項目を点数化し、その合計点で評価をします。

科目	フィットネストレーニング	2単位
担当	体育研究所教授 山内 賢	

定員—25名

実施場所—協生館地下1階 トレーニングルーム

準備するもの—運動着、室内用トレーニングシューズ、タオル、熱中症予防のための飲料（キャップが付いたボトル、水筒に限る）、筆記用具、継続の精神

この授業は、健康づくりを目標としたトレーニングの理論と実践です。トレーニング理論をもとにした『運動習慣』のきっかけづくりを目的とした実践型の講座は、『運動の必要性』への動機づけ『身体づくり』の方法を学ぶ姿勢そのものです。人間の体力を維持・向上させるには、自体重の負荷やトレーニング専用マシンにより、筋力、パワー、柔軟性、持久力、バランス力など効率よく鍛える『行動』と合わせて、体組成（体内筋肉量、脂肪量、体内栄養状態等）を精密な体成分分析装置で計測する『観察』も必要と考えられます。

そして、『行動と観察』を上手に『評価』して、次の目標や目的を明確にして『計画』を立てることも重要な要素です。当然、6日間の授業では、明確な効果を期待することができないかもしれません。しかし、授業内容を習慣化することにより、自己の健康関連体力は自然と無理なく改善されていくはずです。授業担当者は、「この授業を通じて、個々のペースで管理するボディビルディングとコンディショニングの方法や、将来の健康につなげる体力づくりに役立つ身体知を学んでもらいたい」と考え、「健康について」を受講生とともに授業の中で創造していきます。

〔第1回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ①（トレーニングに必要な安全性について）

演習内容：トレーニング機器の使い方

〔第2回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ②（トレーニングマシンによる自分の『筋力バランス』と体組成測定器による『筋肉バランス』の測定評価）

演習内容：最大筋力の決定とトレーニング負荷に慣れる

〔第3回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ③（筋肉の役割とトレーニングの原則）

演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践

〔第4回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ④（筋力&栄養のバランス）

演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践+Gボールトレーニング

〔第5回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ⑤（運動消費エネルギーと運動負荷）

演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践+コアトレーニング（スラックライン体験）

〔第6回〕 講義内容：トレーニングの方法論を学ぶ⑥（コンディショニングの意義と必要性を理解する）

演習内容：最大筋力を基にしたトレーニング実践のまとめ+コーディネーショントレーニング+総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

積極的に出席してほしい。授業中の実技では、毎回トレーニング日記の記入作業があります。日記は、レポートに対応するものであるため、丁寧に記録していただきます。また、日記が受講者の「トレーニング習慣への動機づけ」、「体力の観察の意味」、「健康を意識する資料」等の自己評価に役立つことに、担当教員は期待しているので、最終日に返却します。

◆成績評価方法

- ・出席60%（欠席や遅刻、服装の不備は減点します。最低2/3の出席がないと成績評価はしない。）
- ・態度20%（トレーニングを積極的に行うことが主な評価の視点です。講義中の居眠りや通信機器の使用

用は減点の対象とします。)

- ・理解20% (体力を観察する日記を正確に記入することはもちろんのこと、体力の観察・評価方法である運動処方への理解を求めます。)
- ・以上の3項目を点数化して、その合計点で評価します。60点以上で単位認定となります。

科目 ピラティス (健康身体作り) 2 単位

担当 体育研究所准教授 板垣悦子

定員—20名程度

実施場所—協生館地下1階エクササイズスタジオ
準備するもの—運動が出来る服装。タオル・水分補給のための飲料。シューズはピラティス演習時には必要ありませんが、簡易体力測定時は必要。

ピラティスは、身体コンディショニングとして活用されているエクササイズです。生活習慣によっておこる身体のゆがみを、筋肉を刺激することで改善していきます。

講義はピラティスによる身体健康法を中心に他ヘルスプロモーションについて行い、演習は十分ストレッチ運動を行った後に、ピラティス独自の呼吸法を取り入れながら、特に体幹部を中心に身体全体の筋肉をバランス良く鍛えていきます。

- 〔第1回〕 講義内容：ピラティスについて
演習内容：姿勢チェック・身体組成計測・簡易体力測定・呼吸法・腹部の使い方
- 〔第2回〕 講義内容：ピラティスと健康
演習内容：ピラティス基礎動作①
- 〔第3回〕 講義内容：自分の健康について考える
演習内容：ピラティス基礎動作②
- 〔第4回〕 講義内容：ヘルスプロモーションについて①
演習内容：ピラティス基礎動作③
- 〔第5回〕 講義内容：ヘルスプロモーション②
演習内容：ピラティス基礎動作④
- 〔第6回〕 講義内容：総括
演習内容：姿勢チェック・身体組成計測・簡易体力測定・ピラティス基礎動作まとめ

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・ジョセフ・H・ピラティス著、日本ピラティス協会訳『リターン・トゥー・ライフ・スルー・コントロール』(現代書林、2010年)
- ・アマンダ・テレサ、マリーナ・ディグビー、新関真人著『ピラティスマスター』(スキージャーナル、2006年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件
特になし。

◆成績評価方法

出席60%・理解20%・態度20%をそれぞれ点数化し、総合的に評価する。

科目 テニス

2 単位

担当 体育研究所教授 村松 憲

定員—20名

実施場所—インドアテニスコートおよび教室

準備するもの—テニスシューズ (ハードコート用もしくはオールコート用)、テニスラケット、動きやすい服装、飲み物、タオル
※テニスラケットをお持ちでない方には貸し出します

「テニスを楽しむことについて深く学ぶ」ということを最大の目標にします。1日の授業は講義と演習から構成され、講義は主として教室で、演習はインドアハードコート2面で行います。インドアですので直射日光を浴びることなくテニスを行うことができます(ただしインドアコートに空調施設はありません)。講義では、楽しむこと・身体の効率的な使い方・ダブルスの戦術などについて学びます。演習では講義で学んだことをテニスを通じて実践していきます。初心者の方に配慮し、国際テニス連盟が推奨する‘PlayandStay’コンセプトを取り入れ、少し柔らかくて軽いボールを主として使用します。このボールであればボールの勢いが弱まりゆっくりとしたラリーが続きますので、初心者の方もゲーム形式を楽しみやすくなるだけでなく、戦術面を学ぶ機会も多くなります。本授業では講義においても演習においても、グループワークやペアワークを多く行い、他の参加者との交流・意見交換を積極的行います。

各回の内容は以下の予定ですが、受講者の方のテニス技術水準等を考慮して、変更することもあります。

- 〔第1回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて(その1)・‘PlayandStay’について
演習内容：ラケットやボールについての理解と実践
- 〔第2回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて(その2)・技術の変遷について
演習内容：昨日の復習・フォアハンドおよびバックハンドグラウンドストローク、サービスについての理解と実践
- 〔第3回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて(その3)・身体の効率的な使い方について・ダブルスの試合について
演習内容：昨日の復習・ラリー (打ち合い) についての理解と実践・ダブルスの試合についての理解と実践
- 〔第4回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて(その4)・ボールのスピードと回転について・ダブルスの試合について
演習内容：昨日の復習・ダブルスの試合についての理解と実践
- 〔第5回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて(復習)・ダブルスの試合について
演習内容：ダブルスの試合についての理解

と実践

- 〔第6回〕 講義内容：「楽しむ」ということについて(復習)・ダブルスの試合について
演習内容：ダブルスの試合についての理解と実践

◆テキスト

無し。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

- ・使用するテニスコートはインドアハードコートです。怪我防止のためテニスシューズは「ハードコート用」または「オールコート用」をご用意下さい。「オムニコート専用」や「クレートコート専用」ですと止まりすぎて怪我の原因になることがありますのでご注意ください。
- ・初日は運動できる服装に着替えた上で、教室に集合してください。
- ・服装は運動がしやすいものであれば、テニスウェアである必要はありません
- ・インドアテニスコートとはいえ空調設備がありませんので、かなり暑くなります。各自で飲み物をご用意いただき、積極的に水分補給をしてください。

◆成績評価方法

出席が60%、参加姿勢が20%、理解が20%です。

科目 太極拳

2単位

担当 講師 厚母宗子

定員ー20名

実施場所ー協生館 2階多目的教室

準備するものー運動着、運動シューズは不要（裸足か五本指靴下着用を薦めます。ストッキング・タイツは不可）、タオル、水分補給の為の飲料水、筆記用具

東洋の哲理に則った護身術としての伝統の太極拳を実習します。

その基礎を習得する過程で、「動きのシステムがからだの中心点から四肢へと上下左右に連動し、全体として有機的になめらかに繋がること」や「軸意識が重要なこと」も学習します。

調身・調心・調息の三位一体を大事にし、ゆっくり動くことにより普段意識されない深部筋を働かせ、動かし方の特徴・癖に気づき、からだをほぐし、リラックスしたからだにし、そしてニュートラルなからだを体感し、日常生活においてもそれらを活かせるような意識を育てます。

- 〔第1回〕 講義内容：太極拳の概要
演習内容：護身術としての太極拳、
1.無極式 2.太極拳起勢
- 〔第2回〕 講義内容：太極拳の基本（手法、歩法）
演習内容：3・4. 攪雀尾（基本四功）
- 〔第3回〕 講義内容：太極拳の特性
演習内容：5.単鞭
- 〔第4回〕 講義内容：太極拳の練習の注意点と練習効果
演習内容：6.提手上勢
- 〔第5回〕 講義内容：太極拳の呼吸法
演習内容：7.白鶴亮翅
- 〔第6回〕 講義内容：全講義内容の総括
演習内容：「伝統太極拳初伝前半」の表演

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

出席60%、態度20%、理解20%の項目を点数化し、その合計で評価します。

2 文学部専門教育科目

第1類に属する科目

科目 哲学（専門）

2単位

担当 講師 西川耕平 / 講師 岡嶋隆佑

この講義では、ひろく「心」と「時間」についての哲学的な議論を紹介し検討します。

講義前半をなす西川のパートでは、心と脳（身体）との関係を問う心脳問題をベースに、とりわけ意志や情動にまつわる主要な問題を紹介・検討します。それを通して、近年の目覚ましい脳科学の発展とわれわれはどう付き合っていけばよいかを考えます。

講義後半の岡嶋パートでは、まず、意識される時間（時間経験の哲学）について、近年の認知科学の成果を踏まえつつ、時間の流れはどのように経験されるか、などの主要な問題を検討します。その上で、時間一般（時間の形而上学）に目を移し、過去や未来は実在するか、時間にとって本質的なのは順序か時制かなど、様々な問題に取り組みます。

〔第1回〕 イントロダクション（西川・岡嶋）

〔第2回〕 意識のハード・プロブレム（西川）

〔第3回〕 心脳（心身）問題の歴史と見取り図（西川）

〔第4回〕 自由意志と脳科学（西川）

〔第5回〕 自己制御と情動（西川）

〔第6回〕 脳科学と社会（西川）

〔第7回〕 時間哲学の歴史（岡嶋）

〔第8回〕 時間経験の諸問題 1（岡嶋）

〔第9回〕 時間経験の諸問題 2（岡嶋）

〔第10回〕 時間の形而上学 1（岡嶋）

〔第11回〕 時間の形而上学 2（岡嶋）

〔第12回〕 試験・総括（西川・岡嶋）

◆テキスト

指定しません。

◆参考文献

- ・河野哲也『暴走する脳科学——哲学・倫理学からの批判的検討』光文社新書、2008年
- ・信原幸弘編『心の哲学——新時代の心の科学をめぐる哲学の問い』新曜社、2017年
- ・ロビン・レ・ペドヴィン『時間と空間をめぐる12の謎』岩波書店、2012年
- ・信原幸弘編『時間・自己・物語』春秋社、2017年
他にも講義で適宜紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

授業最終日に行なう論述試験によります。

科目 哲学史

2単位

担当 講師 田子山和歌子 / 講師 内山真莉子

〔授業テーマ〕

「中世と近代におけるプラトン主義」

〔授業概要〕

古代ギリシャの哲学者プラトンの思想は、西洋哲学思想の伝統的潮流の一つとして、現代にいたるまで大きな影響を与えてきました。本講義では〈プラトン主義〉が中世から近代にかけてどのように受容されたかについて検討します。本講義の前半（担当、内山）では、プラトン思想の核である、形相ないしイデアの実在の問題について、13世紀の思想家であるトマス・アキナスに定位しつつ講義を行います。また、後半（担当、田子山）では、近代におけるさまざまなプラトン思想受容について見ていきます。

プラトン哲学に関心を持つ方はもちろんのこと、中世から近代の哲学史、ないしは、宗教思想（特にキリスト教思想）に興味を持つ方を歓迎します。

〔第1回〕（1，2時限目、内山担当）：ガイダンス、および、プラトンにおけるイデアの実在性

〔第2回〕（1，2時限目、内山担当）：スコラ哲学への受容

〔第3回〕（1時限目、内山担当）：普遍論争
（2時限目、田子山担当）：ガイダンス、近代におけるプラトン主義、主知主義と主意主義の対決 1.

〔第4回〕（1，2時限目、田子山担当）：主知主義と主意主義 2. 宗教改革とプラトン主義

〔第5回〕（1，2時限目、田子山担当）：ケンブリッジプラトニズム

〔第6回〕（1時限目、田子山担当）：まとめ
（2時限目、田子山、内山担当）：最終試験

◆テキスト

テキストは用いません。授業中にハンドアウトを配布、使用します。

◆成績評価方法

最終試験（論述試験）にて評価します。

※授業詳細について、各ガイダンス時に説明を行います。希望者はガイダンスに必ず出席のこと。

◆成績評価方法

最終試験（論述試験）にて評価します。

※授業詳細について、各ガイダンス時に説明を行います。希望者はガイダンスに必ず出席のこと。

科目 倫理学（専門）

2単位

担当 文学部教授 奈良雅俊

この授業の主な目標は二つです。（1）倫理学の理論を理解すること、（2）理論を応用して現代社会の倫理的問題を分析・解決する能力を習得すること。

倫理学は倫理について研究する学問です。倫理とは行為の正しさの基準であり、人としての善い生き方のことです。これらは人間の本性に由来していたり、時代や社会の影響を受けたりしています。わたしたちは正しい行為とは何か、どんな生き方が善いかを直感的に知っています。しかし、正しさの基準や善い生き方を理論的に説明することは容易ではありません。この授業では、主要な理論の原理と特徴を学び、生命倫理の問題の分析に理論がどのように使われているかを学

びます。

- 〔第1回〕 功利主義
- 〔第2回〕 功利主義をめぐる議論
- 〔第3回〕 動物の権利、貧困と飢餓
- 〔第4回〕 義務論（カント倫理学）
- 〔第5回〕 ロスの「一応の義務」論
- 〔第6回〕 殺すことと死なせること
- 〔第7回〕 徳倫理学
- 〔第8回〕 人工妊娠中絶の道徳性
- 〔第9回〕 正義論
- 〔第10回〕 ケアの倫理
- 〔第11回〕 生命の設計
- 〔第12回〕 試験・講評
- 〔その他〕 グループ・ディスカッション、オフィスアワー

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・柘植尚則『プレッブ倫理学』（弘文堂、2010年）
- ・ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学——安楽死からフェミニズムまで』（晃洋書房、2003年）

◆成績評価方法

出席20% 試験80%

科目 西洋美術史

2単位

担当 講師 細野喜代

本講義ではイタリア・ルネサンス美術を扱うこととし、特に、ミケランジェロを取り上げます。ミケランジェロはルネサンスを代表する巨匠として名高く、彫刻、絵画、建築などの分野で傑作を制作しました。彼の名品を通して、芸術作品の見方や魅力を知るとともに、制作された歴史的、文化的、社会的背景を分析することによって、作品が有していた意味を解説します。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 ミケランジェロの生涯と作品
- 〔第3回〕 ミケランジェロ作《ピエタ》、ヴァティカン、サン・ピエトロ大聖堂
- 〔第4回〕 ミケランジェロ作《フィレンツェのピエタ》、《ロンダニーニのピエタ》
- 〔第5回〕 ミケランジェロ作《ダヴィデ》
- 〔第6回〕 ミケランジェロ作《復活のキリスト》、《勝利》
- 〔第7回〕 システィーナ礼拝堂天井画：創世記
- 〔第8回〕 システィーナ礼拝堂天井画：預言者、巫女、青年裸体像
- 〔第9回〕 教皇ユリウス2世墓廟
- 〔第10回〕 メディチ家礼拝堂新聖具室
- 〔第11回〕 ミケランジェロ作《最後の審判》
- 〔第12回〕 総括、試験

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・ジェイムズ・ホール著『西洋美術解説事典（新装版）』（河出書房新社、2004年）
- ・共同聖書実行委員会（著、訳）『聖書 旧約統編つき』（日本聖書協会、1997年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

ご自身の関心のある美術館を訪れ、作品を鑑賞してください。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 社会学（専門）

2単位

担当 文学部教授 岡原正幸 / 講師 澤田唯人

「生と感情の社会学」をアートベース・リサーチという手法で受講者と一緒に作り出します。

たとえば社会学の基本の1つである社会調査、否応なく人と関わるこの学問的な営みを、どこに位置づけ、その営みの中で自らをどこに位置づけていくのか、対象を客観化する知が、ただそれだけ評価されるような時代は過ぎ去り、いまや、知の生産と消費を担ってきた大学アカデミズムも現代社会に立ち位置を失いつつある。学問の死を謳うのはたやすい、しかしだからこそ、社会学という営みを再び肯定的に捉える視角が必要ではないのか。生の社会学とは、生を社会学的に説明する営みに還元されるようなものではなく、生きられる社会学であり、生きることを生きようとする、そんな試みだと考えてほしい。

生の多様性をめぐる議論があるとして、それを、いかに自分が生きるのかという問いに、どのように結びつけることができるのだろうか。この授業で参加者と一緒に僕たちが考えてみたいのは、これである。具体的にどうするのかといえば、僕らが教卓に座って講義することはまずない。全員が全員に向けて講義をする。受講者は他の受講者にとってのゲストスピーカーになり得るということである。生を生きるという資格においてひとりひとりの参加者がゲスト講師たりえるのである。チームに分かれてライフストーリーを互いに聞き、中からいくつかの生を他の受講者に伝える試みとなろう。

この伝える試みとして、アートを利用した社会学実践を行う。アートベース・リサーチと呼ばれ、多種多様なアートワークが利用されるが、ここでは身体的な演劇的な手法を用いる（パフォーマンス・エスノグラフィ）。さらに、詩や文学、映像や音楽なども利用する。自分が話を聞いて、その人の経験をなぞるという実験的で枢要な試みとなる。

〔第1回〕 授業全体の構想について、チーム編成

〔第2回〕 自分史のシェア

〔第3回〕 ライフストーリーとは、アートベース・リサーチとは

〔第4回～第9回〕 チーム活動

〔第10回〕 リハーサル

〔第11回～第12回〕 プレゼンテーション（北館ホールにて各チーム1回の公演となります）

授業に関する情報は下記のホームページで

<http://lebenssoziologie.jimdo.com>

◆テキスト

- ・岡原正幸・小倉康嗣他『感情を生きる』（慶應義塾大学出版会、2014年）ISBN978-4-7664-2123-1
- ・岡原正幸『感情資本主義に生まれて』（慶應義塾大

学出版会、2013年) ISBN978-4-7664-2042-5

◆参考文献

- ・小倉康嗣『高齢化社会と日本人の生き方—岐路に立つ現代中年のライフストーリー』（慶應義塾大学出版会、2006年）
- ・岡原正幸他『生の技法〔第3版〕—一家と施設を出て暮らす障害者の社会学』（生活書院、2013年）
- ・岡原正幸『ホモ・アフェクトス』（世界思想社、1998年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

自分の生について語ることが求められるでしょう。また他者の生について傾聴し、一緒に考えることも求められるでしょう。事前に、自分史や家族史、自分が生きてきた中での特定の記憶や体験について、3000～5000字程度でまとめておいてください。書式や用紙は自由です。この課題は授業初回に持参してください。それを土台に皆さんのスピーチを作成してもらいます。また言うまでもありませんが、受講者間でのやりとり、授業内でのやりとりが個人的なものに関わる以上、当事者の了承なくして外部に公開することは避けてください。

夏期スクーリングと今年度週末スクーリングの内容は基本的に同じです。受講者の数を抽選で夏期スクーリングは80名以下に絞ります。両方の授業を同一年度に履修することはできません。

◆成績評価方法

試験は行いません。出席によって評価します。

チーム活動への影響が大きくなるような欠席回数は成績に大きく響きます。

科目 社会心理学特殊

2単位

担当 講師 吳 正培

この授業は、「ステレオタイプと異文化コミュニケーション」をテーマにする。まずステレオタイプの定義、社会心理学での捉え方、機能、ステレオタイプ化の問題点、ステレオタイプの形成・維持・変容のメカニズムについて検討する。次に、日韓の相手国民イメージに関する研究データをもとに日本人と韓国人の対人コミュニケーションにおいてどのようなステレオタイプ化が生じるかを浮き彫りにする。最後に、ステレオタイプと異文化コミュニケーションとの関連性に注目し、真の異文化理解とはどのような状態を指すのか、どのような態度、能力、努力が求められるのかについて考えていく。授業は、教員と受講者間のやり取り、受講者間のグループワーク（意見交換）、教員による解説の3つで進めていく。

〔第1回〕 授業のガイダンス、イントロダクション（ステレオタイプ）

〔第2回〕 イントロダクション（異文化理解）

〔第3回〕 ステレオタイプの定義とステレオタイプ化の問題点

〔第4回〕 ステレオタイプの形成と維持

〔第5回〕 ステレオタイプの変容とステレオタイプ化の抑制

〔第6回〕 ステレオタイプと外国人イメージ

〔第7回〕 韓国人の日本人イメージの実態と形成メカ

ニズム

〔第8回〕 日本人の韓国人イメージの実態と形成メカニズム

〔第9回〕 日韓の接触場面で生じうるステレオタイプ化

〔第10回〕 異文化エクササイズ

〔第11回〕 異文化理解に求められる能力・態度・努力

〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・上瀬由美子『ステレオタイプの社会心理学』（サイエンス社、2002年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎回グループを少し変えながら他の受講者と意見交換を行うため、ディスカッションに積極的に参加できる方の受講が望ましい。

◆成績評価方法

出席20%、授業での取り組み（発言、参加度）20%、最終日の試験60%。

科目 文化人類学

2単位

担当 講師 宮下克也

授業は、大きく2つのセクション〈一般的理論〉〈観光と文化〉から構成されております。前半は、文化人類学の基本的な理論・学説の紹介。後半は地域活性化の一方策として注目されている観光について、人類学的なアプローチでその現象を分析することを目指します。キーワード：「身体化」「無意識」「意識化」「相対化」「他者のまなざし」「分類」

〔第1回〕 文化と文化相対主義：文化人類学の成り立ちと基本理念を学ぶ。

〔第2回〕 身体に刻まれる文化：文化が後天的なものの、そして無意識なものであることを事例で検討する。

〔第3回〕 分類の思考① ジェンダー論「男／女であるのか」「男／女になるのか」

〔第4回〕 分類の思考② 通過儀礼

〔第5回〕 文化と経済：互酬性の諸相

〔第6回〕 開発と文化

〔第7回〕 他者表象：民族誌と文化表象

〔第8回〕 観光と人類学① 沖縄の社会史

〔第9回〕 観光と人類学② 他者のまなざし。観光に必要なものは？

〔第10回〕 観光と人類学③ 無意識から意識へ／南国オキナワイメージの創出から〈琉球化〉へ

〔第11回〕 観光と文化④ 伝統文化とは何か？これまでの授業をふまえ現代における〈伝統〉文化のあり方を考える。

〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

綾部恒雄／桑山敬己編『よくわかる文化人類学』（第2版）ミネルヴァ書房、2010年、ISBN978-4623056965

◆受講上の要望または受講上の前提条件

私たちは自分の育った社会の文化的価値観を自然と

身につけ、それを通して異文化を捉えてしまいます。本講義では、文化の多様性を見出し、最終的に自文化において「常識＝当たり前」とされていることを相対化し再検討することを目指します。グローバリゼーションが進行し「異文化理解」の必要性が唱えられている現代社会だからこそ、「異文化を知り、自文化を相対化する」学問である文化人類学をぜひ学んで欲しいと考えます。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 心理学（専門）	2単位
担当 文学部准教授 伊澤栄一	

実験心理学は“こころ”を行動として観測します。そこから垣間見える“こころ”は、私たちヒトに限られたものでしょうか。ヒト以外の動物にはどのような“こころ”が備わっているのでしょうか。

この問いに答えるために、この授業では“こころ”を生物学的な視点から捉えます。具体的には、ヒトを含む動物の“こころ＝行動”について、脳・生態・進化という異なる切り口から様々な知見を紹介し、それら相互の関連を考える講義を行います。

〔第1回〕【イントロダクション】

実験心理学における生物心理学の位置づけを紹介します。その上で、講義全体にかかわる「生物進化とは何か」について解説します。

〔第2回〕【脳の進化】

“こころ”をうみだす主要な器官である脳について、その構造と進化について解説します。

〔第3回〕【視覚】

動物が外界の事象をどのように見ているのかについて、様々な研究事例から得られた知見を解説します。

〔第4回〕【記憶】

記憶の種類とその脳機構について解説し、様々な動物の生態と結びついた興味深い記憶の事例について紹介します。

〔第5回〕【物理的認知】

動物は事象の物理的関係をどのように理解しているのか、経済的合理性の判断なども取り上げながら解説します。

〔第6回〕【コミュニケーション】

個体間の様々な信号送受の行動様式とその多様性を取り上げます。

〔第7回〕【性・繁殖と性淘汰】

性について、遺伝子・発達・行動の異なるレベルから生物学的知識を整理し、オスとメスの異なる行動の進化について解説します。

〔第8回〕【種・個体・社会】

動物社会を構成する異なる階層の概念を生物学的に整理し、ヒトのような複雑な社会を支える心的機能について解説する。

〔第9回〕【協力と利他性】

他個体に利益を与える利他行動はどのような動物にみられ、はたしてどのように進化するのかについて解説します。

〔第10回〕【道具使用】

ヒト以外の動物にみられる道具を作り、使う行動を例示しながら、ヒトの進化における道具使用の影響について解説する。

〔第11回〕【ヒトの生物心理学】

第10回までの内容を踏まえながら、動物としてのヒトの生態を捉えなおすことで、ヒトのこころの生物学的特徴について解説する。

〔第12回〕【総括】

第11回までの内容を総括します。

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・藤田和生『比較認知科学』（放送大学教育振興会（NHK出版）、2017年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講に際して特に条件はありませんが、高校の生物科目の基礎的な知識があると理解がより深まります。

なお、本科目では、動物の行動研究を中心に講義を展開します。ヒトを対象とした内容は第10、11回のみであることをご承知の上で受講してください。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 心理学特殊	2単位
担当 文学部助教 大森貴秀	

本講義では、発達心理学について、乳幼児期の発達を中心に概説する。この時期の心理的な発達に関しては、知覚・認知・社会性など様々な側面での知見が集められている。そこで用いられている研究方法には、言語の未発達な乳幼児の心理にアプローチするために、実験デザイン・測定指標などにおいて独特の工夫がなされてきた。そうした発達研究の方法論と、そこから描き出されてきた人生初期の発達の様子とを、できるだけ個々の実験研究を紹介しながら解説する。それによって、子どもの心理・行動を実証的・科学的に扱い、理解していく姿勢を見につけてもらうことを目指す。

指定のテキストを用いるが、実際の講義は独自のスライドを用いるので、事前学習用の教材と考えて一読しておくことを勧める。

なお、この授業は大森が担当した2008年「心理学（専門）」、2011、2014年「心理学特殊」と内容が重複するので、履修に当たっては注意されたい。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 Piagetの発達理論と乳児期

〔第3回〕 胎児期の発達

〔第4回〕 知覚の発達

〔第5回〕 身体運動の発達

〔第6回〕 認知の発達1

〔第7回〕 認知の発達2

〔第8回〕 社会性の発達

〔第9回〕 情緒、自己の発達

- 〔第10回〕 乳児期の検査
 〔第11回〕 脳生理指標からの乳児研究
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・川島一夫・渡辺弥生（編著）『図で理解する発達
 新しい発達心理学への招待』（福村出版、2010年）、
 ISBN 9784571230493

◆参考文献

講義内で適宜紹介する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講に際して特定の前提知識はもとめないが、概論的な科目・書籍などを通して心理学一般の方法論・基礎知識を習得していると、講義内容の理解が容易になると思われる。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 教育心理学概論

2 単位

担当 講師 金子智昭

本講義では、人間の心理や行動のメカニズムを理解し、有効な教育実践を行う上での基本的知識を身につけることを目的とする。そのために、人格・適応・発達・学習・集団・評価などの様々な領域において、教育による影響性を中心に講義する。また、子どもの心身の発達及び学習の過程を、障害児をも含めて理解するために、誕生からの人間発達のメカニズムを知ることができるようになる。発達段階における一般的な特徴を知り、過去の経験や学習が子どもの心身の発達ばかりではなく、生涯にわたる発達にもどのように影響するか理解を深めてほしい。

- 〔第1回〕 オリエンテーション：教育心理学の定義と領域、教師の資質
 〔第2回〕 人格特性：人格の定義、人格の測定
 〔第3回〕 人格特性：人格理論、人格の形成要因
 〔第4回〕 適応：適応のメカニズム、不適応の様相
 〔第5回〕 適応：心理療法（精神分析、カウンセリング、行動療法など）
 〔第6回〕 発達：発達の概念とメカニズム、乳幼児期の発達、発達障害
 〔第7回〕 発達の過程：児童期から老年期まで
 〔第8回〕 学習と教授：学習理論、学習方法、記憶
 〔第9回〕 動機づけと思考：やる気のメカニズム、批判的思考力
 〔第10回〕 学級集団：集団の発達と機能、学級特性の判定方法、教師のリーダーシップ
 〔第11回〕 教育評価：評価の種類と活用方法、子ども理解への眼差し
 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・安藤寿康・鹿毛雅治編著『教育心理学』（通信 テキスト、2013年）
 ・鹿毛雅治・奈須正弘編『学ぶこと教えることー学校教育の心理学』（金子書房、1997年）

◆成績評価方法

平常点（出席状況、リアクションペーパー）：20%
 最終日の試験：80%

科目 図書館・情報学

2 単位

担当 文学部教授 根本 彰

図書館情報学において「情報リテラシー」は、メディア・コンテンツへのアクセス能力を指す言葉で、テクノロジーの発達に応じてその習得・活用・提供技術の更新が求められる、生きたテーマである。

情報が氾濫する社会を生きる私たちにとって、第一次資料の保存庫であり、公共の情報サービス機関である図書館は、信頼の置ける、身近な情報拠点だ。これからの図書館は、図書の貸出し、検索技術の提供にとどまらず、利用者の情報リテラシーを導くといった教育的な役割も自覚的に担ってゆく必要がある。

そして今日、学校での情報リテラシー教育も喫緊の課題となっている。日本の教育現場において、情報リテラシー教育の重要性は意識されてきたが、それはコンピューターなどの情報通信技術を使いこなす技能という認識にとどまってきた。だが、真の情報リテラシーとは、情報を探索し、評価し、それにより自分の問題を解決できる能力、さらにはその力をもって批判的思考を展開できることをいう。本書では、日本の教育制度と図書館の社会史をふりかえることで課題を浮き彫りにし、今後どのような改革をなすべきか、欧米の学校の動向と比較しつつ方向を示す。

- 〔第1回〕 日本の教育問題を異なった角度から考察する
 〔第2回〕 情報リテラシーとは何か
 〔第3回〕 情報リテラシーを身につけよう
 〔第4回〕 リテラシーと情報リテラシー
 〔第5回〕 情報リテラシー教育の目標
 〔第6回〕 江戸時代は学びがあふれていた
 〔第7回〕 明治政府は「知」を制限した
 〔第8回〕 図書館がようやく追いついてきた
 〔第9回〕 司書は専門職になれなかった
 〔第10回〕 大学入試改革の課題と探究型の学び
 〔第11回〕 情報リテラシーをもう一度考える
 〔第12回〕（最終回） 試験および総括

◆テキスト

- ・根本彰著『情報リテラシーのための図書館：日本の教育制度と図書館の改革』（みすず書房、2017年）、ISBN 978-4-622-08650-5

◆参考文献

- ・青木美智男『日本文化の原型』（全集日本の歴史別巻）（小学館、2009年）
 ・市古みどり編著『資料検索入門：レポート・論文を書くために』（慶應義塾大学出版会、2014年）
 ・クレハン、ルーシー『日本の15歳はなぜ学力が高いのか？』（早川書房、2017年）
 ・桑田てるみ『思考を深める探究学習：アクティブ・ラーニングの視点で活用する学校図書館』（全国学校図書館協議会、2016年）
 ・千葉雅也『勉強の哲学：来るべきバカのために』（文藝春秋社、2017年）

- ・長友千代治『江戸庶民の読書と学び』（勉誠出版、2017年）
- ・中島さおり『哲学する子どもたち：バカコレアの国フランスの教育事情』（河出書房新社、2016年）
- ・根本彰『理想の図書館とは何か：知の公共性をめ

- ぐって』（ミネルヴァ書房、2011年）
- ・マングェル、アルベルト『図書館—愛書家の楽園』野中邦子訳（白水、2008年）
- ◆成績評価方法
最終日の試験による。

第2類に属する科目

科目 日本史概説

2単位

担当 文学部教授 中島圭一

慶應義塾図書館所蔵「反町文書」は、塾員反町十郎（1927年経済学部卒）から1956年に寄贈された160通余りの古文書コレクションで、足利尊氏・織田信長・豊臣秀吉・徳川家康など著名な人物の発給文書が多く、鎌倉時代から江戸時代までの各段階の歴史像を端的に示してくれる文書群です。この授業では、「反町文書」の中から、毎回1～数点の文書を取り上げて読むことを通じて、中世から近世にかけての政治や社会の実像を掘り下げていき、それぞれの時代の特徴を浮かび上がらせることを目指します。なお、以下の授業計画は講義要綱作成時点のもので、場合によっては一部変更の可能性があります。

- 〔第1回〕 宝治3年（1249）僧忍盛田地売券ほか：中世の特徴
- 〔第2回〕 嘉暦4年（1329）7月23日六波羅下知状ほか：鎌倉幕府の支配体制
- 〔第3回〕 建武3年（1336）正月4日小河成春軍忠状ほか：南北朝内乱期の社会
- 〔第4回〕 応永12年（1405）11月12日斯波道孝（義教）施行状ほか：室町幕府の支配体制
- 〔第5回〕 （元亀3年＝1572）9月23日上杉謙信書状ほか：戦国の争乱
- 〔第6回〕 年未詳7月9日足利義輝御内書ほか：戦国期の室町幕府
- 〔第7回〕 （天正4年＝1576）2月8日足利義昭御内書ほか：戦国の終焉
- 〔第8回〕 （慶長5年＝1600）3月27日徳川家康書状ほか：近世国家の樹立
- 〔第9回〕 （慶長5年＝1600）豊臣秀頼筆豊国大明神神号ほか：天下人と大名
- 〔第10回〕 （寛永20年＝1643）酒井忠勝ほか：江戸幕府と諸藩の支配体制
- 〔第11回〕 「反町文書」の成立過程
- 〔第12回〕 試験と総括
- 〔その他〕 図書館展示室「貴重書展示会ダイジェスト」の展示解説

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

中世・近世がどのような時代であったかを押さえておくと、理解が深まると思います。最新の通史として『全集日本の歴史』5～10巻（小学館）、『日本中世の歴史』全7巻・『日本近世の歴史』全6巻（吉川弘文館）を、比較的手に取りやすいものとして『日本の歴史』（講

談社学術文庫）を挙げておきます。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 東洋史概説

2単位

担当 文学部准教授 藤木健二

オスマン帝国史概説

この講義では、長命のイスラーム王朝であったオスマン朝の政治・社会経済・文化について、王朝の成立する13世紀末から、近代化改革の始まる19世紀初頭までの時期に的を絞り、初学者にもわかりやすく概説します。

本講義の目標のひとつは、中東イスラーム世界史の基本的な知識を身につけることにあります。また、イスラームとは何かといったイスラームの基本的な事柄についても適宜解説する予定です。

授業計画は以下のとおりです。

- 〔第1回〕 オスマン勢力の勃興
- 〔第2回〕 オスマン勢力の拡大
- 〔第3回〕 コンスタンティノープルの征服と再建
- 〔第4回〕 スレイマン1世の時代
- 〔第5回〕 中央集権体制の確立
- 〔第6回〕 混乱と変容の17世紀
- 〔第7回〕 チューリップ時代
- 〔第8回〕 地方名士の台頭
- 〔第9回〕 開明的専制君主の時代
- 〔第10回〕 オスマン帝国とヨーロッパ
- 〔第11回〕 総括と試験
- 〔第12回〕 トルコの社会と文化（スライド鑑賞）

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・林佳世子『オスマン帝国の時代（世界史リブレット）』（山川出版社、1997年）
- ・永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会（世界の歴史15）』（中央公論新社、2008年）

◆成績評価方法

平常点（出席状況と授業態度）および最終日の試験による。

科目 西洋史概説

2単位

担当 文学部教授 神崎忠昭

現代の私たちの生活はさまざまに西欧文明の影響を受けています。たとえば日常生活でよく触れることがある国民、適正金利、説明責任などの概念は西欧に由来し、特に中世にその起源を有します。何気なく使っていますが、必ずしもその意味を理解していないのです。本講義では11世紀頃から近世初頭までにかけてのヨーロッパの歴史を概観し、その政治や社会、文化や宗教のあり方を考えることを目的とします。

〔第1回〕 イントロダクション：ローマの繁栄から衰退へ

〔第2回〕 平和の確立と復興

〔第3回〕 都市

〔第4回〕 新しい宗教生活

〔第5回〕 キリスト教の浸透

〔第6回〕 国民国家

〔第7回〕 隣人から一員へ

〔第8回〕 中世後期の教会

〔第9回〕 衣食住と人の一生

〔第10回〕 宗教改革

〔第11回〕 近代へ

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・神崎忠昭『西洋史概説Ⅰ』（通信テキスト、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

総合教育科目「歴史（西洋史）」を履修していることが好ましい。

◆成績評価方法

最終日に試験を行い、それによって評価します。出欠は取りません。

科目 考古学

2単位

担当 講師 石神裕之

「考古学は、補助学といった貧相なものではなく、歴史学の源泉ともいえるべきものである」。『考古学とは何か』（近藤義郎・木村祀子訳、岩波新書、1969年）の中で、考古学者V. G. チャイルド（1892～1957）

はこう述べています。一般に考古学のイメージとは、古くて、珍しい遺物を発掘することが目的であるように思われがちです。しかし、そうした宝探しの考古「考古学は、補助学といった貧相なものではなく、歴史学の源泉ともいえるべきものである」。『考古学とは何か』（近藤義郎・木村祀子訳、岩波新書、1969年）の中で、考古学者V. G. チャイルド（1892～1957）はこう述べています。一般に考古学のイメージとは、古くて、珍しい遺物を発掘することが目的であるように思われがちです。しかし、そうした宝探しの考古学のイメージとは異なり、現実の考古学は地域に密着した地道な歴史探求の学問であるといえます。本講義では、縄文や弥生といった先史考古学はもとより、中近世や近現代といった歴史考古学的事例を含めて、モノ（物質文化）を扱う学問としての考古学の具体的方法とその歴史的な意義についてお話していきたいと思っています。

〔第1回〕 考古学とは何か

〔第2回〕 考古学の発達と多様化

〔第3回〕 考古学の方法①型式と時間

〔第4回〕 考古学の方法②考古的文化とは

〔第5回〕 考古学の調査方法①発掘調査

〔第6回〕 考古学の調査方法②整理調査と遺物の分析

〔第7回〕 考古学と関連分野①自然科学（保存科学）

〔第8回〕 考古学と関連分野②自然科学（年代測定）

〔第9回〕 考古学と関連分野③形質人類学

〔第10回〕 考古学と関連分野④民族（俗）学・文化人類学

〔第11回〕 考古学と現代社会—文化財の保護と活用—

〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・鈴木公雄『考古学入門』（東京大学出版会、1988年）（市販書採用科目「考古学」指定テキスト）

・鈴木公雄『考古学はどんな学問か』（東京大学出版会、2005年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし

◆成績評価方法

最終日の試験による。

第3類に属する科目**科目 国語学各論**

2単位

担当 日本語・日本文化教育センター教授 木村義之

現代日本語を、語彙・意味および待遇表現の面から考察する。必要に応じて歴史的な変化についてもふれる。内容は大きく二部に分かれ、前半を語彙・意味、後半を待遇表現とする。併せて、語の用法と待遇表現の理解を通じて、適切な文章の書き方についても言及する。おおむね以下のとおりに進めるが、授業の進行上、それぞれのテーマに充てる時間数や提示の順序に

は若干の入れ替えがあることは了解されたい。

第一部 日本語の語彙・意味

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 語と語彙

〔第3回〕 語構成・造語法

〔第4回〕 語の分類

〔第5回〕 語と意味

〔第6回〕 語の変化

〔第7回〕 ことばと社会

第二部 日本語の待遇表現

〔第8回〕 待遇表現とは何か

- 〔第9回〕 敬語の形式と分類
 〔第10回〕 敬語における正用と誤用
 〔第11回〕 対人配慮表現の諸相
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

・沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子
 『図解 日本語の語彙』（三省堂、2011年）、ISBN
 978-4-385-36479-7

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	国文学	2単位
担当	文学部教授 佐藤道生	

『和漢朗詠集』の享受史を講じる。『和漢朗詠集』は平安中期（11世紀初頭）、藤原公任によって編纂された詩歌のアンソロジーである。成立当初から多くの読者を獲得し、以後永く（近代に至るまで）詩歌の軌範として重んじられた。また幼学書（識字階級が幼年期に学習する書籍）としても機能したから、その写本・刊本だけでなく、註釈書も無数に現存している。平安時代成立の古典の中では、『古今和歌集』『伊勢物語』とともに最も親しまれた作品である。本講義では書写出版、訓点（訓読）、註釈、受容（影響）といった観点から、『和漢朗詠集』享受の様相を総合的に捉えてみたい。

- 〔第1回〕『和漢朗詠集』解題（1）
 〔第2回〕『和漢朗詠集』解題（2）
 〔第3回〕『和漢朗詠集』の書写・出版（1）
 〔第4回〕『和漢朗詠集』の書写・出版（2）
 〔第5回〕『和漢朗詠集』の訓点（1）
 〔第6回〕『和漢朗詠集』の訓点（2）
 〔第7回〕『和漢朗詠集』の註釈書（1）
 〔第8回〕『和漢朗詠集』の註釈書（2）
 〔第9回〕『和漢朗詠集』の受容（1）
 〔第10回〕『和漢朗詠集』の受容（2）
 〔第11回〕『和漢朗詠集』の受容（3）
 〔第12回〕総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	近代日本文学	2単位
担当	文学部教授 小平麻衣子	

〈まるで小説のようだ〉という言い方がありますが、小説は、現実離れしているからおもしろいのでしょうか。逆に言えば、実際の社会問題や政治を扱う場合には、リアリズムに限るのでしょうか。小説は、現実の政治にかかわるからこそ、その想像力を最大限に発揮し、虚構にみえる問題作を作り続けてきたのではないのでしょうか。例えば、弾圧下で、それとわかられずに何かを書きたいとき。あるいは、人々が信じて実行している事柄を、戯画化して、欺瞞だと告発したいとき。小説の形式が大きな効果を発揮することは、想像しや

すいでしょう。今回の授業では、一見現実離れしているように見える小説をとりあげ、どのように政治や時代背景とかかわっているか、読み説いていきます。ここでの政治とは、政治家や政府組織、政策だけを意味しません。権力現象全般として、家族制度やセクシュアリティなど、日常にかかわる問題も扱います。

- 〔第1回〕 明治期政治小説
 〔第2回〕 浪漫主義と精神世界
 〔第3回〕 社会主義とユートピア
 〔第4回〕 戦争と想像力（1）検閲をかいぐる
 〔第5回〕 戦争と想像力（2）科学の発達とSF
 〔第6回〕 戦後政治と文学論争・国民文学論争
 〔第7回〕 〈私小説〉の歴史的位置づけ
 〔第8回〕 倉橋由美子の描く女性
 〔第9回〕 ウーマンリブと永田洋子
 〔第10回〕 現代のディストピア小説（1）星野智幸
 〔第11回〕 現代のディストピア小説（2）村田沙耶香・中村文則
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	書道	2単位
担当	講師 緑川明憲	

平安時代は和歌や日記といった、貴族たちによる文学作品が多く誕生するなど華やかな文化が盛行しましたが、一方で、極めて多様な書（文字）が書かれ、燦然と輝く名筆をあまた生み出した時代でもあります。ただし、一口に「平安時代」といってもおよそ400年近くも続きましたから一概に説明することは出来ず、書道史では「弘仁時代」「藤原時代」「平源時代」の3期に分けて、それぞれの時代の個性や特徴を考えることが出来ます。

そこで本講座では、政治や社会的背景と関連させつつ、どのような書が書かれ、そしてどのような変化を遂げて次の時代へと発展していったのかということを中心に考えていきたいと思います。なお、3日目と4日目には書の実習を予定していますので、半紙を含め各自で必ず書道道具一式をご用意下さい（貸し出しは一切しません）。

- 〔第1回〕 弘仁時代（概説）
 〔第2回〕 弘仁時代（弘法大師空海）
 〔第3回〕 弘仁時代（その他の能書たち）
 〔第4回〕 藤原時代（概説）
 〔第5回〕 藤原時代（三蹟）
 〔第6回〕 実習【その一】
 〔第7回〕 藤原時代（三蹟以外の能書たち）
 〔第8回〕 実習【その二】
 〔第9回〕 平源時代
 〔第10回〕 かな文字（その一）
 〔第11回〕 かな文字（その二）
 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

指定しない。

◆参考文献

- ・春名好重『平安時代書道史』（思文閣出版、1993年）
- ・高橋正彦『書道』（通信テキスト、1977年）

◆成績評価方法

出席状況、提出作品、最終日の試験に基づいて総合的に判断する。

科目 漢文学

2 単位

担当 講師 宮下聖俊

漢文学の精華である中国古典詩（いわゆる漢詩）を講読する。当然、中国古典詩に関する種々の知識とともに、詩人達それぞれの世界観を形作るものとなった思想についても、あわせて概説していく。

- 〔第1回〕 はじめに 『詩経』と「興」
- 〔第2回〕 「言志」と「縁情」
- 〔第3回〕 儒家思想と詩（1）
- 〔第4回〕 儒家思想と詩（2）
- 〔第5回〕 詩を作ってみる（1）概説
- 〔第6回〕 詩を作ってみる（2）実作
- 〔第7回〕 老荘思想と詩（1）
- 〔第8回〕 老荘思想と詩（2）
- 〔第9回〕 「典故」や種々の技法（1）
- 〔第10回〕 「典故」や種々の技法（2）
- 〔第11回〕 「典故」や種々の技法（3）
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

授業中に適宜紹介する。

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

漢文や現代中国語の学習歴の有無は問わない。

◆成績評価方法

- 1) 全12回の内、三分の二以上の出席を成績評価の前提条件とする。
- 2) 最終日の試験による。

科目 英語学

2 単位

担当 文学部教授 井上逸兵

社会言語学の新展開

- 〔第1回〕 オリエンテーション
- 〔第2回〕 社会言語学と英語学
現代言語学史（20世紀中盤まで）
- 〔第3回〕 社会言語学と英語学
現代言語学史（20世紀中盤以降）
- 〔第4回〕 変異理論
- 〔第5回〕 法と言語学
- 〔第6回〕 メディア翻訳の社会言語学
- 〔第7回〕 報道の社会言語学
- 〔第8回〕 字幕・吹替翻訳ディスコースの社会言語学
- 〔第9回〕 マルティモーダル分析
- 〔第10回〕 社会語用論
- 〔第11回〕 社会統語論
- 〔第12回〕 総括・試験

◆テキスト

- ・井上逸兵編『朝倉日英対照言語学シリーズ〔発展編〕1 社会言語学』（朝倉書店、2017年）ISBN978-4-254-51631-9

◆受講上の要望または受講上の前提条件

できればテキストを読んでおいてください。

◆成績評価方法

- 毎日の授業最後的小レポート（50%）
- 最終日の試験（50%）

による。

科目 日米比較文化論

2 単位

担当 文学部助教 加藤有佳織

19世紀末から20世紀にかけてアメリカと日本がどのような文化的交流を持ったかを学び、とくに「開拓」をキーワードに両者の比較・考察を試みます。19世紀アメリカ合衆国は領土拡張の気運のなかにありました。ペリーによる日本遠征とそののちの開国交渉はいわばアメリカのフロンティア開拓の一端を占めるものであり、この文脈のなかで日米交渉を再検討することはそれほど見当外れではないでしょう。講義では史実を概観するとともに、日本開国に際して、「開拓者」としてのアメリカ人たちはどのように日本という異郷のフロンティアを体験したかを考察します。また、近代西欧化する日本がいかにして「開拓精神」を輸入して海外渡航を奨励し、日本人たちはどのように異国の地を見たかを検討します。日米双方が国家として膨張する過程における、さまざまな開拓体験に触れながら、両者にどのような文化的交感が起きていたのか、考えましょう。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 捕鯨ネットワークと漂流民
- 〔第3回〕 日本遠征／黒船来航
- 〔第4回〕 開国交渉
- 〔第5回〕 日本滞在記1
- 〔第6回〕 日本滞在記2
- 〔第7回〕 アメリカ訪問記1
- 〔第8回〕 アメリカ訪問記2
- 〔第9回〕 翻案・再話・逆輸入
- 〔第10回〕 日本の開拓精神
- 〔第11回〕 南北アメリカへの移民
- 〔第12回〕 まとめと試験

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・クリストファー・ベンフィー『グレート・ウェイヴ——日本とアメリカの求めたもの』小学館、2007年、ISBN978-4093566810
- ・猿谷要『西部開拓史』岩波書店、1982年、ISBN978-4004201922

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業内容についての積極的なリサーチと批評的な考察を大歓迎いたします。

◆成績評価方法

最終日をのぞく各日に提出していただく小レポート（25%）・最終試験（75%）による総合評価とします。

科目 英語音声学

2単位

担当 講師 横山安紀子

英語の音声学を理論面と実践面から学びます。受講者が英語の「音声」を構造的に理解できることを目標とします。言語学の枠組みの中での音声学分野を体系的に解説します。授業では指定された箇所を必ず予習し、わからない語は各自調べた上で出席してください。授業で課題を担当してもらい、授業内で発表してもらいます。

〔第1回〕 イントロダクション テキスト1章

〔第2回〕 テキスト2・3章

〔第3回〕 テキスト4章

〔第4回〕 テキスト5章

〔第5回〕 テキスト5章

〔第6回〕 テキスト6・7章

〔第7回〕 テキスト8・9章

〔第8回〕 テキスト10章

〔第9回〕 テキスト11章

〔第10回〕 テキスト12～15章

〔第11回〕 まとめ

〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト

・佐藤寧、佐藤努『現代の英語音声学』（金星堂、1997年）、ISBN 978-4-7647-3660-3

◆参考文献

・風間喜代三他『言語学 第2版』（東京大学出版会、2004年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

英語学・言語学関連授業を学んでいること。あるいはそれに準ずる知識をもっていること。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 アメリカ文学

2単位

担当 文学部教授 巽 孝之

アメリカ文学に親しむには、植民地時代以来、アメリカ文学史において長く培われたアメリカン・ナラティブの形成と発展に注目することが不可欠である。コロニアリズムからポスト・アメリカニズムへおよぶ射程の中で、文学はいったいどのように歴史と連動したのか、あるいは歴史はいかに文学を創造したのか、アメリカ文学思想史の可能性を探る。

その学習過程では、17世紀から21世紀へ至るアメリカ英語表現はもとより土壌となる文化、それらが生み出した時代ごとの文学的名作を通したアメリカ文明への理解を、すべての回に於いて促していくことになる。

17世紀から21世紀へ至る具体的な作品を総覧することで、アメリカ英語の独特な表現はもとより土壌となる文化への理解、それらが生み出した時代ごとの文学的名作を通しアメリカ文明史そのものへの理解を深めることを到達目標とする。

〔第1回〕 イントロダクション：アメリカン・ナラティブの文学思想史

〔第2回〕 ピューリタン植民地時代Ⅰ：反律法主義論叢

〔第3回〕 ピューリタン植民地時代Ⅱ：セイラムの魔女狩り

〔第4回〕 アメリカ独立革命時代Ⅰ：フランクリンとジェファソン

〔第5回〕 アメリカ独立革命時代Ⅱ：共和制文学の誕生

〔第6回〕 ロマンティシズム時代Ⅰ：ヤング・アメリカの戦略

〔第7回〕 ロマンティシズム時代Ⅱ：ポー、ホーソー、メルヴィル

〔第8回〕 南北戦争前後の時代Ⅰ：ジェイコブズの奴隷体験記

〔第9回〕 南北戦争前後の時代Ⅱ：リンカーンのレトリック

〔第10回〕 リアリズムの時代：マーク・トウェイン、アンブローズ・ビアス、ジェイムズ兄弟

〔第11回〕 ナチュラリズムの時代：クレイン、ロンドン、ドライサー

〔第12回〕 ポストモダニズムの時代：エリソン、ピンチョン、エリクソン／試験

その他 総括およびアメリカ文学思想史の展望

◆テキスト

・巽孝之『アメリカ文学史——駆動する物語の時空間』（慶應義塾大学出版会、2003年）ISBN978-4766409147
市販書採用科目「アメリカ文学」指定テキスト
・巽孝之『アメリカ文学』（通信テキスト、2010年）
・原文を掲載したプリントも用意する。

◆参考文献：

・Peter High, *An Outline of American Literature*. New York: Longman, 1986. ISBN978-0582745025
・George McMichael et al. eds., *Concise Anthology of American Literature*. 4th ed. Upper Saddle River: Prentice Hall, 1998.
・巽孝之『リンカーンの世紀——アメリカ大統領たちの文学思想史』（青土社、2002年）。ISBN978-4791767021
・巽孝之『モダニズムの惑星』（岩波書店、2013年）ISBN978-4000253178

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講上の前提条件はとくにないが、アメリカ文学思想史を構築するにあたって下記の書物が刊行されているので、あらかじめ読破しておけば有益であろう。

・巽孝之『ニュー・アメリカニズム』（青土社、1995年）。ISBN978-4791761968
・同『アメリカン・ソドム』（研究社、2001年）。ISBN978-4327471972

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 **ドイツ語学文学**

2単位

担当 文学部教授 香田芳樹

「幸せな家庭はどれも一様に幸せだが、不幸な家庭はそれぞれに不幸である」というトルストイの言葉は、まるで文学は不幸な人のためにあると言っているかのようです。確かに何の不自由もない幸福な人生を送った大富豪の自伝をあまり読む気がしませんし、本を手取るのは、そもそも何かに飢え、渴しているときでしょう。世界の名作と呼ばれる物語は例外なく、不幸な人間へのメッセージを含んでいます。主人公たちは人種や、宗教や、思想や、能力や、性別で差別を受けながら、自己の弱さと向かい合わなければなりません。

人間存在の本質に、壊れやすさ（フラジャイル）があるという視点から、ドイツの文学を読んでみるのがこの講義の主眼です。「壊れもの」だからこそ大切に扱わなければなりませんし、「壊れもの」だからこそ主張できることはあるはずです。古典的名作を読みながら、人間の弱さ、揺らぎの根本にあるものは何か、それをどのように強さに転じることができるのかを考えてみたいと思います。

*授業で取り上げる以下の作品の中から、少なくとも2作品はあらかじめ読んでおいてください。試験の際に必要です。

〔第1回〕〔概説〕

〔第2回〕〔理性の揺らぎ I〕

以下の作品を取り上げます。

ゲーテ『ファウスト』
ハルトマン『イーヴェイン』
クライスト『ミヒャエル・コールハースの運命』
クライスト短編集
ホフマン短編集
アイヒェンドルフ『大理石像』

〔第3回〕〔理性の揺らぎ II〕

以下の作品を取り上げます。

ゲーテ『ファウスト』
ハルトマン『イーヴェイン』
クライスト『ミヒャエル・コールハースの運命』
クライスト短編集
ホフマン短編集
アイヒェンドルフ『大理石像』

〔第4回〕〔信仰の揺らぎ I〕

以下の作品を取り上げます。

エックハルト説教集
フーケー『水妖記』
ロート『ヨブ』
ヘッセ『シッタルダ』
レッシング『賢人ナータン』
マン『選ばれし人』

〔第5回〕〔信仰の揺らぎ II〕

以下の作品を取り上げます。

エックハルト説教集
フーケー『水妖記』
ロート『ヨブ』
ヘッセ『シッタルダ』

レッシング『賢人ナータン』

マン『選ばれし人』

〔第6回〕〔愛の揺らぎ I〕

以下の作品を取り上げます。

ゴットフリート『トリスタンとイゾルデ』
シュトルム『みずうみ』
ゲーテ『親和力』
マン『ヴェニスに死す』
ムージル『愛の合一』
ホーフマンスタール『影のない女』

〔第7回〕〔愛の揺らぎ II〕

以下の作品を取り上げます。

ゴットフリート『トリスタンとイゾルデ』
シュトルム『みずうみ』
ゲーテ『親和力』
マン『ヴェニスに死す』
ムージル『愛の合一』
ホーフマンスタール『影のない女』

〔第8回〕〔青春の揺らぎ I〕

以下の作品を取り上げます。

マン『トニオ・クレーゲル』
ヘッセ『春の嵐』
ヘッセ『デミアン』
ヴェデキント『春のめざめ』
インゲボルク・バッハマン『三十歳』

〔第9回〕〔青春の揺らぎ II〕

以下の作品を取り上げます。

マン『トニオ・クレーゲル』
ヘッセ『春の嵐』
ヘッセ『デミアン』
ヴェデキント『春のめざめ』
インゲボルク・バッハマン『三十歳』

〔第10回〕〔正義の揺らぎ I〕

以下の作品を取り上げます。

グリーンメルスハウゼン『阿呆物語』
ブレヒト『肝っ玉おっ母とその子どもたち』
ケストナー『ファービアン』
クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』
レッシング『エミリア・ガロッティ』
ビュヒナー『ダントンの死』
ツヴァイク『書痴メンデル』

〔第11回〕〔正義の揺らぎ II〕

以下の作品を取り上げます。

グリーンメルスハウゼン『阿呆物語』
ブレヒト『肝っ玉おっ母とその子どもたち』
ケストナー『ファービアン』
クリスタ・ヴォルフ『引き裂かれた空』
レッシング『エミリア・ガロッティ』
ビュヒナー『ダントンの死』
ツヴァイク『書痴メンデル』

〔第12回〕総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・香田芳樹『魂深き人びと』（青灯社、2016年）
- ・柴田翔他『ドイツ文学史』（ミネルヴァ書房、2003年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

* 授業で取り上げる以下の作品の中から、少なくとも2作品はあらかじめ読んでおいてください。試験の際に必要です。

◆成績評価方法

授業の最終日にレポート試験を行います。評価は、出席と筆記試験の結果を基に総合的に判断します。

科目 ドイツ文学研究

2単位

担当 文学部教授 川島建太郎

フリードリヒ・ニーチェほど20世紀西洋の哲学、文学、諸芸術へ強烈なインパクトをもたらした19世紀の思想家はいないでしょう。思想史の上ではハイデッガーからポスト構造主義の理論家たちまでが、ニーチェの著作を重要な参照点としてきました。トーマス・マン、ベン、カフカのようなドイツ文学におけるモダニズムを代表する作家たちの創作も、明らかにニーチェの思想圏から出発しています。そもそも19世紀末以来のさまざまなアヴァンギャルド芸術は、「ハンマーを持って」哲学したニーチェの破壊的な価値転換の系譜上にあるととらえることも可能かもしれません。

本講義は、ニーチェの代表作『ツァラトゥストラはこう言った』を対象とし、とくに重要な場面をピックアップして解説します。「神の死」、「超人」、「身体」、「畜群」、「力への意志」、「永劫回帰」、「ディオニュソス」などの中心的概念を、具体的なコンテクストなかで理解することを目指します。また、そのように『ツァラトゥストラ』の内容を吟味してゆくことと平行して、ニーチェが、観念論哲学の体系的な叙述形式とはまったく異なる、詩的・劇的・文学的な形式によって思想を表現する様をとらえてゆきます。そもそもニーチェはなぜツァラトゥストラというアバターを使って自分の思想を表現したのでしょうか？

〔第1回〕 導入

〔第2回〕 『ツァラトゥストラはこう言った』第一部 (1)

〔第3回〕 『ツァラトゥストラはこう言った』第一部 (2)

〔第4回〕 『ツァラトゥストラはこう言った』第一部 (3)

〔第5回〕 『ツァラトゥストラはこう言った』第二部 (1)

〔第6回〕 『ツァラトゥストラはこう言った』第二部 (2)

〔第7回〕 『ツァラトゥストラはこう言った』第二部 (3)

〔第8回〕 『ツァラトゥストラはこう言った』第三部 (1)

〔第9回〕 『ツァラトゥストラはこう言った』第三部 (2)

〔第10回〕 『ツァラトゥストラはこう言った』第三部 (3)

〔第11回〕 『ツァラトゥストラはこう言った』第四部

〔第12回〕 総括・試験

◆テキスト

・ニーチェ『ツァラトゥストラはこう言った』(上)(下) 氷上英廣訳 (岩波文庫、2016年)

◆参考文献

・ニーチェ『この人を見よ』手塚富雄訳 (岩波文庫)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

テキストを読んだ上で授業に臨んで下さい (難しければ、大まかに目を通すのでも構いません)。講義では、皆さんが一度テキストを読んでいることを前提として話をします。『ツァラトゥストラ』にはさまざまな翻訳がありますが、必ず指定した文庫版をご使用ください。教室で不便が生じます。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 フランス文学史

2単位

担当 講師 設楽聡子 / 講師 鳥居珠江

本講義では19世紀から20世紀までのフランス文学を概観します。この時代はフランス文学が最も花開いた時代です。個々の作品と作家の分析にとどまらず、文学がフランス社会とどのように関わってきたのかを歴史の展開の中でたどっていきます。

〔第1回〕 19世紀フランス文学の展望

〔第2回〕 ロマン主義

〔第3回〕 スタンダールとバルザック

〔第4回〕 写実主義／フロベール

〔第5回〕 自然主義の作家たち

〔第6回〕 ボードレーと近代詩／象徴派

〔第7回〕 ベル・エポックの文学

〔第8回〕 20世紀前半の詩の流れ

〔第9回〕 ダダとシュルレアリスム

〔第10回〕 1930年代の文学

〔第11回〕 サルトルとカミュ

〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト

・渡辺一夫・鈴木力衛著『フランス文学案内〔増補〕』 (岩波書店、1990年)、ISBN978-4-00-350001-9

◆受講上の要望または受講上の前提条件

第1回目の講義からテキストを使用しますので、必ず事前に購入して持参して下さい。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 ラテン文学

2単位

担当 文学部教授 藤谷道夫

ギリシャ神話を読み解く

たいていの人は、ギリシャ神話と聞くと、面白いが荒唐無稽な「おとぎばなし」と思っています。この授業では不可視なものを視覚化する手法を解説し、神話に隠された真の意味と機能を解り易く解き明かしていきます。まったく予想しなかった新しい世界が開けてくるはずです。

〔第1回〕 自然の諸力の擬人化①

* キュクロプス

- * プレゲトーン
- * スキュッラとカリュブデイス
- * ヘカトンケイル
- * テューポーン
- * なぜゼウスが主神なのか
- 〔第2回〕 自然の諸力の擬人化②
 - * ケルベロス
 - * ヤマタノオロチ
 - * 神話の伝播のパターン
- 抽象名詞の擬人化①
- * メーティスとテミス
- * ギリシャ神話の特質
- 〔第3回〕 抽象名詞の擬人化②
 - * 神話の文法
 - * モイラ（運命の女神）
 - * ムネーモシュネー
 - * アレゴリー（蛇髪、運命の車輪）
 - * インウィディア
- 〔第4回〕 アレゴリー絵画とアレゴリー文学
 - ルクレティウスのウェヌス賛歌
- 〔第5回〕 プロメテウス神話①
- 〔第6回〕 プロメテウス神話②
- 〔第7回〕 アISKYUROSのプロメテウス神話
 - プラトーンのプロメテウス神話

- 〔第8回〕 洪水神話（デウカリオン、ノア、ウトナピシュティム）の比較文学
- 〔第9回〕 物語の読み方
 - * 舌切り雀《練習問題》
- 〔第10回〕 ミダース王の神話①
- 〔第11回〕 ミダース王の神話②
- 〔第12回〕 植物神話（ヘーリアデース、ナルキッソス）
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

予備知識は不要です。必要なものは「驚く心(sense of wonder, sensibility) だけです。授業をしっかりと聞いていただければ幸いです。

◆成績評価方法

レポートによる評価（最終回に提出ください）

科目 英会話

1 単位

担当 講師 ヤング, ジェローム

教職課程専門教育科目「英会話」(136頁)を参照してください。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、文学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

【第1類に属する科目】

科目 哲学特殊

2 単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

経済学部専門教育科目「ゲーム理論」(107頁)を参照してください。

科目 社会学特殊

2 単位

担当 講師 齋藤香里

経済学部専門教育科目「社会政策」(110頁)を参照してください。

科目 社会学特殊

2 単位

担当 講師 永井政治

経済学部専門教育科目「社会福祉論」(110頁)を参照してください。

科目 法学概論

2 単位

担当 講師 高田久実

経済学部専門教育科目「法学概論」(115頁)を参照してください。

科目 社会学特殊

2 単位

担当 法学部教授 竹ノ下弘久

法学部専門教育科目「社会学特殊」(123頁)を参照してください。

科目 マス・コミュニケーション論

2 単位

担当 法学部教授 大石 裕
メディア・コミュニケーション研究所准教授 山腰修三

法学部専門教育科目「マス・コミュニケーション論」(124頁)を参照してください。

科目 哲学特殊 2単位**担当** 法学部教授 萩原能久 / 講師 古田拓也

法学部専門教育科目「政治思想論」(124頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位**担当** 法学部教授 細谷雄一

法学部専門教育科目「国際政治論」(124頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位**担当** 講師 小田義幸

法学部専門教育科目「日本政治論」(126頁)を参照してください。

【第2類に属する科目】**科目** 日本史特殊 2単位**担当** 講師 ドルネッティ, フィリッポ

経済学部専門教育科目「経済史」(107頁)を参照してください。

科目 日本史特殊 2単位**担当** 講師 青木 健

経済学部専門教育科目「日本経済史」(108頁)を参照してください。

科目 日本史特殊 2単位**担当** 講師 原 禎嗣

法学部専門教育科目「法制史」(122頁)を参照してください。

科目 日本史特殊 2単位**担当** 講師 兒玉圭司

法学部専門教育科目「法制史特殊」(123頁)を参照してください。

科目 日本史特殊 2単位**担当** 法学部教授 玉井 清

法学部専門教育科目「日本政治史」(126頁)を参照してください。

3 経済学部専門教育科目

科目 経済原論

2単位

担当 講師 西 孝

ミクロ経済学およびマクロ経済学の入門講義である。ミクロ経済学では、家計や企業といった個別経済主体の行動に関する理論から、市場における需要と供給のメカニズムについて学ぶ。あわせて、経済学的なもののか考え方にも親しんでもらいたいと思っている。

マクロ経済学では、経済の全体的な動きに関する諸関係から、好・不況のメカニズムについて学ぶ。これに加えて、政府による財政・金融政策の効果についても言及するつもりである。

- 〔第1回〕 予算制約
- 〔第2回〕 選好と効用関数
- 〔第3回〕 所得効果と代替効果
- 〔第4回〕 費用関数
- 〔第5回〕 供給曲線
- 〔第6回〕 市場均衡とパレート最適
- 〔第7回〕 国民経済計算
- 〔第8回〕 財・サービス市場の均衡とIS曲線
- 〔第9回〕 貨幣供給
- 〔第10回〕 貨幣需要とLM曲線
- 〔第11回〕 財政・金融政策の効果
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

・西孝『イントロダクション マクロ経済学講義 第2版』（日本評論社、2009年）および講義プリント。

◆参考文献

テキスト、および講義プリントに記されている。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特定の予備知識を特に必要としないが、講義内容はいわば積み立て方式であり、毎回の講義内容は、それ以前の回の講義内容を前提とする。したがって何らかの理由によって途中が抜けてしまった場合、各自相応のリカバーをしないと、それ以降の話が全く分からなくなる可能性があるので注意されたい。

◆成績評価方法

最終日に行われる筆記試験のみによって評価する。40点以上を合格とする。

出欠は評価の対象としない。

科目 ゲーム理論

2単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

この授業ではゲーム理論（非協力ゲーム）の基本的な考え方を学びます。

- 〔第1回〕 ・ゲームの表
・「守られる口約束」としてのナッシュ均衡
- 〔第2回〕 ・ゲーム・ツリーにおける「戦略」と部分ゲーム完全均衡
・選択肢が多いほうがいいですか？
- 〔第3回〕 ・赤いぼうしのパズルと possible worlds model

- ・百足ゲームと合理性のパラドックス
- ・1万円札を燃やすという選択肢があると...

- 〔第4回〕 ・ゲーム・ツリーにおける「情報集合」と「戦略」
・「信念」と完全ベイジアン均衡
・情報は多いほうがいいですか？
- 〔第5回〕 全く同じ製品を生産する2つの企業による数量競争（同時手番の場合と先手・後手がある場合）
- 〔第6回〕 全く同じではないが代替的な製品を生産する2つの企業による価格競争（同時手番の場合と先手・後手がある場合）
- 〔第7回〕 囚人のジレンマ」と繰り返しゲーム
- 〔第8回〕 「フリーライダー問題」と繰り返しゲーム
- 〔第9回〕 参入阻止ゲーム
- 〔第10回〕 セカンド・プライス・オークション
- 〔第11回〕 ペア決めマッチング問題
- 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・H. ギンタス『ゲーム理論による社会科学の統合』（NTT出版、2011年）
- ・E. ラスムセン『ゲームと情報の経済分析（基礎編）』（九州大学出版会、2010年）
- ・A. ディクシット & B. ナイルバフ『戦略的思考をどう実践するか』（阪急コミュニケーションズ、2010年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

微分と積分は使いません。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 経済史

2単位

担当 講師 ドルネッティ、フィリップ

本講義の目的は、（1）学生が日本経済史を論理的に理解して自らの生きた知識とすること、（2）学生が現代日本経済の成り立ちを歴史的視点から理解し、その問題点を考察する能力を養うこと、である。その到達目標は、学生が、近代日本経済の成長について、概括的な流れを説明できるようにするだけでなく、ある程度各時代の具体的なマクロ的経済事象を把握して記憶するとともに、全体の流れを経済理論なども踏まえて理解する、というレベルに達することである。

具体的な講義内容は、日本経済の成長をマクロ的視点から捉えたものとしている。19世紀後半の開港以来の日本は、外国からの圧力や国際収支上の制約、外国為替相場の安定化といった対外的な問題にどのように対処していくなかで、国内の財政経済の問題に対峙し、経済成長を成り遂げてきたのかを、具体的な統計データを適宜参照しつつ説明する。

- 〔第1回〕 明治政府の成立と初期の財政経済政策

- 〔第2回〕 大久保政権から「明治十四年政変」へ
- 〔第3回〕 松方財政の展開と企業勃興
- 〔第4回〕 日清戦後経営と金本位制の確立
- 〔第5回〕 日露戦争とその後の財政経済
- 〔第6回〕 第一次世界大戦と日本経済、日本帝国の拡大
- 〔第7回〕 「金解禁」関連事項
- 〔第8回〕 「井上財政」から「高橋財政」へ
- 〔第9回〕 戦時経済下の日本
- 〔第10回〕 戦後改革から高度経済成長期へ
- 〔第11回〕 変動為替相場下の日本経済
- 〔第12回〕 総括と試験

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・杉山伸也『日本経済史 近世一現代』（岩波書店、2012年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義では、経済学、日本史の専門用語を利用することがある。学生の理解に応じて適宜説明するが、事前に入門書等を読んで、ある程度知識を身につけておくことが望ましい。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 日本経済史

2単位

担当 講師 青木 健

本講義では、近世から近現代にかけての日本経済史について、社会経済の発展の基層をなす土地利用型産業の農林業の動向と、それらの生産活動をめぐる社会関係の変化を主な焦点として講じる。

- 〔第1回〕 講義の問題関心と時期区分
- 〔第2回〕 近世日本の幕開け：高度有機経済の発展のはじまりとその特質
- 〔第3回〕 近世日本における労働集約型農業発展の展開と「勤勉革命」
- 〔第4回〕 林業面における集約的土地利用＝日本における育成林業のはじまり
- 〔第5回〕 近世日本の人口動態：回避された「マルサスの罠」
- 〔第6回〕 明治維新と日本農業：欧米型大農経営の試みと労働集約型農業発展への回帰
- 〔第7回〕 近代日本林政のはじまりとその特質：国有林野経営の成立とその役割
- 〔第8回〕 国家主導の土地改良事業の開始と地主小作問題の展開：大正時代～アジア太平洋戦争期
- 〔第9回〕 近代日本における工業化と木材利用：各種産業備林の経営展開を中心に
- 〔第10回〕 高度経済成長と現代日本農業の展開：労働集約型から労働節約型への転換
- 〔第11回〕 現代日本における林業問題の起源：戦後の「拡大造林」政策の要因と展開
- 〔第12回〕 総括と試験

◆テキスト

プリント資料を適宜配布する。

◆参考文献

- ・Conrad Totman. Japan : an environmental history. London : I. B. Tauris, 2014
- ・暉峻衆三編『日本の農業150年：1850-2000年』（有斐閣、2003年）
- ・山口明日香著『森林資源の環境経済史：近代日本の産業化と木材』（慶應義塾大学出版会、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

履修者側に高等学校卒業程度の日本史の知識があることを前提に講義をすすめるが、質問に応じて随時補足説明を行う。

◆成績評価方法

最終日に実施する筆記試験（70％）と6日間の出席状況の集計結果（30％）による。

科目 工業経済論

2単位

担当 講師 渋井康弘

工業が国民経済・世界経済の中でもつ意味を確認し、今日のグローバリゼーションの下で生じている諸変化の本質を解明します。各回の内容は下記のとおり。

- 〔第1回〕 「産業革命と工業部門の台頭」：資本主義を本格的に確立させた産業革命。
- 〔第2回〕 「機械・装置と大量生産」：道具の機械への転化と大量生産の普及。
- 〔第3回〕 「資本制生産における労働編成①」：単純協業とマニファクチュアの分業。
- 〔第4回〕 「資本制生産における労働編成②」：機械制大工業における分業の展開。
- 〔第5回〕 「資本の集積・集中と中小資本の残存・新生」：資本主義的蓄積の一般的傾向。
- 〔第6回〕 「産業部門構成の歴史的変化」：農工間の不均等発展と重化学工業化。
- 〔第7回〕 「独占的市場構造の成立」：独占成立の必然性と独占的市場構造の特徴。
- 〔第8回〕 「フォード・システムの技術史的意義」：マニユ的要素に依存する大量生産方式。
- 〔第9回〕 「資本蓄積の停滞基調と技術革新①」：資本蓄積の停滞と経済軍事化の蓋然性。
- 〔第10回〕 「資本蓄積の停滞基調と技術革新②」：世界大戦が生み出した原子力と情報技術。
- 〔第11回〕 「ME・情報技術と新しい労働編成」：工程別分業の機能別分業への転化。
- 〔第12回〕 「グローバルな独占と21世紀の資本蓄積」：全体の総括・試験。
- 〔その他〕 「古典検索」：旧図書館での古典的経済書の検索・検討。

◆テキスト

講義資料集を配布します。

◆参考文献

- ・北原勇他編著『資本論体系 10 現代資本主義』（有斐閣、2001年）
- ・今井 斉・岸川典昭・宮崎信二編著『経営から見る現代社会』（文真堂、2008年）
- ・植田浩史・糸野博行・駒形哲哉 編著『日本中小企業研究の到達点』（同友館、2010年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

一方的に話すだけの講義にはせず、できるだけ多くの人にこちらから質問します。質問された時は、分からなくてもとにかく考えて、答をひねり出してみてください。それを繰り返すうちに、自分の見解を持てるようになるはずです。

◆成績評価方法

最終日の試験の結果がそのまま成績となります(100%試験で判定)。

科目 農業経済論

2単位

担当 経済学部准教授 大平 哲

経済社会の近代化・現代化の中で農業が果たす役割について理解するために歴史的事実、理論を総合的に学習します。また、日本の現代の農業の実態も学習します。経済理論の応用科目であるので、事実を知ることだけでなく、理論をつかってそれらの意味を深く理解することを大事にすることには注意してください。経済原論を学習済みか、学習中である学生が履修することが望ましいです。

農業をめぐる経済問題を考察することが授業の目的です。農作業や農法などの知識は多少は紹介しますが、この授業にとっては重要なことではありません。また、農家経営論のようなこともこの授業では取り上げません。経済社会全体の中での農業の位置づけを考えることや、農業に直接には係わらない一般国民の経済生活にとって農業をどのように理解すべきかを考えるのがこの授業の趣旨です。

講義計画に沿いながら話しをすすめることが原則ですが、時事的な話題や履修者の関心の所在によって授業内容はある程度柔軟に変更します。

〔第1回〕 農業を考える意味：現代の日本で農業問題を考える意味について議論します。食の安全が問題になっている中で食料を生産する産業である農業について理解を深めることは言うまでもなく、食料生産とは異なる農業の役割にも注目が集まっていることを紹介します。

〔第2回〕 食の安全（1）：食については偽装の問題をはじめ、同じような社会的問題が次々におきます。リスクがどのようにして生じるか、それらリスクにどのように接すればよいのか等々の議論を経済学の理論を用いて理解します。第1回、第2回の理解を確認するための小テストをします。

〔第3回〕 食の安全（2）：第2回の議論の継続、およびその関連で農業生産を理解する上での基礎的な自然科学の知識を整理します。

〔第4回〕 途上国における農業問題：低開発途上国における農業部門の位置づけを解説します。多くの人びとが就業しており生活の基盤になっているという意味で農業はきわめて重要な産業です。一方、途上国政府は工業化をすすめることを優先しているので政策における農業部門の相対的重要性は低くなっています。第3回、第4回の理解を確

認するための小テストをします。

〔第5回〕 中進国における農業問題：第4回の継続、および中進国段階に達した国々で農業問題がどのように変質するかを解説します。

〔第6回〕 先進国における農業問題：第5回の議論と交差させながら先進国での農業問題の一般論を話します。第5回、第6回の理解を確認するための小テストをします。

〔第7回〕 農業保護政策：農業部門を保護するための政策の一般論を解説します。国際貿易論の基礎を農業部門のことを意識しながら解説する回になります。

〔第8回〕 日本の農業の歴史・現状（1）：現在の日本の農業問題を理解するために、まず食糧管理法が果たしていた歴史的役割を確認します。また、農業協同組合の役割についても見ます。第7回、第8回の理解を確認するための小テストをします。

〔第9回〕 日本の農業の歴史・現状（2）：農地法が果たしてきた役割を見た後、現在の日本での農業の現状を理解する論点を整理します。

〔第10回〕 日本の農業の歴史・現状（3）：食料生産とは異なる農業の役割を意識しながら日本の農業の現状・今後の方向を話します。

〔第11回〕 第10回までに残された論点の整理や履修者からの質問に回答します。

〔第12回〕 全体の総括をします。また全体の理解を確認するためのテストをします。

〔その他〕 小テスト

◆テキスト

指定しない。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業に関する情報は以下に掲載する。これを授業期間中も閲覧できることを前提に授業をすすめます。

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/etc/2018/agri/index.html>

◆成績評価方法

毎日の授業で授業内試験をおこないます。その合計で平常点を出し、最終日の試験の点数と合計した総合点で成績評価をします。

次の方針を考えています。

- ・小テスト点（最初の5日は各回20点満点×5回）＋最終日試験（満点は20点よりは高く設定）を合計して総点を出す

- ・欠席を1回しても成績に致命的な影響がないような工夫をする。たとえば、配点が他の日より高い最終日試験を欠席したとしても、それだけでDになることはしないようにする。

- ・例外対応（病気や仕事都合での試験欠席への対応など）はしない。（とりあえずこの原則を考えています。例外を設けるとしたらどのようなことが可能か第1回の授業で話し合った上で履修者（その日の出席者）全員で決定します。

- ・最終日試験も含めて追試はない。

科目 社会政策

2単位

担当 講師 齋藤香里

現代の社会政策は労働問題と社会保障によって構成されるが、本講義では日本の社会保障のあり方について「格差」に着目し、検討する。経済学の視点から、特に、医療保障、子どもの貧困、高齢者の介護問題を取り上げる。

- 〔第1回〕 イントロダクションー社会政策とは何か
- 〔第2回〕 社会政策の理論と歴史的展開
- 〔第3回〕 日本の社会保障制度の変遷と概要
- 〔第4回〕 医療① 日本の医療保障の概要と課題
- 〔第5回〕 医療② 医療における格差
- 〔第6回〕 子どもの貧困① 相対的貧困と絶対的貧困
- 〔第7回〕 子どもの貧困② 幼児教育の経済学
- 〔第8回〕 子どもの貧困③ 子どもの貧困への対策
- 〔第9回〕 高齢者の介護問題① 日本の介護保険制度
- 〔第10回〕 高齢者の介護問題② 日本の介護保険制度の課題
- 〔第11回〕 高齢者の介護問題③ ドイツの介護施策
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂『社会政策―福祉と労働の経済学』（有斐閣アルマ、2015年）
- ・阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』（岩波書店、2014年）
- ・ジェームス・J・ヘックマン『幼児教育の経済学』（東洋経済新報社、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 社会福祉論

2単位

担当 講師 永井攻治

社会保障・福祉制度は成立と改革を相互に繰り返して現在の姿となった。その流れは、経済成長及び財政と深く関わっている。例えば、高度経済成長・財政拡充期に骨子が成立し、その後の安定成長・緊縮財政期に制度改革が多くなされている。この法則から考察すると、現在の低成長期は後者（改革期）と言える。それでは、これからの社会保障制度は、改革の名の下にどのような方向転換が迫られているのか。それは、これまでとは異なる状況、特に超高齢化社会においても破綻することのない福祉施策を講じる制度改革である。

従来型の制度改革は、負担と給付の議論が先行していた。しかし、財政面のみから考えると、人口の高齢化、家族機能の変化、財政赤字等への対応策が問題である。現在の財政状況では、これからの福祉ニーズに十分な対応を施す事は困難である。また、戦後60年以上が経過し、日本の社会保障や福祉を取り巻く理念も「弱者救済から全国民への安心の保障」へと変化している。

そこで本講義では、社会保障・福祉制度の歴史的展開と少子高齢化社会の社会保障・福祉制度の役割・各社会保険（医療・年金・福祉）と労働保険（労災・雇用保険）の制度を中心に学ぶ。そして、持続可能性のある社会保障・福祉制度の必要性和、超高齢化社会に対応した福祉施策のあり方とは何かを共に考える。

- 〔第1回〕 イントロダクション及び成熟化社会と社会保障
- 〔第2回〕 少子・高齢化社会の現状と動向
- 〔第3回〕 高齢化と日本経済
- 〔第4回〕 社会保障制度の機能
- 〔第5回〕 日本の年金制度の歴史的変遷①
- 〔第6回〕 日本の年金制度の歴史的変遷②
- 〔第7回〕 年金制度の概要①
- 〔第8回〕 年金制度の概要②
- 〔第9回〕 健康保険制度の概要
- 〔第10回〕 労働者災害補償保険制度の概要
- 〔第11回〕 働くルールと社会保障
- 〔第12回〕 総括「現在の社会保障制度の問題点について」

◆テキスト

プリントを適宜配布する予定である。

◆参考文献

- ・駒村康平『福祉の総合政策〔新訂5版〕』（創成社、2011年）（市販書採用科目「社会政策（E）（J）」テキスト）、ISBN 978-4-7944-3121-9
- その他、授業中に適宜指示する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

日本の社会保障・福祉制度について関心を持つ塾生を歓迎する。担当教員の指導に非協力的な塾生の受講は歓迎しない。なお、講義終了後に毎回テーマを与え、自分なりの意見を提出してもらう予定である。

◆成績評価方法

「テスト」、「出席と課題提出」、「授業態度（増減点）」で評価する予定である（受講者数により臨機応変に判断するので、詳細は授業開始時に説明する）。

科目 経済政策

2単位

担当 経済学部教授 藤田康範 / 講師 鄭雨宗

この講義では、日本経済や世界経済の現状について概観すると同時に、どのような経済政策が現在求められているのか等について考えます。

経済指標や経済記事に親しむことも目標の1つとします。この講義を機縁として、日本の経済政策やそのあり方について考えたり話し合ったりする機会をつくって欲しいと思います。

前半は藤田康範が担当し、マクロ経済政策について説明します。バブルの生成および崩壊の経緯、資産価格と貸し渋りの関係、金融再生の方策、伝統的景気対策の理論、構造改革の意義などを中心的テーマとします。『21世紀の資本』についても取り上げる予定です。

後半は鄭雨宗が担当し、国際政治経済学アプローチによる国際環境政策論について説明します。気候変動問題のような経済・エネルギー・環境をめぐる複雑系問題に対する政策評価・政策提言などを中心的テーマとします。

- 〔第1回〕 はじめに：日本経済の現状と課題を把握する
- 〔第2回〕 経済変数の決定に関する理論を学ぶ（1）
GDP、財政赤字
- 〔第3回〕 経済変数の決定に関する理論を学ぶ（2）
資産価格、為替レート
- 〔第4回〕 これまでの経済危機と経済政策を振り返る
（1）：バブルの生成崩壊～不良債権問題
- 〔第5回〕 これまでの経済危機と経済政策を振り返る
（2）：アジア通貨危機～欧州債務危機
- 〔第6回〕 これからの経済政策のあり方を考える
- 〔第7回〕 京都議定書の評価とポスト京都議論
- 〔第8回〕 京都メカニズムとしての排出権取引スキームの実態とその課題
- 〔第9回〕 UEのエネルギー需要構造と特徴
- 〔第10回〕 途上国の環境・エネルギー問題と持続可能な発展シナリオ
- 〔第11回〕 UE提案型戦略的貿易措置と京都議定書の補完性
- 〔第12回〕 環境と貿易の相互関係：日韓ケースと日中ケースの経済・環境への影響分析

◆テキスト

テキストは使用しません。初日に講義プリントを配布します。

◆参考文献

- ・藤田康範『図解 世界一わかりやすい経済学の授業』（中経出版、2013年）（第1回～第6回）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

できるだけ丁寧な説明を心掛けますので、特別な予備知識は必要ありませんが、経済学的考え方の習得を目指す方々、新しいことから驚きと喜びを持って受け入れる準備のある方々の履修を希望いたします。

◆成績評価方法

出席およびレポートに基づいて総合的に評価します。

科目 財政論

2単位

担当 講師 倉地真太郎

財政学の基本的な考えを、理論と実際の両面から学習する。現在、日本は未曾有の財政赤字を抱えており、将来の社会保障や公共サービスの提供や財政破たんに対して多くの国民が不安を抱えている状況にある。他方で、北欧諸国のように高福祉高負担を維持し、重い。

租税負担に対して人びとの支持を得ている国々も存在している。なぜこのような財政問題が日本では発生しているのか。どのようにすれば解決可能なのか。財政学の学習を糸口として、現代社会の課題について理解を深めることが本講義の目標である。

- 〔第1回〕 財政とはなにか？（1）
現代的財政の成立に関する歴史と理論的解釈について理解する。
- 〔第2回〕 財政とはなにか？（2）
必要（ニーズ）を充足するための財政のあり方について、機能面と理論面から解説する。
- 〔第3回〕 公共サービス（1）
日本の社会保障制度の課題をニーズの観点から理解する。

- 〔第4回〕 公共サービス（2）
日本の社会保障制度の課題を財源論の観点から理解する。
- 〔第5回〕 財政赤字（1）
日本における財政赤字の現状を国際比較の観点から解説する。
- 〔第6回〕 財政赤字（2）
財政赤字の持続可能性について、理論的展開と現状を理解する。
- 〔第7回〕 租税論（1）
古典から現代まで様々な租税理論を紹介する。
- 〔第8回〕 租税論（2）
日本と世界の租税体系と税制改革の潮流について学び、公平な税制のあり方を検討する。
- 〔第9回〕 地方財政論（1）
地方財政の基本的な考え方について、理論と実際の両面から学習する。
- 〔第10回〕 地方財政論（2）
日本における地域間格差の問題について、財源保障と財政調整に焦点を当てて解説する。
- 〔第11回〕 日本の財政問題
現在日本が抱えている財政的な問題について全体像を理解する。
- 〔第12回〕 総括
全体の講義を振り返るとともにその理解を試験する。

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・池上武彦編『現代財政を学ぶ』（有斐閣、2015年）
- ・神野直彦『財政学〔改訂版〕』（有斐閣、2007年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講上の前提条件は特にない。レポート科目の財政論の履修者、未履修者、経済学部生、法学部生のすべてを歓迎する。例年、この講義は初学者から実務のエキスパートまで様々な方が履修している。そのため、初学者にとって分かりやすく、なおかつ最新の学問動向を取り入れた授業を目指したい。財政学や日本の財政の行方に興味のある方に受講して欲しい。配布資料は印刷したものを毎授業時に配布するが、同様のものを前日中に担当者のWebサイト（<https://shintarokurachi.org/lecture/publicfinance/>）に掲載する予定である。また講義録も掲載する。受講を検討している方で昨年度の資料を参照したい方は担当者（mail@shintarokurachi.org）に問い合わせること。

◆成績評価方法

最終日の試験による。ただし、授業では任意でアクションペーパー、あるいは質問Webフォームで質問・感想を提出することを推奨している。これを授業に対する積極的参加の指標として加点を行う。

科目 金融論

2単位

担当 講師 溝口哲郎

金融取引は、我々の日々の経済活動において必要不可欠な存在である。日本がグローバル化の進行する世界の中で豊かさを享受しているのは、金融の力が大きい。本講義では、現代における金融の仕組みを理解し、金融機関の存在意義、資産の価格決定メカニズム、金融政策などのトピックを取り扱う予定である。

- 〔第1回〕 金融の役割と資金循環
- 〔第2回〕 企業の資金調達と投資
- 〔第3回〕 金融商品のリスク制御と価格計算
- 〔第4回〕 金融機関の仲介機能と証券市場
- 〔第5回〕 金融行政と金融政策
- 〔第6回〕 財政と財政投融资
- 〔第7回〕 貿易・資本移動と外国為替
- 〔第8回〕 金融のミクロ理論（家計の金融行動）
- 〔第9回〕 金融のミクロ理論（企業・銀行の金融行動）
- 〔第10回〕 金融のマクロ理論（ワルラス法則とIS-LM分析）
- 〔第11回〕 金融のマクロ理論（総需要－総供給モデル、オープン・マクロモデル）
- 〔第12回〕 試験

◆テキスト

・吉野直行・山上秀文『金融論』（通信テキスト、2017年）

◆参考文献

・川西諭・山崎福寿『金融のエッセンス』（有斐閣、2013年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

金融論は経済学の応用分野のため、経済学を履修済であることが望ましい。特にマクロ経済学およびミクロ経済学の知識があると、理解が容易になるだろう。講義では金融の現状や実際を含めて説明し、その理解に基づいて金融の理論を学習する。

◆成績評価方法

最終日の試験による。ただし一定のスクーリング出席を前提とする。

科目 公共経済学

2単位

担当 講師 金子 憲 / 講師 金子 光

公共経済学は、国や地方公共団体などの公共部門が行う活動を、ミクロ経済学・マクロ経済学および財政学の理論的枠組みを用いて分析する学問である。

この講義では、ミクロ経済学・マクロ経済学および財政学の理論を概説した上で、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。これらの学習を通して、公共経済学に関する理解を深めるとともに、政策論に必要な分析手法を重点的に修得することによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。

- 〔第1回〕 「財政の3機能」の今日的課題
- 〔第2回〕 「市場の失敗」と政府の役割：公共財、外

部性、費用逓減産業

- 〔第3回〕 公共部門による所得再分配政策
- 〔第4回〕 日本経済のマクロ経済分析、ケインズ経済学を中心としたマクロ経済学の理論
- 〔第5回〕 政策分析・政策評価に必要な費用便益分析などミクロ経済学の分析ツール
- 〔第6回〕 租税原則、国と地方の税制、課税理論のミクロ経済分析
- 〔第7回〕 国と地方の財政関係、公共投資と地方財政、地方圏における地域経済政策
- 〔第8回〕 財政民主主義と憲法規定：予算編成・執行・決算など日本の予算制度
- 〔第9回〕 予算編成過程における政策決定プロセスと一般会計歳出構造に関する分析
- 〔第10回〕 財政の持続可能性分析、ドーマーの定理
- 〔第11回〕 NPM（New Public Management）、欧米先進諸国の財政再建への取り組み
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

テキストは使用しない。プリントを適宜配布する。

◆参考文献

講義の際、適宜紹介する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学の理論については、初学者も理解できるように解説する。

◆成績評価方法

出席状況とレポートの結果を基に総合的に評価する。

科目 日本経済論

2単位

担当 経済学部教授 植田浩史

明治期の近代化以降、今日までの日本経済について、産業、企業を中心に、その構造と展開を歴史的に論じる。日本経済はどのように欧米へのキャッチアップを果たし、産業や企業の国際競争力を高めてきたのか、かつて競争力を持った産業分野がなぜ現在厳しい状況におかれているのか、などについて、時代の変遷とともに変わっていく日本経済の姿を論じていく。

- 〔第1回〕 序章 近代化と日本経済（1）幕末期～1920年代
- 〔第2回〕 序章 近代化と日本経済（2）1930年代～敗戦
第1章 高度成長期（1）戦後復興から高度成長
- 〔第3回〕 第1章 高度成長期（2）高度成長の構造
- 〔第4回〕 第2章 安定成長期（1）ドルショック、石油ショック
- 〔第5回〕 第2章 安定成長期（2）Japan as No.1の時代へ
- 〔第6回〕 第3章 バブル経済と崩壊（1）プラザ合意からバブル経済
- 〔第7回〕 第3章 バブル経済と崩壊（2）バブル崩壊
- 〔第8回〕 第4章 「失われた10年」期（1）バブル崩壊後の10年
- 〔第9回〕 第4章 「失われた10年」期（2）日本型経済システムの変貌

〔第10回〕 第5章 日本経済の現状（1）

〔第11回〕 第5章 日本経済の現状（2）

〔第12回〕 終章 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

適宜指示する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

日本の近代から現代にいたる歴史についての基礎知識を前提に講義を行う。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 国際経済学

2単位

担当 講師 久野 新

国と国とが貿易を行うのは何故なのか。ある国の主要貿易品目はどのように決定されるのか。貿易自由化や自由貿易参加の是非をめぐり国内でも意見が衝突するのは何故なのか？ 外国人労働者の受け入れが一国の経済に与える影響はどのようなものなのか？

本講義では、広義の国際経済学のなかでも国際貿易論と呼ばれる領域の理論の基礎を学び、こうした諸問題について受講者が自ら考察できるようになるための訓練を行う。

・学習の到達目標

本講義で登場する基礎的な用語や理論について、第三者に対して説明できるようになること。

講義内容は以下を予定している。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 部分均衡分析の方法論（復習）

〔第3回〕 貿易政策の基礎

〔第4回〕 貿易政策の応用

〔第5回〕 比較優位と分業の利益（1）

〔第6回〕 比較優位と分業の利益（2）

〔第7回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（1）

〔第8回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（2）

〔第9回〕 地域貿易協定（1）

〔第10回〕 地域貿易協定（2）

〔第11回〕 国際要素移動（資本や労働の国際移動）

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ〔第2版〕』（有斐閣、2013年）ISBN978-4-641-17719-2

◆受講上の要望または受講上の前提条件

経済原論を履修済みであることが望ましい。

授業内のディスカッションに積極的に参加すること。

◆成績評価方法

最終日の試験（持ち込み不可）のみで評価する。

科目 国際金融論

2単位

担当 講師 田中 巖

この授業での目標は、国際金融の理論を学習し現実の国際経済の舞台で取り上げられる様々な問題について批判的に検討（critical thinking）できるように

なることです。

近年の世界的な金融不信の問題を理解するためには、グローバルなお金（マネー）の動きについて知る必要があります。そのため、各国の利子率と為替レートとの関係、実需や予想（期待）が与える為替レートへの影響、短期的視点と長期的視点の違いなどについて学びます。また、国際収支表や実質為替レートの理論を知ることにより、金融部門と実物部門との関連性を理解します。さらに、通貨危機の発生メカニズム、固定相場制と変動相場制のメリット・デメリットについて考察します。

国際経済問題を考えるためには筋道を立てて見ていく必要がありますが、理論は大変重要な役割を担っています。授業では、理論、制度、政策という経済分析に欠くことのできない視点を重視して講義し、国際収支表と為替レートについての理解を深めていきたいと思います。また、ほんの少し、アクティブ・ラーニングを行ってみたいと思います。その際は、ディスカッションに積極的に参加してください。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 国際資本移動の経済学、経常収支問題

〔第3回〕 国民所得勘定と国際収支表①（国際収支表とは、国際収支表の読み取り）

〔第4回〕 国民所得勘定と国際収支表②（開放経済におけるマクロの国民所得恒等式）

〔第5回〕 為替レートと外国為替市場、国際通貨制度の歴史的変遷

〔第6回〕 変動相場制と固定相場制、政府による外国為替市場への介入

〔第7回〕 為替レートの決定因①（需要・供給曲線によるモデル）

〔第8回〕 為替レートの決定因②（利子平価説（短期のモデル））

〔第9回〕 為替レートの決定因③（為替レートのオーバーシュート）

〔第10回〕 為替レートの決定因④（購買力平価説（長期のモデル））

〔第11回〕 実質為替レート、短期における為替レートと生産水準の決定

〔第12回〕 総括

〔その他〕 初日に宿題を配布、3日目に提出

◆テキスト

・伊藤元重『ゼミナール国際経済入門〔改訂3版〕』（日本経済新聞出版社、2005年）ISBN978-4-532-13288-0

◆参考文献

・Krugman, Paul R., Maurice Obstfeld, and Marc J. Melitz, 『International Economics: Theory and Policy, Tenth Edition (Global Edition)』（Pearson Education Limited、2014年）

・大山道広『国際経済学』（培風館、2011年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

経済原論のマクロ分野の知識を必要とし、抽象的なグラフと簡単な数式を用います。統計データを読むことに意欲的で、現実の国際経済問題を理解することに情熱を持っている履修者を歓迎します。

◆成績評価方法

100点満点で評価します。出席・参加20点、宿題20点、最終日の試験（持込み不可）が60点です。90点以上がS、80点～89点がA、70点から79点がB、60点から69点がC（以上合格）、59点以下がD（不合格）となります。

科目 国際貿易論

2単位

担当 講師 田中 巖

この授業での目標は、国際貿易の理論を学習し現実の国際経済の舞台で取り上げられる様々な問題について批判的に検討（critical thinking）できるようにすることです。

近年の世界的な金融不信に端を発する世界同時不況と日本経済への影響について理解するためには、国際貿易と海外投資、移民の拡大を通じて統合が進んでいる世界経済の特徴を知る必要があります。こうした経済のグローバル化は自由貿易の利益を求めて展開し、地域統合の締結を促進しています。

最近年の世界の動きは、自由貿易を主張したリカードの国であるイギリスがEU離脱を表明し、自由な国の象徴ともいえる米国のトランプ大統領はTPP離脱とNAFTAの再交渉を要請するなど、自由貿易が最も望ましいとする価値観は必ずしも共有されなくなってきたことを示唆しています。貿易により賃金や雇用が痛手を受ける産業があるという考え方は、確かに貿易理論からも導き出されることです。それではなぜ自由貿易を推進するのでしょうか。所得格差の拡大とグローバル化の間には何か関係があるのでしょうか。このような貿易論の応用分野にも触れることが出来たらと考えています。

授業では、統計データを見て世界貿易のパターンを理解し、貿易理論の学習とその検証方法を学び、比較優位と貿易利益について理解を深めて、自由貿易のメリットを再確認していきたいと思います。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 世界貿易の概観（成長率と開放度指数）

〔第3回〕 貿易理論とその検証①（ミクロ経済学の復習、貿易の基本モデル）

〔第4回〕 貿易理論とその検証②（リカードの比較優位理論）

〔第5回〕 貿易理論とその検証③（リカードの比較優位理論（続き））

〔第6回〕 貿易理論とその検証④（ヘクシャー＝オールの要素比率モデル）

〔第7回〕 貿易理論とその検証⑤（マクドゥーガルの実験、レオンティエフ・パラドック）

〔第8回〕 通商政策①（関税・非関税障壁）

〔第9回〕 通商政策②（厚生効果）

〔第10回〕 経済のグローバル化とその推進主体①（貿易と日本の経済成長、国際貿易体制）

〔第11回〕 経済のグローバル化とその推進主体②（多国籍企業と海外直接投資、経済格差）

〔第12回〕 総括

〔その他〕 初日に宿題を配布、3日目に提出

◆テキスト

・伊藤元重『ゼミナール国際経済入門〔改訂3版〕』（日本経済新聞出版社、2005年）
ISBN 978-4-532-13288-0

◆参考文献

- ・Husted, Steven, and Michael Melvin 『International Economics, Ninth Edition (International Edition)』（Pearson Education, Inc., 2013年）、Kindle版。
- ・Krugman, Paul R., Maurice Obstfeld, and Marc J. Melitz 『International Economics: Theory and Policy, Tenth Edition (Global Edition)』（Pearson Education Limited, 2014年）
- ・大山道広『国際経済学』（培風館、2011年）
- ・野林健・長尾悟編著『国際政治経済を学ぶ—多極化と新しい国際秩序』（ミネルヴァ書房、2011年）（特に、第5章「グローバリゼーションの過去と現在」・第6章「グローバル化と経済格差」（田中巖執筆））

◆受講上の要望または受講上の前提条件

経済原論のミクロ分野の知識を必要とし、抽象的なグラフと簡単な数式を用います。統計データを読むことに意欲的で、現実の国際経済問題を理解することに情熱を持っている履修者を歓迎します。

◆成績評価方法

100点満点で評価します。出席・参加20点、宿題20点、最終日の試験（持込み不可）が60点です。90点以上がS、80点～89点がA、70点～79点がB、60点～69点がC（以上合格）、59点以下がD（不合格）となります。

科目 世界経済論

2単位

担当 講師 久野 新

従来、東アジア各国は経済的な相互依存関係を緊密化させながら経済成長を遂げてきましたが、各国の発展の経緯、成長の成功要因、政治体制、直面している政策課題は必ずしも一様ではない。本講義では、いま世界の中で最もダイナミックに変化を遂げている東アジアの経済に焦点をあて、同地域における貿易・投資構造の変遷、および各国の経済発展の経緯や特性などについて学ぶ。

・学習の到達目標

地域として捉えた場合の東アジアの経済的特性、および個別東アジア各国における経済発展の経緯と特性、現在の政策課題に関する理解を深める。

講義内容は以下を予定している。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 地域としての東アジアの特性（1）

〔第3回〕 地域としての東アジアの特性（2）

〔第4回〕 シンガポール

〔第5回〕 マレーシア

〔第6回〕 インドネシア

〔第7回〕 フィリピン

〔第8回〕 タイ

〔第9回〕 ベトナム

〔第10回〕 中国

〔第11回〕 総括

◆テキスト

授業中にプリントを配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業内のディスカッションに積極的に参加すること。

◆成績評価方法

最終日の試験（手書きA4片面メモ1枚のみ持ち込み可）のみで評価する。

科目 人口論

2単位

担当 講師 佐藤龍三郎

現在約76億の世界人口は、なおも増加が続いている。一方、日本をはじめ多くの先進国は少子高齢化・人口減少に直面しており、経済・財政の面でも長期的な低迷に陥っている。21世紀に生きるわたしたちは、このように対照的な「膨張する世界」と「縮減する日本」がどのように向き合い、どのように交流していくのか、という大きな課題をつきつけられているといえる。

この課題について考える上で「人口学」の知識が不可欠である。「人口転換」と呼ばれる人口システムの長期的な変動（それは人口の総数だけでなく、年齢構造、人々のライフコースの変化でもあり、都市化や家族・ジェンダーのあり方とも連動している）が理解できれば、経済・社会システムの長期的な変化を理解する上で大いに助けになるに違いない。本科目では、以下の項目について講義する。

〔第1回〕 はじめに

〔第2回〕 世界と日本の人口の動向

〔第3回〕 人口転換と人口推計

〔第4回〕 死亡率転換と長寿化のゆくえ

〔第5回〕 出生力転換とリプロダクティブ・ヘルス／ライツ

〔第6回〕 人口の年齢構造変化と社会経済開発

〔第7回〕 家族と地域社会の変容

〔第8回〕 国際人口移動と移民問題

〔第9回〕 日本の少子化の原因と対策について

〔第10回〕 世界の人口開発問題と政策課題

〔第11回〕 日本の人口減少・超高齢化と政策課題

〔第12回〕 試験・総括

テキストは指定しない。詳細なプリントを配布する。人口学の基本的な用語（定義・概念）、指標の見方、統計資料の入手・参照方法については、授業の中で逐次解説する。講義では、世界の人口問題と日本の人口問題を同じくらいの比重で取り上げる。日本の人口については、参考文献のうち『ポスト人口転換期の日本』が大変有用である。

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

・佐藤龍三郎・金子隆一（編）『ポスト人口転換期の日本』（原書房、2016年）

・阿藤誠・佐藤龍三郎（編）『世界の人口開発問題』（原書房（オンデマンド版））

◆成績評価方法

毎回出席をとる。試験は最終日に行う。

科目 会計学

2単位

担当 講師 高瀬 央

本講義は、ひろく「会計（学）」のなかでも、企業ないし株式会社の会計、とりわけ「財務会計」とよばれる領域をその対象とする。本講義の対象となる「財務会計」とは、文字どおり、財務のため（いまだし簡単にいえば、事業の元手を集めるため）の会計である。したがって、事業の企て（の組織）である企業にとっては、欠かすことのできない重要な行為であるといえる。

本講義では、このように今日の経済社会の中核をなす企業にとって重要な行為である「財務会計」が、どのような考え方（理論）のもとに成り立ち、また、どのように実践されているのかについて知識と理解を深めることを目的とする。

〔第1回〕 会計の意義、会計の前提

〔第2回〕 会計の基礎概念

〔第3回〕 会計の一般原則

〔第4回〕 認識・測定原則（1）

〔第5回〕 認識・測定原則（2）

〔第6回〕 認識・測定原則（3）

〔第7回〕 伝達の原則

〔第8回〕 財務諸表分析の基礎

〔第9回〕 収益性分析

〔第10回〕 安全性分析

〔第11回〕 成長性分析、生産性分析

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・友岡賛『会計学』（通信テキスト、2009年）

◆参考文献

・友岡賛『会計学はこう考える』（ちくま新書、2009年）

・友岡賛『会計学原理』（税務経理協会、2012年）

◆成績評価方法

最終日におこなう試験による。

科目 法学概論

2単位

担当 講師 高田久実

本講義は法学の初学者を対象として、社会生活を営む上で必要な法的知識を得ること、すなわち一般教養としての法学を学ぶことを目標とします。

講義の最初から4日間で、私たちの周りにある法の成り立ちや、法学を学ぶ上で欠かせない語句や制度、基本的な作法（解釈等）について扱います。

残りの2日間では、日本国憲法をはじめとする主要な法典に記された重要な原則を取り上げるとともに、各法領域を学ぶ際にその入り口となるごく初歩的な内容を、身近な事例を用いてお話してみたいと考えています。

本講義を通じて、法学に関する基本的な事柄を理解してもらったとともに、講義で扱ったいずれかの分野に興味を持ち、より深く学び続けるきっかけを掴んでいただければ幸いです。

講義では以下の内容を扱う予定です。

〔第1回〕 ガイダンスー法学をまなぶ意義

2018年度夏期スクーリング

- 〔第2回〕 法とは何か
- 〔第3回〕 法の発展
- 〔第4回〕 日本における近代法の導入
- 〔第5回〕 法源①（日本における成文法）
- 〔第6回〕 法源②（日本における不文法）
- 〔第7回〕 法の種類と効力
- 〔第8回〕 法の解釈と適用
- 〔第9回〕 日本国憲法の成立とその基本原理
- 〔第10回〕 日本国憲法に記される基本的人権
- 〔第11回〕 総括
- 〔第12回〕 犯罪と法 もしくは 家族と法

なお、講義は配布するレジュメや資料プリントに沿って進めます。板書する内容はレジュメに書き込んでいただくことが可能です。テキストは、事前・事後

の予復習にご利用ください。

◆テキスト

- ・霞信彦編『法学概論』（通信テキスト、2015年）

◆参考文献

- ・伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣、2005年）

このほか、講義の中で随時、参考文献をご紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義では「六法」の利用を予定しています。『ポケット六法』（有斐閣）、『法学六法』（信山社）など、比較的安価な「六法」（1,000円台）を一冊ご用意ください。

◆成績評価方法

第11回に実施する筆記試験によって評価します。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、経済学部専門教育科目として卒業単位に含むことができる科目です。

科目	哲学（専門）	2単位
担当	講師 西川耕平 / 講師 岡嶋隆佑	

文学部専門教育科目「哲学（専門）」（93頁）を参照してください。

科目	哲学史	2単位
担当	講師 田子山和歌子 / 講師 内山真莉子	

文学部専門教育科目「哲学史」（93頁）を参照してください。

科目	社会学（専門）	2単位
担当	文学部教授 岡原正幸 / 講師 澤田唯人	

文学部専門教育科目「社会学（専門）」（94頁）を参照してください。

科目	社会心理学特殊	2単位
担当	講師 呉 正培	

文学部専門教育科目「社会心理学特殊」（95頁）を参照してください。

科目	図書館・情報学	2単位
担当	文学部教授 根本 彰	

文学部専門教育科目「図書館・情報学」（97頁）を参照してください。

科目	日本史概説	2単位
担当	文学部教授 中島圭一	

文学部専門教育科目「日本史概説」（98頁）を参照してください。

科目	西洋史概説	2単位
担当	文学部教授 神崎忠昭	

文学部専門教育科目「西洋史概説」（99頁）を参照してください。

科目	憲法	2単位
担当	講師 岡田順太	

法学部専門教育科目「憲法」（118頁）を参照してください。

科目	会社法	2単位
担当	講師 来住野 究	

法学部専門教育科目「会社法」（118頁）を参照してください。

科目	民法	2単位
担当	法学部教授 水津太郎 / 講師 茂木明奈	

法学部専門教育科目「民法」（118頁）を参照してください。

科目 刑法 2単位**担当** 法学部専任講師 藪中 悠

法学部専門教育科目「刑法」(119頁)を参照してください。

科目 破産法 2単位**担当** 講師 河村好彦

法学部専門教育科目「破産法」(121頁)を参照してください。

科目 経済法 2単位**担当** 講師 隅田浩司

法学部専門教育科目「経済法」(121頁)を参照してください。

科目 行政法 2単位**担当** 法学部准教授 青木淳一

法学部専門教育科目「行政法」(122頁)を参照してください。

科目 法制史 2単位**担当** 講師 原 禎嗣

法学部専門教育科目「法制史」(122頁)を参照してください。

科目 法制史特殊 2単位**担当** 講師 児玉圭司

法学部専門教育科目「法制史特殊」(123頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位**担当** 法学部教授 竹ノ下弘久

法学部専門教育科目「社会学特殊」(123頁)を参照してください。

科目 マス・コミュニケーション論 2単位**担当** 法学部教授 大石 裕
メディア・コミュニケーション研究所准教授 山腰修三

法学部専門教育科目「マス・コミュニケーション論」(124頁)を参照してください。

科目 政治思想論 2単位**担当** 法学部教授 萩原能久 / 講師 古田拓也

法学部専門教育科目「政治思想論」(124頁)を参照してください。

科目 国際政治論 2単位**担当** 法学部教授 細谷雄一

法学部専門教育科目「国際政治論」(124頁)を参照してください。

科目 政治理論 2単位**担当** 講師 慶 済姫

法学部専門教育科目「政治理論」(125頁)を参照してください。

科目 政治過程論 2単位**担当** 講師 金 宗郁

法学部専門教育科目「政治過程論」(125頁)を参照してください。

科目 日本政治史 2単位**担当** 法学部教授 玉井 清

法学部専門教育科目「日本政治史」(126頁)を参照してください。

科目 日本政治論 2単位**担当** 講師 小田義幸

法学部専門教育科目「日本政治論」(126頁)を参照してください。

4 法学部専門教育科目

科目 憲法

2単位

担当 講師 岡田順太

日本国憲法の諸論点を明確にし、典型的な解釈論から立法論（改憲論）まで、最先端の憲法論を展開したい。具体的には、次の論点を予定している。

- 〔第1回〕 イントロダクション・憲法の基本原理
- 〔第2回〕 人権総論（享有主体性・私人間効力）
- 〔第3回〕 消極的権利（1）
- 〔第4回〕 消極的権利（2）
- 〔第5回〕 積極的権利（受益権・社会権）
- 〔第6回〕 能動的権利／複合的権利
- 〔第7回〕 天皇
- 〔第8回〕 国会／内閣
- 〔第9回〕 裁判所
- 〔第10回〕 財政／地方自治
- 〔第11回〕 安全保障
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・駒村圭吾『プレステップ憲法〔第2版〕』（弘文堂、2018年）

◆参考文献

必要に応じて授業内で指示する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特別な予習は必要ないが、毎回出席して、克明にノートを取り、思考を廻らせてほしい。また、『六法』（判例要旨付のものが望ましい）を毎回携行してほしい。具体例を挙げ平明に講義するつもりである。

◆成績評価方法

最終日の試験による。8割以上の出席を試験受験資格とし、採点は寛大に行う。

科目 会社法

2単位

担当 講師 来住野 究

平成17年の大改正により、会社法は商法から抽出され、商法特例法等の特別法と統合されて独立した法律となった。条文が平仮名口語体に改められるとともに、内容も抜本的・全面的に改められた。新会社法は、会社の種類の再編・資本制度の変容など、理念・体系の大幅な転換を図った部分もあるが、改められた法規制の中には、法制審議会会社法部会の意向とは無関係に法務省の立案担当者が独断専行したところが少なくないため、問題点も多い。そこで、必要に応じて旧商法と対比させながら、会社法の全体像と基本理念を概観するとともに、重要な法制度や話題性のある論点をいくつか取り上げて検討することにより、諸制度の体系的な理解と考え方の養成を目指す。

- 〔第1回〕 I 会社法概説①
 1. 会社法の利害関係人と会社法
 2. 会社法制定の経緯と特色
- 〔第2回〕 I 会社法概説②
 3. 会社の意義
 4. 会社の法人性

5. 会社の商人性

6. 会社の種類

〔第3回〕 I 会社法概説③

7. 株式会社の特色①

〔第4回〕 I 会社法概説④

7. 株式会社の特色②

〔第5回〕 I 会社法概説⑤

7. 株式会社の特色③

〔第6回〕 I 会社法概説⑥

8. 持分会社の特色

〔第7回〕 II 会社法の論点①

〔第8回〕 II 会社法の論点②

〔第9回〕 II 会社法の論点③

〔第10回〕 II 会社法の論点④

〔第11回〕 II 会社法の論点⑤

〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・宮島司『新会社法エッセンス〔第4版補正版〕』（弘文堂、2015年）（市販書採用科目「会社法（E）（J）」テキスト）

概説書は平成26年改正法に対応しているものが望ましい。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

民法の基礎知識があることを前提として講義を進める。

時間の関係上授業中に逐一条文を確認することはできないが、各自六法（最新版）を持参し、必要に応じて条文を確認すること。

◆成績評価方法

試験の成績により評価する。

科目 民法

2単位

担当 法学部教授 水津太郎 / 講師 茂木明奈

本講義では、民法財産法の基礎的な知識を習得するとともに、法的問題の発見とその解決の仕方を学ぶことを目的とします。

民法財産法は大きく分けると、契約・所有・不法行為の3つの領域に区別されます。民法典のなかでこれらを定めているのは、第1編から第3編まで、つまり総則・物権・債権です。

本講義は、民法財産法の全体をカバーするものです。平成29年民法改正についても学びます。もっとも、時間の制約がありますので、とりわけ重要な概念・制度・ルールを中心に解説します。また、教育効果を高めるために、民法典の編別には従わずに、問題となる領域ごとに講義をすすめます。具体的には次のとおりです。

〔第1回〕 民法の基礎

〔第2回〕 契約①：契約法総論

〔第3回〕 契約②：契約の成立

〔第4回〕 契約③：契約違反に対する救済

- 〔第5回〕 契約④：契約の終了
- 〔第6回〕 不法行為
- 〔第7回〕 所有①：物権法総論
- 〔第8回〕 所有②：物権変動I
- 〔第9回〕 所有③：物権変動II
- 〔第10回〕 担保①：担保物権総論
- 〔第11回〕 担保②：担保物権各論
- 〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

平成29年民法改正に対応した民法全体を学べる教科書として、

- ・松尾弘『民法の体系〔第6版〕』（慶應義塾大学出版会、2016年）。
- ・道垣内弘人『リーガルベシス民法入門〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2017年）。
- ・潮見佳男『民法（全）』（有斐閣、2017年）。

平成29年民法改正の解説として、

- ・山本敬三『民法の基礎から学ぶ民法改正』（岩波書店、2017年）。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

六法（小型のものでよい）を毎回かならず持参してきてください。

本講義を受講するための前提条件はとくにありません。もっとも、参考文献について目を通しておくと、講義の理解がすすみます。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 刑法

2単位

担当 法学部専任講師 数中 悠

本年度の夏期スクーリングでは、刑法総論の講義を行います。

現行の刑法典（明治40年法律第45号）には、殺人罪、窃盗罪、放火罪等のいろいろな犯罪が規定されていますが、「刑法総論」は、それらに共通する犯罪の一般的な成立要件（因果関係や故意、正当防衛、共犯といった各犯罪に共通して問題となる内容）を研究の対象としています（これに対して「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪等の個別の犯罪の成立要件を明らかにすることを目的としています）。

本講義では、テキストに即して刑法総論の基本的な内容や主要な争点の議論の状況、判例の立場について理解することを目指します。また、適宜、刑法の学習（レポートの作成等を含む）に取り組む際に必要な情報の収集の仕方や利用方法についても言及する予定です。

- 〔第1回〕 刑法を学ぶということ、刑法は何のためにあるのか
- 〔第2回〕 刑法の基本原則、刑罰法規の解釈と適用
- 〔第3回〕 犯罪論の基本的考え方、構成要件をめぐって
- 〔第4回〕 未遂犯と既遂犯①—主に因果関係
- 〔第5回〕 未遂犯と既遂犯②—主に未遂犯の成立要件
- 〔第6回〕 故意と錯誤

- 〔第7回〕 違法性とその阻却①—主に正当行為・被害者の同意
- 〔第8回〕 違法性とその阻却②—主に正当防衛
- 〔第9回〕 責任とその阻却
- 〔第10回〕 正犯と共犯①—主に共犯の処罰根拠、諸類型
- 〔第11回〕 正犯と共犯②—主に共同正犯
- 〔第12回〕 総括、試験

◆テキスト

- ・井田良『入門刑法学・総論』（有斐閣、2013年）
- ・十河太郎・豊田兼彦・松尾誠紀・森永真綱『刑法総論判例50！』（有斐閣、2016年）

◆参考文献

- ・井田良『講義刑法学・総論』（有斐閣、2008年）
- ・山口厚『刑法』（有斐閣、2015年）
- ・井田良・城下裕二『刑法総論判例インデックス』（商事法務、2011年）
- ・山口厚・佐伯仁志（編）『刑法判例百選I 総論〔第7版〕』（有斐閣、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義には、小型のもので構わないので、六法を必ず持参してください。

また、開講前に予習として、①井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第6版〕』（有斐閣、2017年）の第10章～第16章、②山口厚『刑法入門（岩波新書）』（岩波書店、2008年）、③乃南アサ・園田寿『犯意（新潮文庫）』（新潮社、2011年）の少なくとも1つには目を通しておいてください。

◆成績評価方法

成績は、最終日に実施する試験及び平常点により評価します。

科目 医事法

2単位

担当 講師 神馬幸一

この講義は、医療に関する法的・倫理的・社会的問題を解説するものです。具体的には、次のような内容を予定しています。

- 〔第1回〕 医事法とは何か？
- 〔第2回〕 医療事故を巡る法的問題（1）
- 〔第3回〕 医療事故を巡る法的問題（2）
- 〔第4回〕 医療安全対策に関する最近の動向
- 〔第5回〕 インフォームド・コンセントの法理
- 〔第6回〕 医療情報の保護
- 〔第7回〕 人工妊娠中絶
- 〔第8回〕 生殖補助技術
- 〔第9回〕 終末期医療（1）
- 〔第10回〕 終末期医療（2）
- 〔第11回〕 終末期医療（3）
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・甲斐克則・手嶋豊（編）『医事法判例百選（第2版）』（有斐閣、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

医事法は、公法、民事法、刑事法の幅広い知識を前

提とする学際的領域です。従って、本講義を受講するに際しても、公法、民事法、刑事法に関する基礎的知識を有していることが望ましいものと思われます（但し、講義中においては、可能な限り、関連する必要最低限の基礎的知識を解説する予定です）。

◆成績評価方法

講義期間中に実施予定の「総括（論述テスト）」により、成績評価を行います。詳細は、第1日目における講義の冒頭で説明します。

科目 刑事政策学

2単位

担当 講師 尾崎万帆子

本講義は、刑事政策における諸論点について、刑事政策の原則、刑事制裁論、犯罪者処遇論、被害者支援論などを取り上げ解説します。

講義では従来の刑事政策における論点のみならず、近時の新しい制度、論点についても盛り込んでいく予定です。具体的には、次の日程での講義を予定しています。

- 〔第1回〕 刑事政策の基本理念と基本原則
- 〔第2回〕 施設内処遇（自由刑／矯正処遇）
- 〔第3回〕 社会内処遇（仮釈放／保護観察）
- 〔第4回〕 ダイバージョン（起訴猶予／執行猶予／刑の一部執行猶予）
- 〔第5回〕 財産刑／死刑
- 〔第6回〕 少年非行
- 〔第7回〕 司法と福祉の連携（特に少年司法と児童福祉）
- 〔第8回〕 犯罪被害者の実情と支援
- 〔第9回〕 犯罪被害者の権利と法的地位
- 〔第10回〕 性犯罪・被害
- 〔第11回〕 ドメスティック・バイオレンス
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・守山正・安部哲夫（編著）『ビギナーズ刑事政策（第3版）』（成文堂、2017年）（市販書採用科目「刑事政策学」テキスト）

◆参考文献

- ・朴元奎＝太田達也編著『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年）
- ・井田良＝太田達也編著『いま死刑制度を考える』（慶應義塾大学出版会、2014年）
- ・太田達也『刑の一部執行猶予一犯罪者の改善更生と再犯防止』（慶應義塾出版会、2014年）
- ・女性犯罪研究会『性犯罪・被害一性犯罪規定の見直しに向けて』（尚学社、2014年）
- ・法務総合研究所『平成29年度犯罪白書』（法務省、2017年）
- ・国家公安委員会・警察庁『平成30年度版犯罪被害者白書』（2018年近刊）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

現代社会に生起するさまざまな犯罪に対する法的対応の検討を通じて、政策論的手法と思考能力を養っていただきたいと思います。

◆成績評価方法

最終日の試験により、成績評価を行います。

科目 刑事訴訟法

2単位

担当 講師 丸橋昌太郎

本講義は、下記のスケジュールで、刑事訴訟法のうち、犯罪捜査、公判審理を規律する法を中心に扱う。受講生の多くは、捜査と言えば、刑事ドラマか、テレビ報道で見られるような不当な捜査を思い浮かべるであろう。しかし、現実の捜査は、刑事ドラマのように派手で単純ではなく、また、テレビ報道で取り上げられるような不当な捜査ばかりではない。

受講生には、本講義を通じて、刑事訴訟法の基礎を身につけるとともに、刑事司法が果たすべき役割を多角的に考えられるようになってもらいたい。

- 〔第1回〕 刑事手続の基礎
- 〔第2回〕 任意捜査と強制捜査（1）
- 〔第3回〕 任意捜査と強制捜査（2）
- 〔第4回〕 強制捜査（1）一逮捕・勾留
- 〔第5回〕 強制捜査（2）一捜索・押収
- 〔第6回〕 被疑者の防御活動
- 〔第7回〕 公判の構造と基本原則
- 〔第8回〕 公訴の基本原則
- 〔第9回〕 訴因と公訴事実
- 〔第10回〕 証拠法（1）一総説、自白法則
- 〔第11回〕 証拠法（2）一伝聞法則
- 〔第12回〕 総括
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキストについて

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・富永晃一ほか『ケースで学ぶ 実践への法学入門』（中央経済社、2016年、2160円、ISBN978-4502185212）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

法学の基礎（法的三段論法等）は身につけていることを前提とする。もし自信がない受講生は、参考文献に掲げた『実践への法学入門』を一読することをお勧めする。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 民事訴訟法

2単位

担当 大学院法務研究科教授 芳賀雅顕

民事訴訟法のうち、訴え提起から第一審判決に至るまでと、判決によらない訴訟の終了原因を扱う。講義予定は以下のとおりであるが、進度により変更する可能性がある。

- 〔第1回〕 民事紛争処理の全体像
- 〔第2回〕 裁判所および当事者
- 〔第3回〕 訴訟要件
- 〔第4回〕 訴えの提起
- 〔第5回〕 口頭弁論
- 〔第6回〕 弁論主義
- 〔第7回〕 証拠調べ手続
- 〔第8回〕 自由心証主義、証明責任
- 〔第9回〕 判決（その1）

- 〔第10回〕 判決（その2）
 〔第11回〕 判決によらない訴訟の終了
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・中野貞一郎『民事裁判入門〔第3版補訂版〕』（有斐閣、2012年）、ISBN 978-4-641-13623-6

◆参考文献

- ・三木浩一・笠井正俊・垣内秀介・菱田雄郷『民事訴訟法〔第2版〕』（有斐閣、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

最新版の六法を必ず持参すること。また、講義は、民法に関する基礎的な知識を有していることを前提に進めていく。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 破産法

2単位

担当 講師 河村好彦

ある者が経済的に破綻した場合にこれを放置しておくと、債務者に弁済を強要した冷たい（？）債権者は自己の債権の満足を受けることができるのに対し、債務者に同情してその自発的な弁済を待っていた優しい（？）債権者は債権満足の機会を失うという不公平が生じる。また債務者としても自己の破綻状態を隠して経済活動が続けるとときには経済的再起がますます困難になるし、さらには取引先、従業員その他の社会に与える影響も増大する。そこでこのような場合に対立するさまざまな利益を調整して適切な処置をとることを目的とする法体系が必要となる。これが倒産法である。破産法は、倒産法のうちのもっとも基本となる法律である。

実体法上の権利および法律関係は、破産手続きにおいてダイナミックな変容を受ける。学生諸君は、先取特権、抵当権などの担保物権、また売買、賃貸借などの契約や連帯債務、保証債務などの債権関係が破産によりどのような影響を受けるかを学習する。したがって破産法を理解するためには民法の理解が不可欠の前提となるとともに、学生諸君は破産法の学習により実体法上の権利および法律関係についてのより深い理解が得られることになるであろう。本講義は以上のような実体法の変容についての検討に重点をおいた破産手続き全般の概説をその目的とする。

- 〔第1回〕 破産法と倒産法；倒産と破産、各種の倒産処理手続き
 〔第2回〕 破産手続きの開始
 〔第3回〕 破産手続きの機関、破産者のプラス財産の確定（その1）；破産財団
 〔第4回〕 破産者のプラス財産の確定（その2）；破産財団の管理および換価、否認権
 〔第5回〕 破産者のプラス財産の確定（その3）続・否認権
 〔第6回〕 破産者のマイナス財産の確定（その1）；破産債権、財団債権、取戻権など
 〔第7回〕 破産者のマイナス財産の確定（その2）；別除権、相殺権など
 〔第8回〕 破産者をめぐる法律関係の処理（その1）；

破産手続開始決定前からの契約などの処理
 〔第9回〕 破産者をめぐる法律関係の処理（その2）；続・破産手続開始決定前からの契約などの処理

- 〔第10回〕 破産者をめぐる法律関係の処理（その3）；係属中の民事訴訟、民事執行その他の手続きの処理、破産手続開始決定後の破産者の行為
 〔第11回〕 破産手続きの終了；配当など
 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・徳田和幸『プレッパ破産法（第6版）』（弘文堂、2015年）
 ・三上威彦『倒産法』（信山社、2017年）
 ・伊藤 眞『破産法・民事再生法（第3版）』（有斐閣、2014年）
 ・伊藤 眞ほか『条解破産法（第2版）』（弘文堂、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義には必ず六法（小型のものでよい）を持参すること。なお、試験では判例・解説なし六法のみ持込可とする。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 経済法

2単位

担当 講師 隅田浩司

本講義は、独占禁止法を中心とする経済法（競争法）の重要論点を、具体的な事件（判決、及び公正取引委員会の審決など）を素材とし、ケーススタディ形式で解説する。本講義の目的は、独占禁止法、下請法、そしてエネルギー、情報通信といった経済法関連領域における競争政策関連の法律について、その現在の議論の状況を理解するとともに、経済法の基本的な考え方、理論的な枠組みについての知識を提供することにある。講義で中心的に取り扱うことになるのは、独占禁止法となる。不当な取引制限、私的独占、不公正な取引方法、そして企業結合規制について、最新事例も紹介しつつ、重要論点を中心に解説を行う。また、公正取引委員会を中心とする独占禁止法違反行為の調査及び不服審査（審決取消訴訟）、及び民事訴訟や刑事罰などについても併せて検討する。また、経済法は、その科目の性質上、米国反トラスト法や欧州競争法など諸外国の法規制との比較や、国際的な執行協力も盛んであり、この講義でも、講義に関連する限りにおいて、諸外国の法規制についても言及する場合がある。

- 〔第1回〕 経済法への招待（経済法の基礎概念及び、競争政策の基本的な考え方について解説）
 〔第2回〕 不当な取引制限（談合、カルテル等不当な取引制限の主要事例について解説）
 〔第3回〕 不当な取引制限と課徴金、刑事罰（不当な取引制限に違反した事業者に対する課徴金納付命令、刑事罰などについて解説）
 〔第4回〕 排除型私的独占（競争者などの排除を中心

- とする排除型私的独占について解説)
- 〔第5回〕 排除型私的独占、支配型私的独占（排除型私的独占の事例研究とともに、支配型私的独占について解説）
- 〔第6回〕 不公正な取引方法の基本構造（不公正な取引方法の基本構造の理解と過去の事例分析）
- 〔第7回〕 不公正な取引方法の事例研究（主として一般指定を中心として、過去の事例分析）
- 〔第8回〕 不公正な取引方法と課徴金（課徴金納付命令の対象となる不公正な取引方法について解説）
- 〔第9回〕 企業結合規制（企業結合審査の基本的なフレームワークについて解説）
- 〔第10回〕 企業結合審査の事例分析（過去の企業結合規制について解説）
- 〔第11回〕 知的財産権と独占禁止法および、独占禁止法のエンフォースメント（公正取引委員会の手続き及び不服審査）
- 〔第12回〕 独占禁止法のエンフォースメント（差止請求訴訟、民事訴訟および刑事事件に関する論点の整理）および期末試験と総括講義

◆テキスト

- ・金井貴嗣（編集）、泉水文雄（編集）、武田邦宣（編集）『経済法判例・審決百選 第2版（別冊Jurist）』（有斐閣、2017年）、ISBN 978-4641115347

◆参考文献

参考文献は、多岐にわたるため、適宜、講義中に指示する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特段、受講上の前提条件なし。

◆成績評価方法

原則として、最終日に行う試験の成績によって評価する。ただし、講義への積極的な参加（講師からの質問に対する積極的な発言など）があれば、プラス加点する。

科目 行政法

2単位

担当 法学部准教授 青木淳一

行政法は、国や地方公共団体という行政活動の主体が当事者として登場する法律問題を考察対象とする。私たちの日常生活を見渡せば、実に多種多様な行政活動が関わっていることが容易にわかるだろう。各種の公的手続に必要な住民票は市町村が管理している。自動車を運転するには都道府県の公安委員会が発行する免許が必要である。普段利用する鉄道の運賃は国（国土交通大臣）の認可を受けたものである。行政法は、このように国や地方公共団体が広く、深く関わる社会システムの存在理由、構造と機能を法的な視点から議論し、行政と国民の関係を考えるのである。

授業では、主に次の3つの観点から、行政法のエッセンスを講義する。第一に、行政活動には具体的にどのようなものがあり、その法的な仕組み、特徴はなにか。第二に、それらの行政活動は、いかなる場合に違法となるか。第三に、行政活動によって権利が侵害さ

れたり、財産上の損害をこうむった国民は、どのような手続を通じて自己の権利や利益を回復することができるか。

なお、この授業は、行政法の体系を構成する三本柱である行政組織法、行政作用法、行政救済法のうち、とりわけ行政作用法、行政救済法を扱うこととなる。

〔第1回〕 行政法学ことはじめ

〔第2回〕 行政活動の法的仕組み（1）

〔第3回〕 行政活動の法的仕組み（2）

〔第4回〕 行政活動の法的仕組み（3）

〔第5回〕 行政法の基本原理

〔第6回〕 行政裁量

〔第7回〕 行政手続

〔第8回〕 行政上の不服申立て

〔第9回〕 行政訴訟（1）

〔第10回〕 行政訴訟（2）

〔第11回〕 国家賠償・損失補償

〔第12回〕 試験及び総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・櫻井敬子・橋本博之『行政法（第5版）』（弘文堂、2016年）
- ・橋本博之『行政判例ノート（第3版）』（弘文堂、2013年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

憲法（人権・統治）及び民法（総則、物権、債権）をすでに履修しているか、現在学習中であることが望ましい。

なお、最新年版の『六法』（出版社は問わない）は必携である。

◆成績評価方法

中間テスト（期間中2回実施）及び最終テスト（最終日実施）の結果に基づき評価する。

科目 法制史

2単位

担当 講師 原 禎嗣

日本近代法制史に関する概論的講義を行う。

我が国は、過去に何回か大規模な外国法継受を経験した。そこには、他国の法制度を受け入れることで、自国の法や社会を進歩に導くという内政上の要求を満たすことは勿論だが、母法と共通する文化的基盤を有する「先進国」として振る舞い、その国との外交関係の維持発展に繋げたいとの思惑も確かに存在した。

本講義では、近世末期に我が国が経験した西洋法との接触から、既存の東洋的法文化との相剋、西洋的近代法体制の樹立までを概観する。具体的には、江戸時代後期の法制度を概説した後、明治初年から新政府によってなされた制度の改変や立法例を読み解き、我が国の歴史上最大規模の法継受の跡を辿りたい。

明治の立法事業は、治安維持と治外法権撤廃というふたつの目的のため、刑事法分野が最も先行した。その後、基本法たる憲法、関税自主権との関連で整備が急がれたものの、曲折を経て最後に完成した民事法という順番で進んだ。そこで本講義においてもこの順番で論を進め、それぞれ立法における継受のかたち、何

を受け入れ、何を受け入れなかったのかについても考察を加えたい。

思うに、明治維新という政変を境に、我が国の社会は大きな変化を遂げたように見える。法制度についても同様であり、少なくとも維新後、江戸期の法は悉く廃され西洋風の法体系に取って代わられた。しかしながら、社会を統べるルールは一朝にして改変しうるものではない。新たな法の背景に見え隠れする前時代的なもの、言い換えるならば「法感覚」「法意識」といった日本の特性が、制度の大規模な変革を乗り越えて繋がっている、と考えるほうがより自然であることが多い。そしてそれら特性の検討からは、法制史学のみならず、現行法の解釈、運用にあたっても重要な示唆を得ることができる。と考える。

〔第1回〕 受講上の諸注意

〔第2回〕 江戸期幕府法制の概観（基本法）

〔第3回〕 江戸期幕府法制の概観（刑事・民事法）

〔第4回〕 明治の国家体制の変遷

〔第5回〕 刑法の編纂（仮刑律・新律綱領）

〔第6回〕 刑法の編纂（改定律例・旧刑法）

〔第7回〕 刑事訴訟法の編纂

〔第8回〕 憲法の編纂（憲法思想）

〔第9回〕 憲法の編纂（編纂過程）

〔第10回〕 民法の編纂

〔第11回〕 復習

〔第12回〕 総括

◆テキスト

・霞信彦・原禎嗣他『日本法制史Ⅱ—中世・近世・近代—』（通信テキスト、2012年）

・霞信彦・原禎嗣他『日本法制史講義ノート〔第2版〕』（慶應義塾大学出版会、2012年）、ISBN 978-4-7664-1986-3

◆参考文献

・霞信彦他『日本法制史史料集』（慶應義塾大学出版会、2003年）〔品切〕

・霞信彦『矩を踰えて明治法制史断章』（慶應義塾大学出版会、2007年）

その他、参考となる文献は講義中適宜紹介する。

◆成績評価方法

最終日に筆記試験を実施する。

科目 法制史特殊

2単位

担当 講師 児玉圭司

現在、私たちが扱っている法学は、西洋法と共通の原則・構造を有していますが、これらは明治期以降に導入されたものです。江戸時代までの日本には、当然ながら伝統法が存在していましたが、現在の法には一見して当時との連続性をみてとることができません。

では、なぜ日本は西洋法を継受せねばならなかったのでしょうか。また、伝統法から西洋法への切り替えはどのような形で行われていったのでしょうか。本講義では、明治期における司法の近代化（西洋化）をテーマとして、日本が西洋の法制度を取り入れることになった背景とその過程について、資料・史料を用いながら概観してみたいと思います。

講義では以下の内容を扱う予定ですが、一部変更す

る可能性があります。

〔第1回〕 ガイダンス——基礎法学としての法制史

〔第2回〕 西洋との出会い——不平等条約の締結

〔第3回〕 「文明国」を目指して——不平等条約の解消に向けて

〔第4回〕 明治前期の国家機構

〔第5回〕 司法制度の整備——司法権の“独立”

〔第6回〕 明治初期の刑法典

〔第7回〕 刑法典の近代化（西洋化）

〔第8回〕 明治前期の法学教育と法運用

〔第9回〕 「憲法」をめぐる動き

〔第10回〕 民法典の編纂—民法典論争を中心に

〔第11回〕 総括

〔第12回〕 西洋法継受の一側面——日本に「監獄」は誕生したか？

なお、講義は指定されたテキストのうち近代の部分を利用するほか、必要に応じてレジュメや資料プリントを配布し、活用します。

◆テキスト

・霞信彦ほか『日本法制史Ⅱ—中世・近世・近代—』（通信テキスト、2012年）

◆参考文献

・浅古弘ほか編『日本法制史』（青林書院、2010年）

・川口由彦『日本近代法制史 第2版』（新世社、2015年）

このほか、講義の中で随時、参考文献をご紹介します。

◆学生に対する受講上の要望または受講上の前提条件
特にありません。

◆成績評価方法

第11回に実施する筆記試験によって評価します。

科目 社会学特殊

2単位

担当 法学部教授 竹ノ下弘久

この授業では、現代社会で重要な経済的、政治的争点となっている格差・不平等問題について、社会学の視点からそれらの考え方や理論について検討します。戦後の日本社会において、格差・不平等と不平等に対する人々の捉え方はどのように変化してきたのか。戦後の日本社会を中心とする階層構造の変化から、近年の格差不平等の状況とそれらをとりまく社会の動向について、授業では考察します。

〔第1回〕 社会階層についての捉え方

〔第2回〕 産業化と社会階層

〔第3回〕 高度経済成長と1億総中流

〔第4回〕 戦後日本の福祉レジームと再分配

〔第5回〕 家族的背景と教育機会の不平等

〔第6回〕 教育制度と教育の不平等

〔第7回〕 日本的雇用慣行における内部労働市場と分断労働市場

〔第8回〕 労働市場の柔軟化と非正規雇用の増大

〔第9回〕 非正規雇用、ひとり親家族、貧困

〔第10回〕 グローバル化と非正規雇用

〔第11回〕 近年の福祉レジームの動向と格差・不平等

〔第12回〕 総括

◆テキスト

指定しない。

◆参考文献

- ・竹ノ下弘久『仕事と不平等の社会学』弘文堂、2013年、1400円、ISBN4335501366

◆受講上の要望または受講上の前提条件

本授業のテーマにかかわるビデオやドキュメンタリーの視聴後、討論の時間を設けますので、周囲の人との討論に積極的に参加してください。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 マス・コミュニケーション論 2単位

担当 法学部教授 大石 裕
メディア・コミュニケーション研究所准教授 山腰修三

マス・コミュニケーションとジャーナリズムの政治的・社会的影響に関して講義する。

- 〔第1回〕 コミュニケーション、マス・コミュニケーション、ジャーナリズムのとらえ方
- 〔第2回〕 ジャーナリズムと権力（1）
- 〔第3回〕 ジャーナリズムと権力（2）
- 〔第4回〕 ジャーナリズムと権力（3）
- 〔第5回〕 ニュースの物語（1）
- 〔第6回〕 ニュースの物語（2）
- 〔第7回〕 メディア・フレームと社会運動
- 〔第8回〕 メディアの中の政治（1）：水俣病
- 〔第9回〕 メディアの中の政治（2）：沖縄基地問題
- 〔第10回〕 メディアの中の政治（3）：世論調査
- 〔第11回〕 まとめ、質疑応答
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・大石裕『メディアの中の政治』（勁草書房、2014年）、ISBN 978-4-326-30227-7

◆参考文献

- ・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』（勁草書房、2005年）
- ・大石裕編著『戦後日本のメディアと市民意識』（ミネルヴァ書房、2012年）
- ・大石裕『批判する／批判されるジャーナリズム』（慶應義塾大学出版会、2017年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義内容は一見すると難解に見えますが、マス・コミュニケーションやジャーナリズムの実態を踏まえながら、できるだけわかりやすく講義を行うつもりです。受講者は、ニュースにできるだけ問題意識をもって接するようにしてください。逐次、時事問題解説も行う予定です。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 政治思想論 2単位

担当 法学部教授 萩原能久 / 講師 古田拓也

政治の世界、中でも価値にかかわる世界は対立に満ちています。この講義で学ぶのは、そういった対立が

真剣なものであるということ、容易に解消しがたいということ、そしてここが重要なのですが、歴史に名を残すほど頭の良かった人々が、驚くほど相容れない見解を有していたということです。実は、アイザイア・バーリンという政治思想家が述べたことなのですが、まさにこの対立が解消しようもないという点に政治理論の特徴があります。本講義では、具体的な思想家を通史的に取り上げてゆくことで、今日も存在している諸価値の対立の「根深さ」を明らかにしたいと思っています。

〔第1回〕 イントロダクション 政治思想を学ぶ意義（上）

〔第2回〕 イントロダクション 政治思想を学ぶ意義（下）

〔第3回〕 古代ギリシャ デモクラシー、プラトン、アリストテレス

〔第4回〕 古代ローマ レトリック、キリスト教

〔第5回〕 ルネサンス マキャヴェリを中心に

〔第6回〕 十七世紀 契約説の興隆

〔第7回〕 アンシャン・レジームから大西洋革命 啓蒙、ルソー、バークなど（上）

〔第8回〕 アンシャン・レジームから大西洋革命 啓蒙、ルソー、バークなど（下）

〔第9回〕 十九世紀 功利主義

〔第10回〕 二十世紀 リベラリズム、反リベラリズム

〔第11回〕 試験および質疑応答

〔第12回〕 全体の復習・総括

◆テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

◆参考文献

- ・川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史——視座と論点』（岩波書店、2012年）
- ・中谷猛・足立幸男（編）『概説 西洋政治思想史』（ミネルヴァ書房、1994年）
- ・佐々木毅・杉田敦・鷲見誠一『西洋政治思想史』（北樹出版、1995年）
- ・宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2014年）
- ・山岡龍一『西洋政治理論の伝統』（放送大学教育振興会、2003年）
- ・杉田敦・川崎修（編）『西洋政治思想資料集』（法政大学出版局、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

とくになし。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 国際政治論 2単位

担当 法学部教授 細谷雄一

21世紀の現在、世界は激動の中にある。流動的な国際政治をより深く理解するためには、体系的な国際政治についての学習が不可欠となる。この授業では、国際政治論の概要を学ぶことを目的として、その基礎概念、国際社会の構造、そして現代の課題を学んでいく。また、国際政治の理論や歴史を学ぶだけではなく、それを現実動きつつある国際情勢と結びつけて講義を進めることになる。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 世界をどう見るか
- 〔第3回〕 国際政治学の発展
- 〔第4回〕 国際社会の成立
- 〔第5回〕 戦争と平和
- 〔第6回〕 国際安全保障
- 〔第7回〕 国際政治経済
- 〔第8回〕 国際機構
- 〔第9回〕 ナショナリズム・宗教・文明
- 〔第10回〕 リージョナリズムとグローバリズム
- 〔第11回〕 日本外交の行方
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

・村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ 新版』（有斐閣、2015年）

◆参考文献

・高坂正堯『国際政治（改版）』（中央公論新社、2017年）
 ・細谷雄一『国際秩序』（中央公論新社、2012年）

◆成績評価方法

最終日の科目試験による。

科目 政治理論

2単位

担当 講師 慶 済姫

政治学は基本的に権力に関する学問ともいえます。本講義の目的は、権力を中心にする政治学を理解するために、基礎的な政治理論とその政治理論を活用した実例を概観することにあります。講義では、現在民主主義の権力の元である市民の意思決定をコントロールする政治意識に関する理論、有権者や政治家の政治的な決定を行う行動に関する理論およびその実例などを考察します。具体的には、以下のような計画に沿って進めます。なお、以下の講義計画は、事情によって若干の変更がある場合もあります。

- 〔第1回〕 オリエンテーション
 - － 政治と権力
 - － 政治学的主要分野
 - － 本講義の構成
- 〔第2回〕 権力とイデオロギー 1
 - － イデオロギーの概念
 - － 日本、アメリカ、韓国におけるイデオロギーの区分
 - － 自由主義の展開 1
- 〔第3回〕 権力とイデオロギー 2
 - － 自由主義の展開 2
 - － 福祉国家論
 - － 新自由主義
- 〔第4回〕 権力とイデオロギー 3
 - － 民主主義論
 - － エリート主義
 - － 多元主義
- 〔第5回〕 政治過程論 1
 - － 政治過程の構成要因
 - － 組織的アクター（政党、利益団体）と政治理論
 - － 個人的アクター（政治家、有権者）と

政治理論

- 〔第6回〕 政治過程論 2
 - － 政治家と政治（理論と実証）：テキスト
- 〔第7回〕 公共選択論 1
 - － 公共選択論の概念
 - － 合理的選択理論
 - － 選挙制度論：テキスト
- 〔第8回〕 公共選択論 2
 - － 選挙制度の実証分析：テキスト
- 〔第9回〕 公共選択論 3
 - － 投票行動の理論：テキスト
- 〔第10回〕 公共選択論 4
 - － 投票行動の実証分析：テキスト
- 〔第11回〕 地方自治 1
 - － 大都市制度の例：テキスト
- 〔第12回〕 地方自治 2
 - － 財政調整・道州制：テキスト
 - － 期末試験

◆テキスト

・小林良彰他『代議制民主主義の計量分析』（木鐸社、2016年）、ISBN9784833224994

◆参考文献

講義の中で紹介する。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 政治過程論

2単位

担当 講師 金 宗郁

政治過程論では、政治的装置や制度が「行うと考えられている」ことでなく、主に「現実に行っている」ことを研究対象にして議論される。つまり、現実の社会を分析し、どのようにすれば、望ましい社会へ先進できるかということに主眼が置かれる。そこで、本授業では国レベル（前半）と地方レベル（後半）に分けて各政治制度に関する概観とともに、それをめぐる政治過程の現状と課題について検討する。それに加えて政治過程の一つのアクターである市民に関して市民参加と協働を取り上げて最近の動向と議論を踏まえながらそれらの可能性を探る。

- 〔第1回〕 ガイダンス及び現代国家への発展過程
- 〔第2回〕 議院内閣制
- 〔第3回〕 公務員制度と改革
- 〔第4回〕 官僚行動論
- 〔第5回〕 公共政策論
- 〔第6回〕 地方自治制度
- 〔第7回〕 地方分権改革の現状と課題
- 〔第8回〕 自治体の統治構造：二元代表制の現状と課題
- 〔第9回〕 自治体の行政改革：NPM（New Public Management）
- 〔第10回〕 市民参加と熟議民主主義への挑戦
- 〔第11回〕 協働と社会関係資本
- 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・真淵勝『行政学』（有斐閣、2009年）
- ・村上弘・佐藤満『よくわかる行政学 [第2版]』（ミネルヴァ書房、2016年）
- ・金宗郁『地方分権時代の自治体官僚』（木鐸社、2009年）
- ・稲継裕昭『地方自治入門』（有斐閣コンパクト、2011年）
- ・篠原一編『討議デモクラシーの挑戦』（岩波書店、2012年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 日本政治史

2単位

担当 法学部教授 玉井 清

本授業は、日本政治史研究の現状と課題について、戦後のGHQによる占領統治下、我が国の中で醸成された歴史観に注目しながら考察を加え、現代の日本人が抱く歴史観、さらには政治社会観の淵源を探り、その特徴を浮き彫りにすることを目指している。

最初に、考察の前提として、歴史研究の意義と注意点を明らかにしたいと考えている。その上で、上記の問題意識に基づき近代の日本政治の実態を解き明かしていく。本授業は、明治から昭和戦前までの政治、軍事、社会、文化を対象とするが、とりわけ日中戦争から日米開戦を経て敗戦に至るまでの戦時下の政治あるいは社会現象に注目し、その内実の解説に重点を置く予定であり、それらの事象が戦後どのように封印、あるいは変容され語られるようになったかを検証する。

- 〔第1回〕 授業方針及び歴史研究の意義についての解説
- 〔第2回〕 歴史研究の基礎（1）現代から過去を照射する時の注意点
- 〔第3回〕 歴史研究の基礎（2）過去を内在的に理解することの重要性
- 〔第4回〕 資料（選挙ポスター）から読み解く日本政治史研究実践編（1）
- 〔第5回〕 資料（選挙ポスター）から読み解く日本政治史研究実践編（2）
- 〔第6回〕 近代日本と戦争
- 〔第7回〕 戦後日本の戦争観とその問題点
- 〔第8回〕 近代日本人の国家観と国際秩序観
- 〔第9回〕 占領統治下の言論空間
- 〔第10回〕 占領下封印された言論の内実について（1）一歌で読み解く日本精神史一
- 〔第11回〕 占領下封印された言論の内実について（2）一歌で読み解く日本精神史一
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

指定しない。関連資料のプリントを適宜配布。

◆参考文献

- ・玉井清『第一回普選と選挙ポスター』（慶應義塾大学出版会、2013年）
- ・江藤淳『閉された言語空間—占領軍の検閲と戦後日本』（文藝春秋、1994年）

- ・平野共余子『天皇と接吻』（草思社、1998年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業中の飲食私語厳禁

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 日本政治論

2単位

担当 講師 小田義幸

日本の政治をめぐる様々な言動は日々、メディアやインターネットを通じて国民に伝えられますが、断片的な政治現象を批評するだけでは日本の政治を理解したことにはなりません。日本政治を体系的に学び、歴史的視点や理論的視点から日本政治を見つめ直すことが欠かせません。本講義では、立法・行政・選挙・地方・マスメディアに焦点を当て、かつ、政治学的要素や政治史的要素を織り交ぜながら現在に至る日本政治について学んでいただき、そのダイナミズムの一端を知った上で真の理解へと受講者を導いていくつもりです。

- 〔第1回〕 オリエンテーション・日本政治をめぐる見方について考える
- 〔第2回〕 日本国憲法の誕生と憲法改正をめぐる昨今の論議
- 〔第3回〕 日本の立法過程（国会の役割と機能・与党の事前審査など）
- 〔第4回〕 日本の政党①（五十五年体制の成立・派閥の政治的機能・派閥と戦後政治）
- 〔第5回〕 日本の政党②（五十五年体制崩壊後の派閥・後援会活動とその実態）
- 〔第6回〕 日本の選挙制度（選挙制度改革と日本政治・小選挙区比例代表並立制の導入・一票の格差をめぐる問題）
- 〔第7回〕 投票行動と日本の選挙（無党派の動向と選挙結果・アナウンスメント効果）
- 〔第8回〕 日本の内閣制度とその機能強化
- 〔第9回〕 日本の官僚制・中央省庁再編とその成果
- 〔第10回〕 日本の地方政治（機関委任事務の廃止・三位一体改革の実施など）
- 〔第11回〕 マスメディアと日本政治（記者クラブ制度の功罪・テレビ報道のあり方）
- 〔第12回〕 総括・試験
- 〔その他〕 課題・レポート、小テスト

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝『政治学（補訂版）』（有斐閣、2011年）
- ・真淵勝『行政学』（有斐閣、2009年）
- ・北岡伸一『自民党 政権党の38年』（中央公論新社、2008年）
- ・竹中治堅『首相支配 日本政治の変貌』（中央公論新社、2006年）
- ・竹中治堅『参議院とは何か 1947～2010』（中央公論新社、2010年）
- ・飯尾潤『日本の統治構造 官僚内閣制から議院内閣制へ』（中央公論新社、2007年）

・中北浩爾『自民党―「一強」の実像』(中央公論新社、2017年)

※その他の文献については授業中に適宜紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件
初学者でも受講可能です。

◆成績評価方法

最終日の試験(70%) + 小テスト(30%)

※授業終了30分前、授業に関する設問に対して論述形式で解答してもらい、授業終了後に提出していただきます〔最終日を除く毎回の授業で実施予定〕。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、法学部専門教育科目として卒業単位に含むことができる科目です。

科目 哲学(専門) 2単位

担当 講師 西川耕平 / 講師 岡嶋隆佑

文学部専門教育科目「哲学(専門)」(93頁)を参照してください。

科目 倫理学(専門) 2単位

担当 文学部教授 奈良雅俊

文学部専門教育科目「倫理学」(93頁)を参照してください。

科目 社会学(専門) 2単位

担当 文学部教授 岡原正幸 / 講師 澤田唯人

文学部専門教育科目「社会学(専門)」(94頁)を参照してください。

科目 心理学(専門) 2単位

担当 文学部准教授 伊澤栄一

文学部専門教育科目「心理学(専門)」(96頁)を参照してください。

科目 図書館・情報学 2単位

担当 文学部教授 根本 彰

文学部専門教育科目「図書館・情報学」(97頁)を参照してください。

科目 経済原論 2単位

担当 講師 西 孝

経済学部専門教育科目「経済原論」(107頁)を参照してください。

科目 ゲーム理論 2単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

経済学部専門教育科目「ゲーム理論」(107頁)を参照してください。

科目 経済史 2単位

担当 講師 ドルネッティ, フィリップ

経済学部専門教育科目「経済史」(107頁)を参照してください。

科目 日本経済史 2単位

担当 講師 青木 健

経済学部専門教育科目「日本経済史」(108頁)を参照してください。

科目 社会政策 2単位

担当 講師 齋藤香里

経済学部専門教育科目「社会政策」(110頁)を参照してください。

科目 社会福祉論 2単位

担当 講師 永井攻治

経済学部専門教育科目「社会福祉論」(110頁)を参照してください。

科目 経済政策 2単位

担当 経済学部教授 藤田康範 / 講師 鄭 雨宗

経済学部専門教育科目「経済政策」(110頁)を参照してください。

科目 財政論 2単位**担当** 講師 倉地真太郎

経済学部専門教育科目「財政論」(111頁)を参照してください。

科目 金融論 2単位**担当** 講師 溝口哲郎

経済学部専門教育科目「金融論」(112頁)を参照してください。

科目 公共経済学 2単位**担当** 講師 金子 憲 / 講師 金子 光

経済学部専門教育科目「公共経済学」(112頁)を参照してください。

科目 国際経済学 2単位**担当** 講師 久野 新

経済学部専門教育科目「国際経済学」(113頁)を参照してください。

科目 国際金融論 2単位**担当** 講師 田中 巖

経済学部専門教育科目「国際金融論」(113頁)を参照してください。

科目 国際貿易論 2単位**担当** 講師 田中 巖

経済学部専門教育科目「国際貿易論」(114頁)を参照してください。

科目 世界経済論 2単位**担当** 講師 久野 新

経済学部専門教育科目「世界経済論」(114頁)を参照してください。

科目 人口論 2単位**担当** 講師 佐藤龍三郎

経済学部専門教育科目「人口論」(115頁)を参照してください。

科目 会計学 2単位**担当** 講師 高瀬 央

経済学部専門教育科目「会計学」(115頁)を参照してください。

5 教養研究センター設置講座

科目 身体知—創造的コミュニケーションと言語—

2単位

担当 法学部教授 横山千晶

本講座は、参加型・体験型の授業を通して、知力と身体感覚を相互的に磨き、言語力と非言語的コミュニケーション力の双方を育む、新しいタイプの授業です。通学生と通信教育過程の学生がともに学ぶことも大きな特徴です。今年は「伝える」というテーマに着目して、作品と他者とのコミュニケーションから得た着想を、自らの創作につなげ、さまざまな表現媒体を使ったグループ創作を行います。最終的な作品は公開の形で発表します。使う作品については履修者が決定した後で、配布いたします。

最近では声に出して読むこと自体が少なくなってきましたが、このクラスではまず朗読を通して自らの声、そして自分の身体表現を発見し、続いて「聞く」ことを経て、さまざまなメディアや発表形態を使った創作へとつなげていきます。クラスでは以下のプロセスを踏んでいきます。

1. 自分の言葉と解釈を見つける

テーマに基づいた作品を読みます。グループワークを通して議論することで、異なる意見に出会います。

2. 声に出す

続いて朗読することで、自らの声をみつける作業を行います。うまく読む必要はありません。むしろ、自分らしい「声」を見出してください。どの文章を読んでいるときに一番声が出やすいか、どの文章を読むことが好きか、読むことで解釈は変わってくるか。そして同じ文章でも他人が読むとどう解釈できるのか、を意識してみます。

3. さまざまな「身体感覚」と「表現法」を使ってみる

声の次は自分の体と表現法に注目します。違う場所で朗読すると言葉がどう異なって解釈できるか。言葉を絵にしてみるとどうか、体を使って表現してみるとどうか。パロディにしてみるとどうか。さまざまな表現の可能性を身体を通じて模索してみます。

4. 聞く、そして創作する

その次は「聞く」作業に入ります。他者の話を聞くことから、その話の新たな解釈へとつなげ、そこからグループで創作活動を行います。1～3で踏んできたプロセスを活かしてください。

5. 発表する

最終作品は創作発表会として一般に公開します。発表のあとで聴衆との意見交換を行います。発表の形態については授業の中で皆で話し合っていきます。

本授業は、参加・体験型授業で最大限の効果を上げるために、夏休みに集中講座として実施します。1日に2コマ分の授業(90分×2)を4日行った後、3コマ分の授業(90分×3)を2日行い、最終日の3コマ中、最後の2コマを成果発表会にあてます。

授業は8月13日(月)～18日(土)の6日間を予定しています。開始時間は13時とし、3限(13時～

14時30分)、4限(14時45分～16時15分)を用い、それに加えて、17日と18日は5限(16時30分～18時)も用います。

授業計画は以下の通りです。

(8月13日)

第1回 身体ワークショップ1

第2回 作品1を読む

(8月14日)

第3回 作品1の朗読とディスカッション

第4回 身体ワークショップ2

(8月15日)

第5回 作品2を読む

第6回 他者の朗読を聞いて、話し合う

(8月16日)

第7回 表現ワークショップ1

第8回 他者の話を聞く

(8月17日)

第9回 表現ワークショップ2

第10回 他者の話を基に話し合う

第11回 創作の準備をする1

(8月18日)

第12回 創作の準備をする2

第13回 プレゼンテーション

第14回 プレゼンテーション・観客との対話とクラスでの振り返り

◆テキスト

プリントを適宜配布します。

◆参考文献

随時紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

演劇などの身体表現の経験のあるなしや朗読の得意・不得意はまったく問いません。むしろ、人前で何かを表現したことのない人、そのような勇気が今までなかった人を歓迎します。授業では日本語を使って作品を読みます。

グループ・ワークが多いので、遅刻をしないようにしてください。また創作発表会の前の日と当日は準備と後片付けで5時間目以降も少し残っていただく可能性があります。

◆成績評価方法

平常点(授業への積極的な参加、課題):50%

最終成果発表会:50%

◆分類

総合教育科目 3分野科目(人文科学分野)となります。

◆募集人員

募集人数は通信教育課程生 10名(受講者総数は20名で通学課程生10名との合同授業となります。)

◆履修手続について

この授業を履修するためには別途申し込みが必要です。詳細は本書12頁を参照してください。

◆履修者の選抜について

応募者の申込理由などで審査し、教養研究センターが10名選抜します。

2018年度夏期スクーリング

受講を許可された学生には6月のはじめに通知します。

◆質問・相談

chacky@keio.jpまでどうぞ。

6 教職課程専門教育科目

教職に関する専門教育科目

科目 現代教師論

2 単位

担当 教職課程センター教授 米山光儀

この授業は、「教職課程を履修すること、教員免許状を取得すること、教師になること」の意味を考えようとするものです。したがって、この授業は主にはじめて教職課程を履修する者を対象としています。しかし、他の授業の関係で、最終学年などに履修する者を排除するものではありません。

この授業は、教育職員免許法施行規則で「教職の意義等に関する科目」と位置づけられており、その内容に「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容（研修・服務及び身分保障等を含む。）」「進路選択に資する各種の機会の提供等」を含むものとされています。しかし、その前提には教師の仕事である「教育」について理解されていることがなければなりません。そこで、この授業では、教育の原理的理解を確認するとともに、歴史的アプローチを主な方法として免許法施行規則の定める内容について理解を深めることをめざします。

- 〔第1回〕 教育の原理的理解（1）
- 〔第2回〕 教育の原理的理解（2）
- 〔第3回〕 最近の教師教育改革の動向
- 〔第4回〕 教員に何が求められてきたか—我が国戦前の初等・中等教育教員養成の歴史（1）
- 〔第5回〕 教員に何が求められてきたか—我が国戦前の初等・中等教育教員養成の歴史（2）
- 〔第6回〕 教員に何が求められてきたか—我が国戦前の初等・中等教育教員養成の歴史（3）
- 〔第7回〕 戦後教員養成の理念にみる教師像（1）
- 〔第8回〕 戦後教員養成の理念にみる教師像（2）
- 〔第9回〕 1980年代以降の免許法「改正」にみる教師像の変化（1）
- 〔第10回〕 1980年代以降の免許法「改正」にみる教師像の変化（2）
- 〔第11回〕 教師と研修—教育公務員特例法を中心に
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

指定しない。

◆参考文献

・沼野一男・松本憲・田中克佳・白石克己・米山光儀『教育の原理』第4版、学文社、2010年、2400円＋税、ISBN978-4-7620-2081-0（市販書採用科目「教育基礎論」テキスト）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業の最後に毎回、質問票の提出が求められますので、問題意識を持って授業に臨んでください。

◆成績評価方法

最終日の試験による。試験は、持ち込みは不可とします。

科目 国語科教育法

3 単位

担当 講師 中地譲治

「読む」「書く」「話す」「聞く」の実践を通して、言葉の適切な表現と正確な理解とを目指します。「よむ」は「かぞえよみあげる」ことであり、「はなす」は「てばなす」、「きく」は「からだでうけとめる」、さらには「ききかえす=とう」ことです。そこに「あとをのこす」ことである「かく」が加わると、「読む」「書く」「話す」「聞く」の言語活動が総合的に展開します。この言語活動を通して言葉に対する認識が更新され、言葉を大切にすることが自ずと表情に現れます。

教科教育法の授業では、履修者が教員になってみて、生徒にもなってみて、実際の教室と同じ体験をすることが求められます。そのためには授業は参画的でなければなりません。履修者それぞれが18回にわたる授業の参画者となって、「国語」の成り立ち、教材研究、指導方法、評価の問題等々を協働して考え、実践しましょう。話題にしたいことを挙げておきます。

- （1）「国語」とは？
- （2）学習指導要領の動向—アクティブ・ラーニングへの注目
- （3）実践に生かせる指導案づくり
- （4）言語活動としての「読む・書く・話す/聞く」
- （5）「考える」と「見る」こと—PISA型学力とは？

教育実習を前提にした模擬授業を行うこともこの授業に求められています。履修者の人数によって時間配分は変わりますが、計画—実践—反省というサイクルを二回は経験できるようにしたいと思います。模擬授業を行うために考えるべきことを挙げておきます。

- （1）「教材選択」と「教材研究」
- （2）生徒が主体になるための「言語活動」
- （3）「質問」と「発問」—問うことの意味
- （4）「形成的評価」のためのテスト問題
- （5）学びの継続性と「自己啓発」

授業計画を次に示します。講義~ラベルワーク（複写式のラベルを用いたアクティブ・ラーニング）~模擬授業が一体になって進みます。

〔1日目〕 言語行為の成り立ち—国語教育の基盤を考える

1時間目 「話す・聞く」と「読む・書く」—ラベルとラベルトーク

2時間目 発問の意味と方法—自己形成的な国語力とは

3時間目 知識創造と参画教育—ゲストを招いて

〔2日目〕 国語教育の現在—今を生きるための言葉を求める

4時間目 「生きる力」と「PISA型学力」

5時間目 「見る」ことの学力観—映像テキストに即して

- 6時間目 私の授業実践①ーゲストを招いて
- 〔3日目〕 現代文テキストに即してー論理と共感とを取り結ぶ
- 7時間目 現代文テキストでの模擬授業①
- 8時間目 現代文テキストでの模擬授業②
- 9時間目 現代文テキストでの模擬授業③
- 〔4日目〕 言語活動ー“言葉を生きる”ための身体技法
- 10時間目 言語活動の実践①
- 11時間目 言語活動の実践②
- 12時間目 私の授業実践②ーゲストを招いて
- 〔5日目〕 古典テキストに即してーこの風土に生かされる
- 13時間目 古典テキストでの模擬授業①
- 14時間目 古典テキストでの模擬授業②
- 15時間目 古典テキストでの模擬授業③
- 〔6日目〕 まとめと課題ー“経験知”を形にする
- 16時間目 この授業の自己評価項目をつくるー「ラベル図考」の共同作製
- 17時間目 “私の変容”を形にするー「学びのプロセス図解」の作製
- 18時間目 図解を論述するー「学びのプロセスレポート」「自己評価レポート」の作製

※以上は昨年度の展開ですが、本年度はゲストの都合などにより若干の変更があります。

◆テキスト

- ・オリジナルテキストを準備します。
- ・『中学校学習指導要領解説「国語編」』と『高等学校学習指導要領解説「国語編」』文部科学省 東洋館出版社（文部科学省のホームページからもダウンロードできる）を準備してください。

◆参考文献

- ・町田守弘（編）『実践国語科教育法 第二版「楽しく、力のつく」授業の創造』（学文社、2016年）
- ・林義樹（編）『ラベルワークで進める参画型教育ー学び手の発想を活かすアクティブ・ラーニングの理論・方法・実践』（ナカニシヤ出版、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

教科教育法という科目は、知識の蓄積・整理という側面と、授業実践という側面とがバランスよく配列・展開されなければなりません。したがって個人ではなく教室全体で学んでいくことになります。教室に居合わせること（スクーリング）を、豊かな協同経験＝言語経験に高めることが大切です。そのためには、授業への主体的な参画意欲がなければなりません。また、週一回の授業であれば宿題は翌週までにこなせばよいのですが、6日連続1日105分×3時間の授業では、毎晩課題をこなさなくてはなりません。体調を整え、集中して取り組んでください。また、授業参画のために「ラベルワーク」を用います。双方向的、多方向的な授業になるので、活動的に楽しく取り組みます。

◆成績評価方法

平常点（毎回の「ラベルワーク」への取り組み）と模擬授業（教案作成も含む）の内容、および課題（「学びのプロセス図解」「学びのプロセスレポート」「自己評価レポート」の作成）を総合して評価します。教員

からの一方的な評価ではなく、相互評価を通して自己評価を行えるような授業ができるように、履修者自身もその方法を経験していきます。

科目 国語科教育法特論Ⅲ

2単位

担当 講師 鶴田正寿

2020年度から全面実施される小学校の次期学習指導要領では、5、6年生で外国語が教科として新設されることになりました。その方針に賛否両論がある中で、否定的な意見の典型として耳にするのが、外国語を教科化するより、母国語である国語を優先して学習すべき、というものです。しかし、その場合の「国語」とはそもそも何を指すのでしょうか。

他方、現行の指導要領から引き継がれる柱の一つに言語活動の充実があり、言語能力を育成する中核的な教科が国語科であるとされています。そうした状況下において、国語教育に携わろうという教員には何が求められるのでしょうか。

国語につきものの読解力は、従来の国語教育では、およそ暗黙のうちに、文学的文章を読み解く力と考えられてきました。それが、OECD生徒の学習到達度調査（PISA）が実施され、いわゆる「PISA型」読解力が云々されるにおよび、従来型の読解力では新しい時代の要請に応えられない、という批判が起きました。こうした批判が起こる背景に、教材の中心が「文学作品」であり、教科指導をするのが「文学好き」な教員である、という構造的な問題を看過することはできません。

本講座では、「読解」を中心とする国語のあり方を問い直し、「読む」「書く」「話す」など国語の基本となる行為の意味を、教育改革の動向を見据えながら実践的に考えていきます。以下に各回の計画を提示します。受講者の人数にもよりますが、第3回（2日目）以降は模擬授業の形態とし、具体的な授業展開に応じたトピックを取り上げるため、順序が前後する場合があります。これを心得ておいてください。

〔第1回〕「国語」教育の意味

〔第2回〕次期学習指導要領の動向

〔第3回〕現代文の扱い方

〔第4回〕古典の扱い方

〔第5回〕発問と応答

〔第6回〕論理的思考の構築

〔第7回〕板書の方法

〔第8回〕グループ学習

〔第9回〕資料の選択と利用法

〔第10回〕「PISA型」読解力

〔第11回〕国語改革の方向性

〔第12回〕教育現場の課題

〔その他〕課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

高校または中学用の国語教科書を手元に用意しておいて下さい。また、その中から任意の教材（授業が4～5時間で完結する教材であることを条件とします）を取り上げ、学習指導案を作成し、初日の授業に

持参してください。なお、次期学習指導要領は文部科学省のウェブサイトで公開されています。現行の指導要領とあわせて、受講前に目を通しておくことを勧めます。

◆成績評価方法

模擬授業（学習指導案を含む）、平常点（参加態度、授業評価票の提出等）、レポート課題（または試験）を総合して評価します。

科目 社会科・地理歴史科教育法特論Ⅲ 2単位

担当 講師 中間和洋

これから皆さんが社会科・地理歴史科の教育実習に行っていく上で、必要な教科指導に関する知識や実践的な技能を身につけていくことが本講座の狙いです。「社会科・公民科教育法特論Ⅲ」同様、教材研究の方法、授業案の作成、それに基づく模擬授業の実施、学生・担当教員を交えた意見交換と相互評価などを行います。また、受講者の人数によっては、学習指導案の作成事例、体験的な学習活動を生かした授業の在り方を探求する視点から、「社会科・公民科教育法特論Ⅲ」と合同で、大学キャンパス内や、周辺地域の見学なども実施する予定です。

- 〔第1回〕 ガイダンスⅠ〔社会科・地理歴史科の授業について〕
- 〔第2回〕 ガイダンスⅡ〔模擬授業のテーマについて〕
- 〔第3回〕 社会科・地理歴史科の内容構成
- 〔第4回〕 年間指導計画と学習指導案の作成指針
- 〔第5回〕 学習指導案の作成Ⅰ
- 〔第6回〕 模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅰ
- 〔第7回〕 模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅱ
- 〔第8回〕 模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅲ
- 〔第9回〕 模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅳ
- 〔第10回〕 模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅴ
- 〔第11回〕 模擬授業・学習指導案についての意見交換、相互評価Ⅵ
- 〔第12回〕 大学キャンパス内及び周辺地域のフィールドワーク、振り返り
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版、2014年）
各自PDFをダウンロードすること
- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』（教育出版、2014年）
各自PDFをダウンロードすること
- ・「文部科学省検定済教科書 中学校社会科または高等学校地理歴史科」分野・科目・出版社不問。

ただし、模擬授業を実施する科目・分野の教科書を用意してください。新規購入する場合は、教科書販売専門店で購入してください。東京では、「第一教科書」〔新宿区百人町 1-22-20、中央線大久保駅南口徒歩

1分、03-3363-2764〕で購入してください。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

「社会科・公民科教育法特論Ⅲ」同様、模擬授業等の演習中心の授業となるため、欠席や遅刻はしないでください。開講時の「ガイダンス」を通じて受講生に各自が担当する模擬授業のテーマを決めていただきます。教材研究、学習指導案の作成を進めていくために、実習予定科目、専攻分野等も考慮して、いくつかのテーマをあらかじめ考えておいてください。また、扱う科目・分野の教科書や副教材等は事前に用意してください。

◆成績評価方法

最終レポートと平常点（出席状況を含む）により評価します。平常点は、模擬授業に対する取り組み姿勢、学習指導案の内容、指導案に基づく授業展開、相互評価の観点、毎時間提出する小レポートなどによります。

科目 社会科・公民科教育法特論Ⅲ 2単位

担当 講師 太田正行

長年公立高等学校で社会科・公民科の授業を担当してきた経験を生かして、これから皆さんが行う教育実習に必要な教科指導等に関する知識や技能を実践的に身に付けることを目的としています。教材研究の方法、授業案の作成、それに基づく模擬授業の実施、受講生同士の相互評価などを行います。また、学外に出て地域巡検や資料館見学なども実施する予定です。

- 〔第1回〕 ガイダンス
- 〔第2回〕 社会科・公民科の内容構成
- 〔第3回〕 年間指導計画と学習指導案の作成
- 〔第4回〕 学習指導と評価
- 〔第5～第11回〕 模擬授業
- 〔第12回〕 まとめ

◆テキスト

- ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』（教育出版、2010年）
各自PDFをダウンロードすること
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版、2014年）
各自PDFをダウンロードすること
- ・「文部科学省検定済教科書 中学校社会または高等学校公民」分野や科目、出版社不問。

ただし、模擬授業実施予定の科目、分野の教科書を用意してください。新規購入する場合には、教科書販売専門店で購入してください。東京では、「第一教科書」〔新宿区百人町 1-22-20 中央線大久保駅南口徒歩1分（03）3363-2764などで購入してください。また、神田の三省堂本店でも一部の教科書は販売しています。

また、最新版の「学習指導要領解説」は文部科学省のホームページからダウンロードもできます。

◆参考文献

- ・日本公民教育学会編『公民教育事典』（第一学習社、2009年）
- ・日本公民教育学会編『テキストブック公民教育』（第一学習社、2013年）
- ・佐藤徹編著『新しい社会科教育法』（東海大学出版会、2013年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

模擬授業等の演習中心の授業となるため、欠席や遅刻はしないで下さい。最初の「ガイダンス」において、各自の模擬授業のテーマを決定しますので、専攻分野、得意分野、実習予定科目（分野）なども考慮し、いくつかのテーマを考えておいて下さい。また、扱う予定の科目や分野の教科書や副教材等は事前に準備しておきましょう。また、予定したテーマの資料等も事前に用意しておくとういでしょう。

◆成績評価方法

最終レポート及び平常点（出席状況を含む）により評価します。平常点とは、具体的には模擬授業への取り組み姿勢、授業案の内容、指導内容及び指導方法、受講生同士による相互評価、毎時間提出する小レポートなどです。

科目 英語科教育法

3単位

担当 講師 渋谷和郎

目的・目標

将来、英語教育に携わろうと考えている者を対象に、日本の中学校・高等学校の英語教師として最低限必要と思われる理論・技術/実践について学ぶ。

学習項目

- (1) カリキュラム ・目的論
 - ・カリキュラム ・学習指導要領 ・目的論
- (2) 学習対象言語論
 - ・教材 ・教科書
- (3) 学習者論
 - ・普遍的要因 ・個人的要因
- (4) 教師論
 - ・教授法
- (5) 評価論
 - ・評価論（授業評価・学習者評価） ・テスト論
- (6) 各論
 - ・Speaking ・Listening ・Writing
 - ・Reading ・Grammar
- (7) 実践論
 - ・指導案 ・模擬授業 ・授業分析
- (8) これからの英語教師・英語教育

授業予定（計18コマ）

- ・スクーリングの前半は、講義を通して英語科教育法の理論的側面を、後半は、模擬授業を通じて実践的な側面を学ぶ。
- ・授業では、参加者主体のディスカッション・アクティビティなども行う。
- ・模擬授業は各自1回（20分）を担当する。それぞれの模擬授業の後に、10分のフィードバック・セッションを行い、主観的・客観的に授業を振り返る。模擬授業では、参加者は自ら模擬授業を実践するだけでなく、他の人の授業評価も行う。

授業	内容	教科書該当箇所
〔第1回〕	Introduction・目的論	〔第1・2章〕
〔第2回〕	学習指導要領（1）	〔第3章〕
〔第3回〕	学習指導要領（2）	〔第6・9章〕
〔第4回〕	学習者論	〔第4・8章〕
〔第5回〕	方法論（1）	〔第5章〕
〔第6回〕	方法論（2）	〔第7・14章〕
〔第7回〕	教材論	〔第16・17章〕
〔第8回〕	評価論	〔第15・20章〕
〔第9回〕	模擬授業準備〔第12・18・20章・教案例〕	
〔第10回〕	模擬授業（1）（3名）	
〔第11回〕	模擬授業（2）（3名）	
〔第12回〕	模擬授業（3）（3名）	
〔第13回〕	模擬授業（4）（3名）	
〔第14回〕	模擬授業（5）（3名）	
〔第15回〕	模擬授業（6）（3名）	
〔第16回〕	模擬授業（7）（3名）	
〔第17回〕	模擬授業（8）（3名）	
〔第18回〕	総括・筆記試験	

◆テキスト

- ・望月昭彦編、久保田章・盤崎弘貞・卯城祐司著『改訂版新学習指導要領にもとづく英語科教育法』（大修館書店、2010年）、ISBN978-4-469-24558-5

◆参考文献

- ・高梨庸雄・高橋正夫『新・英語教育学概論』（金星堂、2011年）
- ・バトラー後藤裕子『日本の小学校英語を考える』（三省堂、2005年）
- ・バトラー後藤裕子『英語学習は早いほど良いのか』（岩波新書、2015年）
- ・白井泰弘『英語教師のための第二言語習得論入門』（大修館書店、2012年）

*その他、必要に応じて、授業の中で関連する参考文献を紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

予定表の講義項目に沿って、教科書該当箇所を事前に読んで授業に出席すること。

◆成績評価方法

- （1）出席15% （2）授業内活動10% （3）模擬授業（教案作成も含む）25% （4）筆記試験50%

科目 英語科教育法特論Ⅲ

2単位

担当 文学部教授 中村優治

将来、英語教育に携わりたいことを希望する者を対象としており、英語科教育法の理論の更なる理解と共に、言語テストの理論と実践をも生かした授業実践方法を研究します。授業は指導と評価の融合を念頭におきつつ、特に、言語テスト理論の説明とテスト問題作成実践を中心に展開します。受講者はお互いが提供したテスト問題例をテスト理論と実践の両面から分析し、よりよい評価、授業に向けて、アイデア、問題点の共有、問題の解決をめざして活発な討論をしてほしいと考えています。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 リスニングテスト理論講義
- 〔第3回〕 リスニングテスト問題作成、討論

- 〔第4回〕スピーキングテスト理論講義
- 〔第5回〕スピーキングテスト問題作成、討論
- 〔第6回〕リーディングテスト理論講義
- 〔第7回〕リーディングテスト問題作成、討論
- 〔第8回〕ライティングテスト理論講義
- 〔第9回〕ライティングテスト問題作成、討論
- 〔第10回〕統合的テスト理論講義（CLIL、EMIも含む）
- 〔第11回〕統合的テスト理論講義（CLIL、EMIも含む）
- 〔第12回〕総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

授業では毎回テスト問題を作成し、提示してもらいますが、あらかじめ4技能のテスト問題を準備しておいてほしいと思います。テスト問題はPCなどで授業時間外に作成、印刷しておいてください。PCが手元がない場合は、塾内ネットワークアカウント（＝ITCアカウント、有料）を取得しておいてください。

◆成績評価方法

最終レポートと平常点（出席状況を含む）により評価します。平常点は授業・討論に対する取り組み、毎回提出するテスト問題およびその内容などが含まれます。

科目 教職実践演習（中・高）

2単位

担当 教職課程センター教授 藤本和久

この演習科目は教職課程にかかわる専門科目の総括的な位置づけにあります。さまざまな実践場面を吟味・検討し、教師としていかに専門性を発揮していくのかを受講生各自が具体的に考察していきます。受講生の人数に応じてペアかグループで各回プレゼンテーションをおこなうことを基本とします。

〔第1回〕イントロダクション（講義）

演習全体の見取り図を示し、扱う文献や資料の解説とともに、具体的な教育実践事例を紹介しながら、あらためて専門的実践家としての教職をとらえなおします。

〔第2回〕教育実践を「解釈する」行為（講義）

具体的な実践事例（中学校の生活指導にかかわる実践）をもとに、教育実践を考察する際の視点などを共有します。またこの時間に各自の関心をもとにグループ分けも実施します。

〔第3回〕経験を通じて学ぶ（1）

初等教育の実践を通じて、学習者の素朴な問いから構成されていく授業を検討します。

〔第4回〕経験を通じて学ぶ（2）

第3回に準ずる。

〔第5回〕学校における共同性（1）

中学校の実践事例を通じて、思春期の子どもたちが学びや生活の場にかかわっていく条件や環境、さらには教師の意識の転換などを考察していきます。

〔第6回〕学校における共同性（2）

第5回に準ずる。

〔第7回〕教師の果たす役割（1）

子どもの学びが成立するために教師はどのようなスタンスで現場にのぞむべきなのか、また古くからいわれる「長幼一体論」の本質とは何かを初等・中等教育の実践事例から学びます。

〔第8回〕教師の果たす役割（2）

第7回に準ずる。

〔第9回〕現代的課題と向き合う学び（1）

震災、エネルギー問題、平和学習、環境問題、など大人が抱えてきた課題を子どもたちとともにどのように向きあう実践が創られてきたか、またあまりに大きな課題をまえに教育がなしえることはなにかを具体的な実践を通じて考えます。

〔第10回〕現代的課題と向き合う学び（2）

第9回に準ずる。

〔第11回〕特別なニーズを持つ子どもたちと学びをつくる

特別支援教育の課題を共有する。さらに、児童養護施設、院内学級、医療少年院、学習塾、フリースクールなど、そこではどのような学びがおこっているのか。学校教育のなかでもとくに教科教育に埋没しがちな日々をあえて相対化するためにもさまざまな学びの機会をとらえ検討していく。

〔第12回〕総括

第11回につなげながら、教職にとっての実践とはなにかを受講者で共有し、総括とする。

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

原則として教育実習（秋学期実習予定者はやむを得ないが）も終え、教職課程にとっては最終年度とみなせる段階でのみ、本演習の受講が許可されます。教育実習での経験（教壇実習のみならず観察についても）を省察するだけではなく、みずからの免許教科の領域や学校階梯をこえた幅広い視野をもって日常的に教育書に親しむことが望まれます。

◆成績評価方法

毎日、2回分の実践検討に対する事前の評論と、事後の評論をミニレポートとして要求するので、その蓄積と、演習でのプレゼンテーションやグループ討議への貢献・質などをふまえて総合的に評価を行ないます。

科目 英会話

1 単位

担当 講師 ヤング,ジェローム

Introduction to Debate. This is a course in English communication, focusing on communicative skills. In-class discussions will focus on learning debating skills and students will have many opportunities to debate on many controversial topics in English. Group and individual presentations will be a regular feature in this class. There is no textbook required, but preparation before each session will be necessary and a high level of participation is expected.

- 〔第1回〕 Introduction; Practice of Debate Thinking, Debate Procedures
- 〔第2回〕 Practice Debate # 1 : Women's Equality (female politicians in Japan)
- 〔第3回〕 Hat Debate (Quiz # 1)
- 〔第4回〕 Debate # 1 : Women's Equality; Practice Debate # 2 (2020 Olympics)
- 〔第5回〕 Mind Maps; Rebuttal Tennis, i.e. The Devil's Advocate
- 〔第6回〕 Debate # 2 : The Olympics should be abolished.
- 〔第7回〕 Hat Debate (Quiz # 2)
- 〔第8回〕 Debate # 3 : The Jury Trial should be abolished. (Debate Topic Selection)
- 〔第9回〕 Life Boat Ethics exercises
- 〔第10回〕 Debate # 4 (to be decided)
- 〔第11回〕 Balloon Ethics Debate (Thesis Worksheet)
- 〔第12回〕 Balloon Ethics Debate (Summary)

◆テキスト

指定しない。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

Regular on-time attendance, preparation of daily homework assignments, and active participation in class (using English at all times) .

When students have questions, they can ask me before, during, or after class, or via email (hayamajay@yahoo.com) .

◆成績評価方法

There will be continuous evaluation of a student's performance and progress in this class. Final grades will be based on attendance, active class participation, and timely completion of all homework assignments.